

ジョージ・アダムスキー「宇宙哲学」第01章 段落001 [2020-04-14]

1. DEFINITION001 Philosophy has been defined as the love of wisdom. A systematic general conception of principle as applied to a philosophy of life. The knowledge of the cause of all phenomena both of mind and matter. 第1章 定義001 哲学とは英知を愛することと定義されて来ました。それは人生観に適用される系統立った原理の一般的な概念です。また、それは心と物質の両面に関する全ての現象の因への知識でもあります。

【解説】 本日から「宇宙哲学」の講座に入ります。ご案内のようにアダムスキー氏は「テレパシー」「宇宙哲学」そして「生命の科学」という通称”哲学三部作”と称される3冊の哲学書を著しています。この内、「テレパシー」は具体的な能力開発を目指した著書として最初に3部作の本として出版され、その後「宇宙哲学」はそれらの原理を含めた宇宙におけるこれら想念・印象の作用やそれを支える諸法則を整理した著作と言えるでしょう。そして最後に出された「生命の科学」は学習者の通信講座として執筆されたものです。この内、「宇宙哲学」は各章の記述は簡潔であり、内容のエッセンスをまとめたものとなっており、私達が今後、どのような視点で宇宙を見て行くべきか、また想念・印象の持つ潜在能力をどのように考えるべきかを示しています。今後、私達が各自の体験の中で経験することが本来、そのような意味を持つか、或は宇宙の仕組みはどのようになっているかを整理する上で、本講座は多くの示唆を与えて呉れるものと思われま

002 Cosmic philosophy embraces the Universe conceived as an orderly and harmonious system complete in itself.

002 宇宙哲学は整然として調和が保たれ、それ自体で完結している一つの体系として理解される宇宙を奉じるものです。

【解説】 私達が学ぼうとしている宇宙の哲学とは、どのようなものかを講座を開始するに当たり、簡潔に述べられています。”宇宙哲学”とは、広大な宇宙を通じて一貫して流れる法則性やその調和した各要素のつながりを表現するものと言うべきでしょう。本来、無限に広い宇宙空間ですが、その何処にあっても等しく同じ法則性があることについては驚くばかりです。それは人知を超えた、言わば宇宙的法則が存在すること、また、その法則性を担保する者、即ち宇宙神とも言うべき創造主の存在を抜きに語ることは出来ないでしょう。私達は、こうした調和的世界の中で生かされており、広大で統制のとれた環境の中に生きているのです。

003 Our present perception of mind and matter must be expanded to the realm of Cause in order to understand and take our place in the class room of everlasting learning.

003 私達の現在の心と物質に関する知覚力を理解の為に因の領域にまで広げ、永遠の学習の教室における私達の席を手に入れなければなりません。

【解説】 これまでの私達地球人の探求分野は”物質”と”心”の2分野でした。しかし、本来の理解を拓げるには、これらの2分野の他に”因の領域”にも私達の知覚を拓げる必要があるとしています。物質（物体）については私達の目の前に目に見える存在としてある訳で、誰でも知覚出来ますし、心も自分の内側の諸活動として理解出来ます。しかし、因の領域については、自分の目では見ることが出来ない領域のものであり、容易に知覚することは出来ないのです。それに対して、如何にしてこれら因の領域に自らの知覚を拡張するかが問われているということでしょう。本講座を通じて、宇宙の法則や仕組みを学ぶことによって全容を理解し、各自の理解の幅を広げて行くことが求められているのです。

004 Observation is our greatest teacher but we must learn to see the Cause or the related purpose of all forms or manifestations.

004 観察は私達の最大の教師ですが、私達は因、即ち全ての形あるもの・創造の現れの相互に関連した目的を観るよう学ばなければなりません。

【解説】本項では「観察」の意義について定義しています。よく聞かれることは、私達自身が何か行動している時、その状況を丁度、客席から舞台上で演じている者を観るように、客観的な観察が必要だということです。ある意味、冷静に推移を見守るということでもあるでしょう。本項では更に深めて、私達の観察眼は現象の奥に存在する目に見えない因との関連を観ることを求めています。対象は自分でも他人でも良いのです。物事の生じた原因から作用の行く末まで、具体的な結果が現出する前に知覚することを意味しています。これは先の講座、「テレパシー」で学んだテーマですが、その能力発揮はこの分野で開花することになる筈です。仏教では多く「観」という言葉を用いますが、その「観」に対応するのが本項の「観察 (Observation)」です。

005 Principle, or source of origin, and nature's laws remain forever the same for they are immutable. Man's concept of the law expands as he desires to know more and more of his purpose in relation to the Cosmos.

005 原理、即ち起源の源と自然界の諸法則は永遠に同じであり続けます。何故なら、それらは不変であるからです。人のその法則に対する概念は、その人が自らの存在目的を大宇宙に関連して知ろうとすればするほど、拡がって行きます。

【解説】 私達にとって基本的に必要な要素は、宇宙的源泉に対する探求心です。現状の理解のまま満足するのでは進歩はありません。そもそも私達の生きる目的は何か、私達の理解を深めようとする中で、はじめて進化の道を進むことが出来るからです。本項は、私達に各自が宇宙との関係において如何なる存在意義があるのかを理解しようと自らの視点や視野を拡げることが求めています。そういう意味で、本書「宇宙哲学」が執筆されたように思うのです。進化の道は無限に広がっており、絶えることはありません。とかく地上の諸問題に追われがちな私達ですが、本当に手を離してはいけないのが、この宇宙に対する信頼であり、印象やインスピレーションの贈り主である創造主、宇宙の源の存在です。

006 Our neighbors on the sister planets of our solar system came to the realization a long time ago that every minutest particle in the Cosmos is inter-related with every other particle. Thereby in order to have even a small perception of the purpose of life, each phase must be studied in relation to the Whole. They shared a theory with all who were interested and gradually theories grew into facts as they explored further and further and unified all life. A humble reverence and love for All Knowing Intelligence as It expressed in every living form became their inspiration. Human relationship and behaviorism was taught to their children to aid them in individual expression of their own divinity.

006 私達の太陽系の姉妹惑星群上の隣人達は、遠い昔に大宇宙の中の一つ一つの極微細な粒子も他の一つ一つの微粒子と相互に関連しているとする認識に至りました。それ故、生命の目的に対する例え小さな理解を得るためにも、一つ一つの側面を全体との関連において学ばなければならないのです。彼ら是一个の理論を関心のある者全てと分かち合い、次第に諸理論は、彼らが進んで探求し、全ての生命を統一するに至って、発展し、諸事実になったのです。一つ一つの生きる形あるものの中に表現されている全てを知る英知に対するつつましやかな敬愛が彼らのインスピレーションになりました。人間関係と行動主義が彼らの子供達に、自分達自身の神性の表現を助けるため、教えられました。

【解説】 日本語の表現に、“お蔭様で”という言葉があります。多くなお世話になった方々への近況報告に用いられる言葉ですが、同様の趣旨で、自分の身の回りのあらゆる存在に対し、その人知れず受けた恩恵に対して感謝する意図も含んでいるものです。こうした理解の深さは本項で言うあらゆるものが密接に関係しているという教えにもつながっています。もちろん他惑星人は更に深い理解を持っている訳ですが、私達自身の根底にも同種の理解が流れているということでしょう。この理解こそ私達が自然を観察し、科学を探求する目的です。多くの発見が為され私達の知識が深まるにつれて私達自身は各自でこれらの知見を「自らの心境の進化に生かす必要があるのです。

007 The following lessons I humbly present with the hope that they may act as stepping stones in your quest for knowledge.

007 以下に続く教課を、私はそれらがあなたの知識への探求の道における踏み石として役立つことを願いながら、謹んで贈呈するものです。

【解説】 各自の進化の道を示すという意味で、この”踏み石”のたとえは、著者アダムスキー氏のこのような講座への思いが良く表現されています。世の中には、これまで様々な考えがあり、本当に各自の最終目的地に続いているものもあれば、途中で迷いの森の中で行き止まりになる道も残念ながら多いのです。そういう意味では著者が責任を持って各自をゴールに導くことが重要となる訳です。本講座は本文にあるように私達が日々、一歩ずつ踏みしめることがやがては各自のゴールにつながることをここに宣言しており、その毎日の進歩に役立てていただけることを望みとしているものです。

2. Introduction

The Truth about Truth008 Political factions are clamoring against each other for the right of opinion; philosophers and scientists are arguing about the truth of their various theories; all over the world conflicting thought centers are springing up, each professing itself the only dispenser of the absolute truth and man finds himself wondering just what is truth. 2 まえがき真理についての真実008 政治の党派達は互いに意見の正しさを巡って大声を出して主張し合っています。哲学者達や科学者達は自分達の様々な理論の真実性について議論しています。世界中で互いに争っている思想の諸々の中心が急速に出現し、互いに自分だけが唯一絶対的な真理の提供者であると明言しており、人はただ、何が真実であるか知ろうと思いを巡らせているのです。

【解説】本書が執筆された当時、地球世界はいわゆるイデオロギーで分断され、互いに敵対していたことを覚えておられる方も多いことでしょう。その後はご案内の通り社会は揺れ動いており、最近では新たな感染症の拡大も加わって、人々の不安が増えています。果たして地球人類が現状の困難を克服できるか、予断を許さない状況、新たな危機に面していると言えるでしょう。本文に戻れば、指摘されているように所詮、正当同士が自らの主張のみを正しいものとし、相手を非難する手法は、平時においても危機においても役立つものではないということでしょう。とりわけ、「真理」に対する意見は互いに自我の主張を高めるだけのもので終わってしまいがちです。そもそも主張する本人が理解できていない中で、相手より優位に立とうとするだけでは人々を導くことは出来ないのです。実はこれまでの経験が各自で異なる以上、一人一人が宇宙の真理を学ぶ道は人によって異なるように思うのです。各自に合ったルートを探して各々山頂を目指すべきなのです。そういう意味で審理への道筋を整理した本講座が有用と言えるのだと思います。

009 As long as man has been in existence I suppose he has sought for truth without recognizing it when he had it firmly in his grasp.

009 人間が存在するようになってからというもの、人間は自分自身の手の中にしっかりそれを握っていたにも拘わらず、それに気付かず、真理を求め続けて来たように私は思います。

【解説】 古代より私達は自然界に流れる諸法則を学び、また私達自身を統制する原理を知ろうと努力して来ました。その結果、科学技術の発展した今日でも私達の生活に宗教は深く浸透している他、世界中でそれら諸宗教の間の争いが生まれています。即ち、この真理という点で、私達は未だに普遍的な理解という境地に達していません。おそらく本書の元となる他惑星文明の理解度からすれば、古代人も現代人もほぼ同程度の精神レベルであり、場合によっては古代の地球人の方が真理についてより深い理解をしていたと思うかも知れません。現代の私達は得られた科学知識を物質・物体を製造する為に活用する手法は優れているのですが、一方の精神面ではむしろ退化し、劣っているのではないかと思うのです。それらを挽回する為にも精神的な知識をここで整理する必要がある訳です。

010 Many generations ago when the Roman Empire was at the height of her glory and the weight of her dominance was felt by a host of people there arose in her midst a master mind who said to those oppressed, "You shall know the truth and the truth shall make you free." And the people eager for deliverance, cried out, "The truth! Give us the truth that we may be free!" They were told the meaning of truth but they could not comprehend and so we hear the echo of those words and of the billions like them quivering down the ages with an insistent appeal - "The truth! what is truth?"⁰¹⁰ 何世代も前、ローマ帝国が栄光の絶頂にあって、その支配の重圧が受け入れ側の人々によって感じられていた時、その只中に抑圧された人々に「あなた方は真理を知り、そして真理はあなた方を自由にするでしょう」と言った一人のマスターの心の持ち主が現れました。そして抑圧からの救出を求める人々は、こう叫びました。「真理！私達が自由になれる真理をお与え下さい」と。彼らは真理の意味を教えられましたが、彼らは理解できず、私達は以来、何世代も揺れ動くひとつの一貫した訴え、「真理！真理とは何か？」という言葉のこだまや何十億という類似した声を聞いています。

【解説】最近、本文の「真理はあなたを自由にする」という言葉が、ヨハネによる福音書 (8:32) に由来することが分かりました。再び、使徒ヨハネの記述からの引用です。長年、アダムスキー氏が使徒ヨハネであったとされて来ましたが、もし、そうであればイエスの傍らに常に居て、その言葉が発せられた際のイエスの真意を理解していたことも納得出来ます。既に同乗記等でお分かりのように、イエスは地球救済の為に地球に生まれて来た訳ですが、その計画はおそらく地球の歴史において、極めて大きな意義を持つものであり、その教えの重要さは色あせることはありません。こうした中で「真理」を学ぼうとする私達は再び、このイエスの言葉にあるように真理を学び、自由になる必要があります。言い換えれば、2000年余の昔に伝えられたイエスの教えを具体的にここから学び直す必要があるのです。

011 And for every such questioning voice there is another calling, "Follow me, I alone can give you the real truth!"
And blindly the people follow, little knowing or understanding the purpose of life.

011 そしてこのような疑問の声の一つ一つに対しては、「私に従いなさい。私だけがあなたに本当の真実を授けることが出来るとする、別の呼びかけがあります。そして人々は生きる目的を少しも知ることもし理解することもなく、盲目的に従うのです。

【解説】 よく言われるように”偽預言者”は多いものです。本人はそう思っていなくても、十分に理解しないまま”自らの教義”を広め、集まってくる人々を指導することは、いわゆる”盲人が盲人を導く”結果にもなりかねません。そういう意味では、道を求める私達は慎重であらねばならないのです。実はこのUFO問題に関してもそれが真実であるが故に、多くの勢力が侵入し、様々な手段を駆使して妨害活動を行って来ました。その最たるものがUFOの推進力に関する研究分野です。その他にもアダムスキー氏亡き後の一連の混乱の中には様々な勢力の動きがあったことは、私自身、直接アダムスキーの協力者であった方々から伺っています。もちろん、これら勢力に対して、私達自身が自らの力で自らの進む道を選択し、歩みを進めるなら、その歩みを止めることは出来ません。これからは一人一人が自らの判断で自らの道を選択し、進むべき時代になっているのです。

012 So to you of this present day - you who have acquired much knowledge of many things, I ask, "What is truth?"012 そこで、多くの事柄の知識を多く得て来た今日のあなたに、私は問い掛けます。「真理とは何かと」

【解説】 時や場所に関わらず成立する法則、私達全ての生命体はその原理に従って動いている法則こそ、真理と呼べるものでしょう。その真理の存在に気づき、目覚めたことを”悟りenlightenment”と表現する訳ですが、その悟りについて著者は私達に問いかけています。実はその悟りが無ければ、先々、師から教えられる内容を理解することは難しいということでしょう。先ずはその入口として各人が真理についてどのように考えているかを整理するよう求めているのです。

013 Those who are idealistically inclined will answer, "It is reality!" And those who are founded upon a cold scientific basis will answer, "Fact." Others will say that truth is that which is opposed to untruth or is that which is good. To those who gave the first two answers I shall say you are correct so far as you have gone but I shall proceed to catch you in a net of your own weaving. The latter answer that truth is that which is good is utterly misconceived and evasive.

013 理想的な傾向がある者は、「それは現実だ」と答えるでしょう。また冷徹な科学的基礎に立つ者は「それは事実だ」と答えるでしょう。他の者達は真理とは偽りに対立するものだ、あるいは良きものだと言うでしょう。その最初の2つの回答を出した者については、私はあなた方がそう言う限りにおいて、あなた方は正しいと言うべきでしょう。しかし、私は更に進んであなたをあなた自身の編目で捕らえようと思います。一方、真理とは、良きものだとした後者の回答は全くの誤解であり、言い逃れです。

【解説】 私達一人一人がここで「真理とは」について自分自身に問いかけることから始める必要があるという訳です。少しでもそれに時間をかけるなら、私達自身、ほとんどそのような課題を考えることなく、これまで毎日をごして来てしまったことに気付くことでしょう。この真理について突き詰める姿勢は、実は大きな意義を持っているのではないかと思います。つまり、ある程度の年齢を重ねると人はこのような追及の心境は薄れ、専ら自己の保身や延命のことばかり考えるようになり、内向きの思考ばかりになってしまうからです。それこそが現在の高齢社会の問題であり、常に新しい課題に向けて挑戦、追及する姿勢が必要とされるのです。また、そのように宇宙を貫く原理を学び取ろうとする姿勢こそ、私達が永遠の生命に至る基本的な要件と言えるのです。

014 Let us, therefore, get down to real analysis. Just what is the truth about truth? You have said that it is Reality and if I were to ask you to define reality you would be compelled to admit that it is that which has actual existence, and yet you speak of the real and the unreal. You have a set standard for Reality. Does not everything that is known have apparent existence? How else should it have become known?014 ですから、真の分析に取り組みましょう。真理についての真実は何かということに対して、あなたは真理とは現実だと先に述べましたが、もし私が現実を定義するようにあなたに問えば、あなたはそれは実際に存在するものだと認めざるを得ないでしょう。そしてあなたは現実と非現実について話していることになります。あなたは現実性に対して固定化した基準を設けていることになります。しかし、これまで知られているもの全ては、明白に存在していないのでしょうか。そうでなければ、どうして知られるようになったのでしょうか。

【解説】日本語ではTruthを真理と訳出されています。しかし、原文のTruthの語感には”真実や事実、真相”という意味があり、その延長として”真理・原理”という意味が出ているのです。これら言葉の定義については、私達日本人には何故、そこまで厳密に区分するのか理解しがたい面もありますが、この点については欧米人の気質によるものも多いと思われます。いずれにしても私達が長年、追い求めて来た真理とはどういうものかについて、著者は私達一人一人にその理解内容を問うている訳です。もちろん私達は未知なるもの全てを奉ってはいなりませんし、神秘の中にうずもれさせてはならないのですが、全て白日の下に明らかにならない限り、真実とは言えないとする”合理主義”には限界があるということでしょう。私達は目に見えない叡智の存在にこそ気付くことが求められているのです。

015 What of those that say truth is fact - explaining further that it is that which can be proven. Let me ask you this - proven to whom and by what and for how long? Again you must have a set standard of discrimination. Must it be proven by man's laws or theories that have already been given recognition? Then you are putting a limitation on truth. Must it be proven to all people or only to one who is able to see beyond the perception of his fellow-men? Proof can only go so far as a man will accept and truth to each man is only that which he has experienced either by mental realization or physical expression, and yet truth is universal. It is the sum total of action. Every smallest quivering frequency in the whole cosmos is truth - true because it perpetuates action. I shall bring all of my statements down to a perfectly logical, matter-of-fact foundation.

015 真理とは事実であるとする者達の言うことは、更に推し進めれば、それが証明され得るものだけということです。このように質問させて下さい。誰にそして何によって、またどれくらいの間、証明されるのかと。ここでもまた、あなたがたは差別のための固定化した基準を持っているに違いないのです。それはこれまで既に認められた人間の法則や理論によって証明されなければならないのでしょうか。そうであるなら、あなたは真理にある限界を置いていることになります。それは全ての人々にあるいは仲間の者達より奥先を窺うことが出来る者のどちらに証明されなければならないのでしょうか。証明とは人が受け入れるまでのものであり、個々の人にとっての真理はその人がかつて心の自覚あるいは肉体の表現によって体験したことではしかありません。しかし、真理は宇宙普遍のものです。それは行為の総計です。全宇宙の中の個々の極微の震える振動は真実です。それが永続する活動であるが故に真実なのです。私は私の論述を全て完全なる論理的で事実即した基礎に基づいて書き起こすつもりです。

【解説】 本項で著者は永続する活動こそが真理であり、真実であることを私達に説いています。私達はこれまで自分達が作り上げた文明や学問こそが真理であるとして来ましたが、宇宙的に見ればそれらは極く限られたものに過ぎません。宇宙開闢の昔から宇宙空間には永続する諸活動があり、小は素粒子から大は星雲の動きまで、共通の法則の下、絶え間ない動き、生命の息吹があるということでしょう。こうした活動は私達人間の思惑とは離れたところに準拠し、包括、連動しているものと思われます。それらの内容を本講座において著者の理解内容を逐次解説して行くと言及されているのです。

016 Most of the world's intolerance is due to the misconception of truth. Men fight to death for their individual concept of it when a little wisdom would show them that they are only a step apart in the same hall of learning, but due to the fact that every individual intelligence has a slightly different degree of understanding, truth to each is slightly different. Intolerance is a mark of ignorance, for a developed intelligence is able to view sequences of action that shows each separate action to be relatively true. And because all sides of a question are understood he is bound by none. This type of intelligence does not condemn those who see only one phase of the whole truth. Instead he will point out the pitfalls or limitations that follow the course of thought that the individual is indulging in.

016 世界の不寛容の大部分は真理への思い違いに起因しています。人々は自分達が同じ学びの会堂で互いに一歩だけ離れていることをわずかな智恵が示す時、自分達各自の概念の為には死に至るまで戦うのです。しかし個々人の知性は理解においてわずかず異なるために、各自にとって真理はわずかず異なります。不寛容は無知の印（しるし）です。何故なら進化した知性には個別の行為が相対的に真実であることを示す行為のつながりを観ることが出来るからです。そして一つの疑問に関する全ての側面が理解される為、その者は何ものにも囚われることはありません。この種の知性には全体の真理の内、わずか一つの側面のみを見る者を非難することはありません。代わりにその個人がふけている思考の道程に続く落とし穴や限界を指摘することでしょう。

【解説】 世界には未だにイデオロギーや主義主張、更には宗教観の相違があり、互いに相手を批判し、自分達こそが正しいとの主張を繰り返しています。典型は政党間の議論でしょう。とにかく相手の不備を突き、欠点を暴き出すことで自分達の存在意義を大衆にアピールしているからです。同様に宗教の相違により、他人を殺戮することが平気で行われることが、今の地球の現状なのです。こうした混迷の時代にあつて私達は今一度、遠い2千年以上も前に地球を訪れたイエスや仏陀の言葉に立ち返って、自ら考えなおす必要があるでしょう。増長してしまった自我（エゴ）を諭し、互いの中にある尊厳ある存在を認め合う風土に再構築しなければなりません。その際に必要な寛容さは、私達自身に既に創造主から溢れるほどに、受けている訳で、それらの一部を相手に分け与えるだけで良いのです。

017 Truth is action - the whole action of which every part is true. Small truths lead into greater truths and one small truth cast out as false can block the progress of a civilization, as has been shown by the history of the past.

017 真理とは活動です。あらゆる個々の部分が真実である活動の全体です。小さな真理はより大きな真理へと導き、偽りと投げ捨てられる一つの小さな真理も、過去の歴史によって示されて来たように、文明の進歩を妨げる可能性すら持っています。

【解説】 かつて中世のヨーロッパでは宗教が社会を支配していました。人々は聖書の教えを盲目的に信奉するあまり、自ら自然界を探求する人達を異端として迫害していたのです。ガリレオ等、多くの科学者が攻撃され、文明が低迷した事実を私達は忘れてはなりません。そういう視点から、著者は自然界にある全ての活動を、先ずはありのままに受け入れよと説いているのです。小は分子・原子による一つ一つの小さな活動が積み重なり、連動して大きな自然のサイクルが形成されていることを、読者に観るように説いているのです。

018 Because men do not understand the meaning of truth and are therefore intolerant, there has been a span of over a thousand years of scientific darkness that might have been used to bring the slowly evolving civilization to a higher standard of human expression.

018 人々は真理の意味を理解しない為に、そしてそれ故、不寛容である為に、何千年もの長きにわたり科学的に暗黒であった時代がありましたが、そうでなければ、その期間、この緩慢な進歩の文明に、より高度な水準の人間の表現をもたらしたかも知れないのです。

【解説】ここでは著者は前項に引き続いて、中世における宗教による暗黒時代が私達の文明の進化を妨げることになったと指摘しています。その原因として「不寛容」の要素を私達に指摘しているのです。そこで重要なのは不寛容さが人々全体にも大きな悪影響を及ぼす原因と説いていることです。このことは現代でも中東地域の宗教を原因とする争いが該当しますが、日本でも戦前の軍国主義の進展の中でクーデター事件など、その後の庶民の暮らしを戦争に導くことになってしまったこと等、枚挙にいとまはありません。現在でもラオス等の仏教国では寺院に立つ仏像は両方の手のひらを参列者に示す印相を見せることで、「争うな」と諭していると現地では伝えられています。争い事からは何も生まれないことを仏陀が身をもって教えていたということでしょう。同様に「右の頬を打たれたら、左を差し出せ」とはイエスの言葉ですが、ともに私達に寛容さを求めていることは重要です。

019 "You shall know the truth and the truth shall make you free." And the truth is that all things are true - true in a relative sense, I grant you, - relative to all other parts, but until men recognize and give due consideration to the Cause of all actions they will never be free. Only in uniting our efforts, acknowledging a common purpose can we bring civilization to a unified state of understanding and progress.

019 「あなた方は真理を知ることでしょう。そしてその真理はあなた方を自由にする筈です」。その真理とは全てのものが真実であるということ、相対的な意味において真実であるということであり、私としては全ての他の部分との相関性においてとあなた方に認めましょう。しかし、人々が全ての行動の因を認め、当然支払われるべき考慮を払わない限り、彼らは決して自由にはなれません。私達の努力を結集し、一つの共通の目的を認めることにおいてのみ、私達は文明に統合された理解と進歩の状態をもたらすことが出来るのです。

【解説】 やや結論的に言えば、先ずは全てを是とするということでしょう。全ては同じ宇宙の法則の下に成立している為です。しかし、一方では昨今の新型コロナウイルスのように、私達に害を及ぼす為だけの存在もある中で、私達は現実をどのように考えたら良いかという課題もあることも確かです。しかし、長い地球の歴史の中で、いつかはこのような現状を総括し、その仕組みを明らかにする日も来るものと思います。問題は私達が自身の理解を何処まで拡げ、一つ一つの活動の意味を学び取るかにあると考えるものです。本文では全ての活動（行動）の原因、即ち理由や意義、作用に至る仕組みを学ぶことの大切さが説かれています。私達の一つ一つの理解を深め、互いの関連を学ぶことが真理に近づくことだと説いているのです。

020 Truth is like a great picture puzzle - a mosaic, as it were, and each man's individual expression is a part of the total composition. The mature individual realizes life as a succession of duties to be performed. Because there are diversified concepts of life does not mean that only one can be correct. No, all are true. Whatever is conceived in the mind of man is true to him for the moment just as every act of nature is true whether it be of creation or disintegration. Man's ideas may be used unwisely because he has not enough knowledge to use them constructively in relation to other truths, but that does not mean that the results establish a fact.

020 真理とは巨大なジグソーパズルのようなものです。丁度、各個人の表現はその全体の構図の一部になっているモザイク画のようなものです。成熟した個人は生命とは達成されるべき義務の連なりと認識しています。生命についての多様化した概念がある為、一つだけが正しいとすることはありません。いえ、全ては真実なのです。人の心の中にどのような事柄が思い浮かぼうとも、それが創造的であるか、崩壊の性質であるかに関わらず、その瞬間、その人にとってそれは真実なのです。人間のアイデアはその者が他の諸々の真理に関連してそれらを建設的に用いるだけの十分な知識を持たない故に、誤って用いるかも知れません。しかしそれは、その結果が事実を打ち立てることを意味するものではありません。

【解説】 本校ではこのように私達が真理に近づく過程をジグソーパズルに例えています。私自身、ジグソーパズルをトライしたことはありませんが、その膨大な断片からいきなり全体の絵をくみ上げることは出来ないことは分かります。おそらくは断片を並べて見て、自分が判別出来る断片の組み合わせを先ず作り上げた上で、その後、再びその他の組み合わせの可能性について見渡すものと思われれます。ここで大事ななのは、自分が組み合わせた数片を先ず固めるということでしょう。つまり、自分が理解出来た事柄を先ずは固めた上で、他の要素を探求するという訳です。その結果、それまで自分が理解出来た組み合わせ（関連性）をより大きな絵（ビジョン）に組み上げることで、最終的な原画が仕上がるという訳です。一つ一つの理解をより大きな理解に繋げる作用が真理への道であると著者は説いているのです。

ジョージ・アダムスキー「宇宙哲学」第02章 段落021 [2020-05-12]

021 Our purpose in life, then, is not personally judge between the true and the untrue but to so coordinate our own being with nature that we may unite the knowledge of Cause and Effect.

021 そこで私達の人生における目的は、真実と真実でないもののどちらかであるかを個人的に裁定することではなく、私達が因の知識と結果を結合させられるよう、私達自身を自然と調和させることにあります。

【解説】私達が生きる目的は、物事の真偽を区別するのではなく、私達自身を如何に自然に順応させ、物事の背後にある因とその現れについての知識を関連付けるかにあると説かれています。言い換えれば、前項に述べられていたジグソーパズルを組み上げた時のように、目前に現れる現象の一コマ一コマを互いに関連性を見出しながら、それらの意味を学び、よりスケールの大きな宇宙観を造り上げることが期待されているように思うのです。

3. THE MAGNIFICENT PERCEPTIONPRELUDE

022 The roll of the tides and the waves and the rising and setting of suns, the whirling of atoms and worlds are all tuned to the Cosmic Plan yet are subject to time and to space. 第3章 壮麗なる知覚序章022 潮汐や波のうねり、太陽達の出や入り、原子や世界の旋回は全て、宇宙の計画に調律され、しかも時間と空間とに従属しています。

【解説】 本文を読む際、いつも思い浮かぶのは映画「コンタクト」における主人公が時空を超えて辿り着いた地球に似た惑星で、亡くなった父親と邂逅するという場面です。夜、波が打ち寄せる海岸であり、輝く複数の月が出ている美しい情景です。著者アダムスキー氏はこうした惑星の状況をイメージして私達に伝えているものと思われませんが、それは外でもない地球のことでもあり、他の惑星の日常の風景ということでしょう。自然をありのままに慈しんでいけば、自然界はこのように調和した美しさを表現するのです。こうした姿を後世に打ち立てる為に、私達地球人はこれまで自分達の欲望のままに自然を破壊して来たことを悔い改め、本来の姿に戻さなければなりません。その為には、少しでもかつての姿を残す地球本来の自然を学び、その中に永続する真善美なる要素を見出す必要もあるのです。

023 Time is the instrument used to measure the movement of Beings - the element action creates in its path from the formless to the formed. In Eternity always you are, but in time you're unstable, inconstant.

023 時間は存在物の運動を計るために用いられる道具であり、その基本的作用は形無きものから形あるものへの道筋の中で、創造的な働きをします。永遠の中ではあなたは常に居ますが、時間の中ではあなたは不安定で変わりやすいのです。

【解説】 仏教で“無常”という表現がありますが、本校はそれに類似した概念を示唆するものと思われます。時間（即ち歴史）の中であって、あらゆるものが移り行く訳で、確固たるものは何也不会あります。石や地中深くの鉱物でさえ、動きを持ち、変遷しているのです。ましてや多くの存在に依存し、関連している私達の肉体は時間の流れの中であっては、移り行くことを避けられるものではないということでしょう。しかし、現実（物質）世界にあっては常ならぬ身ではありますが、以前、著者アダムスキー氏が述べていたように、月の満ち欠けは単なる影の部分の反映しただけのもおんで、月は依然としてまるい存在であることに変わりはありません。私達は各自の拠り所を時間に支配されることのない永遠に続く存在、各自の魂の本源に置いて、自身の人生を歩み、学習し続けることが肝要だということです。

024 Sit here at the center of all and look out on your flux of expression. As the moon to the vision of man passes through all the various phases yet remains still an orb complete without change or point of division, so you through your phases shall pass; mortal eyes shall see change and division yet you are a circle complete - you're endless, eternal, abiding.

024 全ての中心であるここに座って、あなたの絶え間ない表現の変化を見渡しなさい。人間の視覚にとって月は様々な位相を通じて変化しますが、それでも変化や如何なる分けも無く、それは完全な球体のままです。あなたも様々な位相を経ることでしょう。死すべき肉体の目は変化や区分を見るでしょうが、それでもあなたは完全な円（まる）のままです。あなたは絶えることなく、永遠で不変です。

【解説】

アダムスキー氏は幼年期に秘かにチベットに渡ったと伝えられています。それがアダムスキー氏の初期の頃の活動名がロイヤル・オーダー・オブ・チベットとされていたことにも関連することでしょう。

そういう意味では本項の描写は仏教の座禅にも似た観察を私達に促しているように思われます。先ずは自分自身を中心として見える諸々の世界の中に不変の真理を見届けよと説いているのです。

こうした姿勢はまずは自分自身の中に本質を見出しながら、周囲にそれと関連する諸事象の中に一体化出来る存在、触れ合え、相互理解出来る存在を知覚し、自らをこれまでの殻を超えて拡張させるような仏教的な修行の方法が説かれているように思われるのです。

025 Look forth from these eternal heights, from the heart of your unified being; look down towards the plains of desire where your destiny finds its fulfillment. Look closely and firmly perceive that the break which you one time envisioned is nothing but mortal illusion; that there is but the unified whole.

025 これら永遠の台地から、そして一体化したあなた自身の中心から前を見なさい。あなたの運命がその成就を見出す望みの平原を見下ろしなさい。よく見て、あなたが一時、心に描いた割れ目は人の思い違いであること、そして一体化した全体のみが存在することもしっかり気づきなさい。

【解説】

”永遠の台地”に私達が立てるなら、眼下に広がる盆地にはこれから私達が歩むことになる道筋がはっきり見えていることでしょう。その道を目で辿れば、各自がやがて巡り合うことになる様々な状況も手に取るように分かるというものです。

こうした未来を見つめる中で著者は良きにつけ悪きにつけ、あらゆる物事は一体化したものであり、他と切り離されたような分断状態ではないと説いているのです。辿る道の途上には平坦な道もあれば、ぬかるんだ道もあることでしょう。そうした中で各自が人生を歩むことになるのですが、それも各々が繋がっていて、意味のあるものであると説いているのです。そして重要なことは、私達が常にこのような高みに自分自身を置くことであり、正しい自分の進路を見失わないことなのです。

026 Always you are One, you are All, as a centralized point of Being. Undying, unchanging - the Consciousness, Cause, and the Action - evolving, transmuting a form to a unified state of awareness.

026 存在の集中化した一点として、いつもあなたは一つであり、全てです。あなたは不死、不変の意識であり、因であり、また進化し、一つ形あるものを統一化された知覚状態に変える行動なのです。

【解説】

本文第3章は、はるか下方を見下ろす台地に一人座禅する修行僧のように何か仏教的な雰囲気をもたらすものとなっています。私達が自分自身や自然界を見つめる時、どのような心境であるべきかを著者が示唆しているということでしょう。

私達が自分自身に向き合う時、それはこれまでの自分の歩みを振り返る中で、自分自身が恵まれた存在、即ちすべての存在によって慈しみを受け、奉仕された上に乗って生かされてきたことを学ぶ必要があります。また同時に私達の行動がそれらの恩に報いる形で発現されなければならないことも重要なポイントです。

私達自身の肉体は移ろいやすく変化は免れませんが、その源である”意識”とは本文中の”一つであり全てです”に表現されているように、変わるものではなく、死滅するものではないと説いています。各自の生涯において少しずつこの意識なるものを理解し、私達自身をその統一的知覚状態に進化させることだと説いているのです。

027 From action to action you pass like a great shuttle weaving new patterns - on the loom of Eternity weaving a pattern of beauty called Life. The fine silver thread which you use is Cosmic Consciousness, binding together each stitch in true lines of perfection; creating in patient evolvement the unified Love Mantle of All. Each thought and each conscious emotion weaves the Pattern of exact direction, in time uniting the parts and the Allness, absorbing the All in the One.

027 行動から行動へとあなたは新しい模様を織る大きな杼（ヒ）のように過ぎ去ります。あなたは永遠という織機の上で生命と呼ばれる美の模様を織っています。あなたが用いる細い銀の織り糸は宇宙の意識であり、それは極致の真実の線の一つ一つの編み目を結び付けています。そして辛抱強い進化の内に、全てのものに対する統一された愛の外套を造り上げます。想念の一つ一つ、意識的な感情の一つ一つが寸分たがわぬ方向に模様を編み進め、やがては各々の部分と全体とを結合させ、全てを一つに吸収させるのです。

【解説】

最近、チベット仏教のタンカという掛け織物を購入しました。いわゆる庶民の為のもので高級なものではありません。中央に如来が、左右に菩薩が雲に乗る構図で描かれています。実は、このように織物は一つ一つの糸がたて糸と織り込まれながら一枚の布を織り出し、一つの絵画を造り出すことから、私達一人一人の日常の生活がその人の人生を紡ぎだす仕組みの象徴として描かれるものと思われま

す。一瞬一瞬の私達の行動がそもそも何によって生まれ、如何なる成果を生み出すのか、本校で述べられている所謂機織りのたとえの意味するところは深いものがあります。

ここで注目したいのは、私達各自は織機の杼（シャトル）のように行動することが重要であり、その行動が本文で言う銀の糸（宇宙意識）を各自の紋様に織り込まれることによって、最後は作品として仕上がるということでしょう。毎日の私達の行動がなければ布は織り上がりません。

THE WORD

028 In the beginning there was but the Word: no mortal mind can know the Word in full for it contains all knowledge and all Power, and only that which is Itself the Word can know or understand potentially. But through a mighty action the Word was imaged into primal form; in form so fine that only Cause could know its attributes or view its being. It incarnated through the whole of substance and impregnated all matter with Its presence till in the place of a tremendous void there grew the second or the form-creation.

大いなる言葉

028 原初は大いなる言葉のみがありました。如何なる人の心もその大いなる言葉を完全に知ることは出来ません。何故なら、それは全ての知識と全ての力を含んでいるからであり、大いなる言葉自身がそれを知り、理解し得るからです。しかし、ある壮大な行為を通じて、大いなる言葉は最初の形態に描かれました。それはあまりに繊細で、因のみがその性質を知り、あるいはその存在を観ることが出来ました。物質全ての中にその存在が宿り、そしてついには巨大な空虚の場所に第2の創造、即ち形あるものの創造が生じました。

【解説】

本文は聖書のヨハネ福音書の冒頭を引用しているものですが、その「言葉」についての説明内容には、日本神道で言う「言霊（ことたま）」と似た意味合いがあることに驚かされます。

平たく言えば、私達が発する言葉の一つ一つが属する想念衝動の中には創造的要素があり、物事を現実世界にもたらす大きな作用を有しているということでしょう。それ故、自分が実現して欲しくない事柄については、わずかの思いすら心に入れてはならないし、ましてや言葉として発することは厳にはばからねばならないのです。

私達は自ら発する言葉、自ら文字として表現することについては、それがその後自分の周囲に実現することを十分に自覚する必要があります。

また一方、世界は圧倒的に創造主による言葉が全てを仕切っている訳で、私達にとってはそれら創造主の言葉（想念波）に耳を傾け、共鳴することが最優先事項となるのです。

029 Virgin was this creation in the image of the Word, and filled with all the power of pure wholeness, for it was but one great united form, the body of Cosmic Cause whom we in reverence have called "The Word."

029 乙女とはその大なる言葉のイメージに創られた創造物でした。またそれは、全ての無垢な完全さの力に満ちていました。何故ならそれは一つの偉大な形、私達が敬愛して「大なる言葉」と呼んで来た宇宙の因の肉体であるからです。

【解説】

神社において巫女が祭祀の舞いを奉納する等、古来から乙女を神聖な存在、創造主の表現そのものと尊ばれて来たことと本校で著者が説く内容は一致しています。

私達人間は、元来、汚れない存在として生まれ来たものであり、その息吹を伝え、表現する存在が乙女たちということでしょう。そこには争いはなく、素直に生命本来の姿が表現されているのです。

昔の言葉に“真善美”という表現がありますが、私達一人一人それらを表現しようとする時、各自の体内からこの「大なる言葉」が発現し、私達に変化をもたらし、その目的を成就させようとするのです。

030 Throughout all space the Word reverberated; It set in motion all the Primal Essence until the whole span of Infinity swayed to the Heart-beat of the Mighty Oneness. Rhythm on rhythm rose and fell in one great undivided harmony, for deep within the bosom of the Word there surged the wondrous Love Song of Creation.

030 全宇宙にその大いなる言葉が鳴り響きました。無限の広がりの中でその力強い一体感の鼓動に従って揺れ動くまで、それは全ての基本的存在を揺り動かしました。律動に次ぐ律動が起こり、また過ぎ去りました。何故なら、大いなる言葉の胸の奥深く、創造の素晴らしい愛の歌が沸き上がったからです。

【解説】

宇宙始原の昔、如何にして万物が生み出されたのかを本項は示しています。宇宙空間を埋め尽くした各分子原子に対し、大いなる言葉による振動（鼓動）が響き渡り、遂には調和ある音楽のようにこだまして各々の微粒子に作用し、その持つイメージに沿って創造作用が起こったという訳です。

天地創造はかく起こったと著者は私達に説いている訳ですが、同時に各々の創造物はその波動を宿しており、その形はその波動を表しているとも言えるのです。

前項（029）で乙女が大いなる言葉のイメージに沿って創られたとしているのは、宇宙始原の頃、こうして生まれたことに由来しているのです。また、このことを現代的に言うとなれば、その創造の際の大いなる言葉の波動が各自のDNAに記憶され、代々引き継がれるということでしょう。

031 Greater and greater the Heart of Space was stirred until at last the Song was breathed into a living thing. Each motion as an elemental tone within the mighty symphony and every tiny particle of substance was tuned into accord with every other unit in all space. And thus the impulse of Cosmic Will became a law that ne'er can broken be within the scope of everlasting action. (This Law involves the principle of true affinity.)

031 大きく、また更に大きく宇宙空間の中心は揺り動かされ、遂にはその大いなる歌は一つの生けるものに吹き込まれました。その力強い交響曲の中の基本的な調べの中の一つ一つの運動と、物質の一つ一つの微粒子は全宇宙のあらゆる他の単位と調和させられたのです。そしてこのようにして、宇宙の意思は永続する活動の範囲の中で決して壊れることのない一つの法則になったのです。（この法則は真の親和性の原理を含んでいます）

【解説】

創世記にはチリで作ったアダムに息を吹きかけることで生きものとなったと記されています。チリである個体粒子に呼気を吹きかけることで、その個体が生けるものとなったとする表現の中には、私達が想像する以上の深い意味合いがあるのかも知れません。

もちろん私達自身、自分が生きている或いは生かされていることは各自の心臓の鼓動や毎回の呼吸によって確かめることができます。つまり、創造主など見たことがないと言われる方々も自分の心臓や毎回の呼吸こそが自らの力ではなく、創造作用を表す生命の証であることに異論はない筈です。これら生かされている事実を自覚することこそが宇宙哲学学習の第一歩であるということでしょう。

032 Were it possible for any of the Cosmic vibrations to unite contrary to this Primal Law and cause a discord in the mighty paeon their span of such expression would be contained within one moment's quivering vibration, for discord cannot last within the Whole whose very fact of being rests upon the immutable law of harmony. There is no loss of equilibrium within the scope of Cosmic Rhythm that shall not be again absorbed and reunited into Wholeness. For nothing can break the Melody that has forever throbbled within the Heart of That which is, Itself, Infinity.

032 仮にその宇宙的振動のどれかが、この基本法則に反して結合することが可能であったとしても、また、その力強い音節に不協和音をもたらしたとしても、それらの表現の範囲は、一瞬の震える振動の中に封じ込められることでしょう。何故なら、その存在の事実そのものが不変調和の原理に基づく全体の中では、不協和音は継続することは出来ないからです。宇宙的リズムの中では、再び全体性に吸収され、再統合されないような均衡の喪失はありません。何故なら何物もそれ自身、即ち永遠の中心で鼓動しているメロディーを壊すことなど出来ないからです。

【解説】

私達の存在それ自体、本校で言う宇宙的振動と調和しているが故に、存在を続けていられるということでしょう。それら肉体の細胞が本来の振動を保てなくなった時、私達は肉体の死を迎えるということかと思えます。

即ち、生きている存在にこそ、宇宙的な振動を表現している故に宇宙的な価値があるという訳です。これは春の芽吹きや新緑の若葉等、生命力を発現しているものに、私達が惹かれまた美しさを感じる背景にそうした波動こそが宇宙普遍の振動であり、私達もそれらと同町したいとする本来の欲求に基づいているのです。

宇宙の中で永続するのは圧倒的な力を有しているこれら宇宙的力場であり、こうした振動です。私達が”意識に従う”、”印象に従え”と説かれるのは、こうした宇宙を貫く調和的な振動に共鳴同調して、託された役割を全うせよと望まれているからです。

033 Creation as a whole makes up the song that rises and falls in its impassioned cadence, expressing in the glory of calm Silence all that the Word has been, is, and shall be; voicing with soundless sounds and formless beauty the pulsing force that blends and inter-blends into new rhythms. The Breath of the All-Creative Intelligence is sent forth in peaceful, silent tones of consciousness and in the womb of illimitable space each new creation stirs with quickened life and becomes another true note in the endless Song of Action.

033 創造作用は全体としてその感動的な抑揚の上げ下げのある歌を作り上げ、大いなる言葉がかつてそうであった、また現にそうであり、未来もそうであろう静寂な沈黙の栄光の中で、音無き音と形無き美しさで新たなリズムに融合し、再融合する脈動する力を表現しています。全ての創造的英知の息吹は平穏で無音の意識の抑揚の中で発信され、無限の空間の子宮の中でそれぞれの新たな創造が奮い起こされた生命とともに起こります。そして終わり無き行動の歌の中でもう一つの真の調べとなるのです。

【解説】

これまで私達はテレパシー講座における想念波動といい、多くを波動や振動として表現して来ました。日本古来の神道における言霊も同様な意味合いを示唆しています。そしてその究極が本項で説かれている創造作用に伴う”歌”の誕生ということなのです。

大いなる創造の時に原子や分子達が宇宙的生命力に共鳴し、創造に向けて活動する時、創造主の意図に呼応したリズムや音階が生まれ、一大音楽が生成されるという訳です。

それこそが教会での讃美歌の意義であり、私達が波動に耳を傾けよとされる由縁です。こうした宇宙空間に流れる創造力ある音階を体内に取り入れ、自らもそれらの活動に参画することが宇宙との一体感の醸成に繋がるのです。

034 Out of Cosmic Cause are worlds and planets whirled into existence; out of such formless beauty has evolved form upon form until at last there came one form so perfect in its geometric pattern that it possessed the possibilities of understanding Cause. And so into this form was poured the Breath which speaks the rhythm of creation into being, and it was given power to perceive all existence; and it was also blessed with power to name that which before had been but nameless.

034 宇宙の因の中から、諸天体や諸惑星が渦を巻いて誕生しています。このような形の無い美しさの中から、次々に形が進化し、遂にあまりにその幾何学的パターンが完全である為、因を理解する可能性を持った一つの形あるものが出現しました。そしてこの形あるものの中に創造のリズムを語る大いなる息吹が注ぎ込まれました。そしてその形あるものは全ての存在を知覚する力を与えられたのです。そしてその形あるものはまた、それ以前には名前が無かったものに名付ける力を授かったのです。

【解説】

本項は創世記の人類誕生の様子に符号した内容となっています。即ち、宇宙始原の時、膨大な宇宙空間にあった塵が集中、集約し、それぞれ天体を創り出し、そこに究極の創造物として人間が形成されたという訳です。

これらの状況は今でも外宇宙の各地に渦状の星雲が見られることによって、その後も絶え間なく進行していることが分かります。こうした中、私達の地球においても恐竜の時代から次第に生きものの形が進化し、現在では人類が支配する惑星となったということでしょう。

私達が造像物に名前を与え、宇宙における体系の中に位置づけることは、本来、最高位の創造物であるが故の特権と言うべきであり、私達が自然をより良く理解する為に与えられたものとも言えるのです。この惑星の将来を委ねられた中で、如何にこの惑星を本来の美しい姿で維持して行くかが、私達に問われていることでもあるのです。

035 And this creation, highest of them all, was known as Man, born out of That which has no ending; given dominion, consciousness and love and power over all the lesser things. But he descended into depths of sleep, became unconscious of the vaster kingdoms, forgetful of the Glory that exists and dreamed, instead, into existence, the changing image of mortality.

035 そしてこの全てのものの最高位の創造は人として知られ、終わりなきものの中から誕生したものとして知られました。それは全てのより下位のもの達への統治、意識と愛そして支配力を授けられました。しかし、人は眠りの奥深く身を落とし、広大な王国を自覚せず、存在する栄光を忘れてしまい、代わって移ろい行く死すべきイメージを夢見て存在させてしまいました。

【解説】

重要なことは私達は未だ眠りから覚めておらず、自らに与えられている恵みに気付くことなく、移り行く死すべきものを真実であるかのように思い込んでいるということです。

以前、何処かの会合の中でアダムスキー氏は創造主がアダムにイブをめとらせる際、アダムを眠らせその肋骨からイブを創ったとされる創世記を引用し、男性は未だ眠ったままだと周囲の者を笑わせたことがあります。本文はそのように私達が惰眠の中にあり、真実の美しい環境に気付いていないことを説いています。

これは仏教でも同様で、仏教には「悟り」（覚醒）という表現があり、まずは覚醒を学び取ることが求められますが、その覚醒後に私達が自覚すべきは本項で説かれているように、私達は皆、最高位の創造物として多くの権限と能力を授けられていることを十分に自覚し、永続する宇宙的生命の中に生き続けることであるとしています。

036 Oh, Son of God and Son of Man, lift up all things within your sight; let your heart make known that which the sight doth not reveal and from the womb of Cosmic Cause which is the source of all creation awaken into the birth of a Magnificent Perception. Awaken into the realm of true Being. Let the strong fingers of your will draw you again into full consciousness. Rise from your earthly couch of slumber and perceive the beauty of your present Existence.

036 ああ、神の息子、人の息子よ、あなたの視界にある全てのものを高揚させなさい。あなたの心に視覚は真理を現さないこと、そして全ての創造の源である宇宙の因の子宮から壮大な知覚の誕生が覚醒されることを知らしめなさい。真実の存在の王土の中に目覚めることです。あなたの意志という強い指であなた自身を完全な意識の中に再び引っ張り入れることです。あなたの地球でのまどろみの長椅子から立ち上がって、あなたの現在の存在の美しさを知覚することです。

【解説】

このところは新型コロナウイルス感染拡大の影響から、しばらく在宅勤務が続いていますが、運動不足解消の上から、毎朝散歩を続けています。その中で毎日通る道の街路樹の若葉を眺め、既設の移ろいの中で様々な花が咲いて行くのもめでる等、本講座の本旨である自然観察にも役立っているようです。

こうしてある種の非日常の下で過ごしていると、私達が暮らす地上はまだ、自然豊かであり、各々の創造物は力を惜しむことなく、精一杯の活動の中に生を送っていることが分かります。そして本来、私達人間はこうした他の創造物を庇護し、その行く末を見守る責任があることに気付きます。

これら諸法則を学び、自らの知覚力を因の領域にまで拡げることによって、より大きな力を発揮するべきであると、本項で著者は私達に説いているのです。

037 This planet earth that we call our home was brought into its present state of being through that cosmic law of affinity, the great magnetic principle of attraction, and all that therein grows and multiplies is of the one and only Cosmic Power.

037 私達が母国と呼ぶこの地球という惑星は、親和の宇宙的法則、偉大な磁氣的引力の法則を経て、今日の状態になりました。そして地球の中で成長し繁殖する全ては、唯一無比の宇宙的パワーによるのです。

【解説】

確かに元来は宇宙空間の中にあった塵が今日の惑星にまで結合・集結した訳で、その源の力に対し、本項では偉大な磁気原理と表現しています。また、その力は引力とも言われるものですが、地殻深く岩石を溶かす程の高温・高圧の状況を創り出す等、私達が棲む惑星の全てを支えているのです。

こうした一連の動きは地表に暮らす私達には気づきにくいことですが、実はこの惑星の今後を左右する大きな影響力を持っている訳です。それ故に著者は宇宙を学ぶ時、宇宙哲学の道を探求する際に、こうした本来の物質間の吸引力についてしっかり知覚せよと言っているものと思われま

す。また、以前にある人が地上の人々が持つ日常の想念レベルが地殻変動に影響を及ぼすと忠告したことを思い出します。ソドムとゴモラの昔に遡るまでもなく、地上に暮らす人々がその地の地殻運動を左右することに留意しておく必要があるのです。

038 Each form that with our mortal eyes we view is but a point of action in the whole - a minute bit of elemental substance moving to ever changing patterns and designs; impelled and impregnated with all-abiding consciousness. There is no tiniest unit in the Whole that does not bend an ear to the Law which Fathers it and causes it to be. And all that we perceive with mortal eyes and know with our consciousness is but the effective image of the Cause Intelligence, which formless is, yet causes forms to be; which knows no limitations and no bonds yet creates transient dense conditions that move and change within the bosom of incomprehensible Eternity.

038 私達が肉眼で見る個々の形あるものは、全体の中の一点の活動でしかありません。絶え間なく変化するパターンとデザインに移行する基本的な物質の小さな小片であり、全てを永続させる意識によって促され、受胎されたものです。全体の中でそれを生み出し、そうなる原因を成す法則に耳を傾けないものは如何なる微細なもの一つとしてありません。私達が肉眼で見、そして私達の意識で知るもの全ては、形なきものであるが、形あるものを作り出す因なる英知の結果としてのイメージに過ぎません。その因なる英知には制限も制約も無く、しかも無限の永遠の胸の中で移行し変化する過渡的な密度状態を作り出しているのです。

【解説】

あらゆるものが永遠なる進化の過程の中の移行期にあるということでしょう。私達は全て一連の過程の只中にあり、変化を遂げつつある訳です。これは”諸行無常”ということでもありますが、従前の解釈とは異なるのは、明るくより大いなる進化の途上という肯定的である点に注意しなければなりません。

重要な点は本文で著者はform（形あるもの）と表現していることです。即ち、物質から構成されている創造物を示しており、これは私達の棲む惑星も含めて、形あるものを指していることです。言い換えれば形になっていないもの、因との言えるような存在について、例えば想念・印象については本項では触れていないのです。このことは私達自身の真我や想念・印象その他はこれら形あるものでは別に、因の領域に属し、永続する存在ということになります。

039 And every unit in the whole of Being, each atom and each spark of consciousness reveals without a mark of limitation, if we but seek its heart, the perfect image of Infinity. And each of the little passing points of action which we in earthly terms have labelled time, speak within the moment of their being the fullness of Eternity. Just as the drop of water from the ocean reveals the character of that from which it came; and every sunbeam traveling through space reflects the composition of the sun and revibrates the image of that orb in all of the glory of its full expression.

039 そして大いなる存在全ての中の一つ一つの単位である各々の原子と各々の意識のスパークは、もし私達はその本質を求めさえすればその永遠に関する完全なイメージを一点の制限もなく、私達に明かしてくれます。そして私達が地球的な用語として時間と名づけた行動の小さな通過点はそれらの存在する瞬間の中で永遠の全てを語ります。丁度、大洋の水の一滴がそれが来たものの特徴を現し、また宇宙空間を旅した太陽光線の一つ一つが太陽の構成物を反映し、その球体のイメージをその完全なる栄光の表現の全てにおいて再現するようにです。

【解説】

毎朝の散歩の道すがら、時には前夜降った雨も止み、朝日が輝くすがすがしい空気の中、多くの奇跡的な光景に出会うことも多いものです。中には松の生垣に伸びた多数の若芽の先端に露の雫がとどまっている中、それらの全てが朝日を受けて輝く光景は朝の散歩ならではのご褒美と呼べる美しさです。これら輝く無数の宝石は皆同じ虹色に輝き、透明な丸い水滴に太陽の光が虹色に分かれ輝きを放つ等、一つ一つの小さきものが与えられた恵みを精一杯表現しているのです。本項はこうした情景をも説いていることでしょう。

040 We, as children of the Cosmos, are in the process of reflecting the understanding of our Source. All action is the echo of the Word as It passes through the vast arcades of space, and in Its passing creates time and form.

040 宇宙の子供である私達は、私達の源泉に対する理解を反映する過程の中に居ます。行動は全て大いなる言葉が巨大な宇宙空間のアーケードを通過する際のこだまであり、その大いなる言葉が通過の際に時間と形あるものを作り出すのです。

【解説】

確かにネアンデルタール人等、先史時代の人骨の復元増等を見ても、私達現代人は少しずつ進化を遂げて来たことが分かります。内面の理解が本人の外形にも影響を及ぼして行くということでもあります。形あるものはそうした因と呼ばれる見えない波動の表現物ということかと思われま

す。そういう意味で言えば、長らく修行を続けられた高僧には高貴なすがすがしさがあ

りますし、同様なことはアダムスキー氏が逢った他惑星の人々についても言えることでしょう。また、本文では言葉が宇宙空間の中を移動する過程で形あるものを創り出すという表現があります。私達の概念では、地上は固定したものですが、実際には惑星自体自転も公転もしている訳で、全てのものが高速で宇宙を旅している最中にあることを自覚して置く必要もあるのです。

041 We must open our eyes of consciousness and view in all Its magnitude and beauty, the living, breathing image of the Word.

041 私達は自分達の意識の目を開いて、その全ての壮大さと美しさの中に生き生きと息づく大いなる言葉のイメージを見なければなりません。

【解説】

私達は自らの環境や自身の肉体や魂について、よく知らないまま、或いはよく知ろうとしないまま、怠惰に過ごして来たと言うべきでしょう。本項では私達を取り巻く大いなる言葉の意義について学ぶとともに、それらを人間が言葉として表現し得ない始原のイメージの段階の力が空間を通過することで、諸々の変化や創造の動きをもたらすことを理解することが肝要です。

言い換えれば、静止したものには力はなく、私達自身も含めて常に活動的であれということでしょう。そうした活動的な真の姿を私達は積極的に見るように努力すべきということです。

THE NAME

042 The Word is changeless, whole and complete. The Name personifies the Word - divides Its vastness into many parts, gives place and form to each and every part and power of utterance in an auditory state. The whirling mass of substance called the Earth is to the mortal ears a mighty name, for on its surface humankind evolves and learns a tongue with which to speak the Name of That which in Itself is nameless, yet Earth shall change and pass away in Time, to reunite within the Cosmos. The Word has always been, will always be, the Name has a beginning and an ending.

名前

042 大いなる言葉は変化することなく、全てであり、完全です。名前はその大いなる言葉を個人化し、その広大さを多くの部分に分割し、各々の部分に場所と形を与え、耳で聞こえる発声の力を与えています。地球と呼ばれる高速で回転する物質の塊は人間の耳にとっては強大な名前です。何故なら、その表面で人類は進化し、それ自身名前が無かった大いなるものの名前を話す言語を学んでいるからです。しかも地球は変化を続け、時間経過の中では、宇宙の中で再統合するため、亡くなります。大いなる言葉は常にあり続け、将来もあり続けますが、名前には始まりと終わりがあります。

【解説】

とかく言葉 (The Word) と名前 (The Name) について混同しがちな私達ですが、ここではその違いについてよくよく学ぶ必要があります。

即ち、The Word (言葉) と著者が説いているのは、いわゆる言語としての言葉ではありません。より深淵で宇宙空間においてあらゆる創造の源としての創造主の想い、いわば“想念波動”とも言うべき力強い存在を意味しているのです。

一方、それを音声に私達が表現する時、その示唆する具体的対象物に与えられるのがThe Name (名前) ということになります。この名前を活用することで私達は創造物の内容を詳しく学び、その構成要素の相互関係を知ることが出来る訳です。

しかし、その源となる惑星もやがては崩壊の時を迎え、元来の宇宙のチリに戻ることになるのだと著者は説いています。壮大な宇宙のドラマの一幕の舞台に私達も立役者として立っている訳ですが、それもやがては散り散りになる再生の道を歩むことになるのだという訳です。

それ故にこそ、私達が重視すべきは、この永続する言葉を理解することであり、各々の場所のみで通用する名前にこだわるべきではないということでしょう。

043 The Word has never given forth a Name and never shall, for in such act would lose its endless and eternal state of Being. But Man, to whom free-will and power was given, who slumbers deep and dreams his mortal dreams, has in his waking moments labelled action and given name to consciousness and form. His eyes at first were dim with mortal slumber; he saw but vaguely through the mist of sleep, and only felt the coarsest of frequencies that shaped the holy substance into form, but those he named so he might build a memory of parts to guide his future waking states, for only by such means can he evolve to recognition of Cosmic Allness.

043 大いなる言葉は決して名前を發したことはなく、今後もないでしょう。何故ならこのような行動を行なえば、その終わりのない永遠の存在状態を失うことになるからです。しかし、自由意志と力を与えられ、深くまどろみ、自らの死すべき夢を見ている人間は、目覚めている間、行動にラベルを付け、意識そして形あるものに名前を付けて来ました。その目は最初は死すべきまどろみで霞んでおり、人は眠りの霧の中でかすかに見るだけで、形あるものに聖なる物質を形づくった振動の最も粗いものを感じるだけでしたが、自分が名付けたものに対して、人は将来の目覚めに導く役割を持つ記憶の部品を作ります。何故なら、この手段によってのみ、人は宇宙の全体性を認識するよう進化出来るからです。

【解説】

そもそも何故私達人間に諸々の創造物に対して名付けることが許されているかについて、本項は解説しています。

元来、宇宙の創造において名前は必要ではありません。大自然の中に分類されておらず名前もない多くの動植物が存在します。わずかに探求者が森に入り、新種の動植物を発見できたとニュースになる程度が地球のレベルであるのです。

名前（学名）が無くても、それらの種は何ら影響なく暮らしており、名前を必要とするのは、人間の側の論理に過ぎないのです。

しかし、重要なのはこの名前を付けるという意義は、ひとえに人間にとってその理解を助ける為であると説かれています。分類学とは自然を私達が理解する為にあるという訳で、宇宙や自然を理解しようとする上から活用すべきものということです。

044 Little by little man's awareness of that which he encounters expands, and clearer grows his vision till at last his conscious awareness beholds the transcendent Cause behind the Name.

044 自ら出会う中で少しずつ人の気付きは拡がり、次第に自らの視野を済ませ、その意識の気付きを成長させて遂には名前の奥の超越的因を見守るまでになります。

【解説】

私達が物体の背後にある超越的な因に対してどのように知覚するようになるか、本項では間欠に述べています。

それは私達自身の訓練の結果として少しずつ拡がって行く私達の知覚力なのですが、それはある意味、感性の拡がりと言うことも出来ます。つまり、私達の側にその能力が高まれば、それ程に物体の背後にある因なる要素、例えば印象や想念波動等、物質に作用し、その形あるものを創り出した原因を知るようになるという訳です。

そもそも私達が日常精進するのは、こうした想念・印象の感受性を高める為であり、万一、次第に感性が低下するような事態があれば、それは退化の道を転げ落ちている証拠と言えるのです。

045 Out of the Primal Essence has come forth, charged with the Power of the Word, the manifested utterance of Cause. The planets, worlds, the moon, the stars and suns, the leafing trees, the song bird and the rain, the beasts, the crawling reptiles and the dew, each in its own tongue expresses the Word. But man has given unto each a Name and it is there that his attention lies. Manifestation has become his God and he has placed the Name above the Word, which nameless is and silent and unseen yet causes all the named things to be.

045 原初の本質から大いなる言葉のパワーを授けられて、因の現れとなる声が生み出されました。惑星、天体、月、星々そして諸太陽、葉を繁らす木々、さえずる鳥や雨、獣達、地を這う爬虫類、草露、それらの各々は各自の表現方法でその大いなる言葉を表現しています。しかし、人は各々の名前を付け、それに自分の関心を置いています。創造物が彼の神になってしまい、人は名前が無く、無音で、見えず、しかも名付けられた全てのものをもたらした大いなる言葉よりも、名前を大切に考えてしまいました。

【解説】

森羅万象、創造物は皆、それぞれの表現方法で自らを通じて表現された創造の息吹を精一杯、体現しているのです。

それに引き換え、万物に名前を付けることを許された人間は、その名前に囚われて、それら生きもの達の表現を見て学ぶことを止めているのです。元来は地上に名前など無く、全てが区別なく一体化したもののなのですが、私達人間の目には一つ一つが分かれた存在になっているという訳です。

そういう意味では、私達は互いに名前や民族、国籍等の区別を取りやめ、より広い世界の中で万物と融合した生活を目指すべきものであるのです。

RELATIVITY

046 Matter manifests as an effect of the Cause impulse that rises from the Word. As a pebble dropped in the center of a still pool will send an impulse through the whole clear mass and stir its farthest boundaries into motion, so was the Primal Substance caused to vibrate by the Cosmic Impulse. And as the nearest wavelets are finer than those at the ultimate extreme so is the substance close to the heart of Creation finer than that upon the outer edge. Each impulse of the Word that has manifested in the realms of matter has evolved into its formed state of being through a primal motion or centralized impulse, out of which grew a heavier motion, swelling to greater perceptibility. The primal frequency goes into expansion without the smallest loss of energy.

相関性

046 物質は大いなる言葉から起こった因なる衝動の一つの結果として現れます。静止した池の中央に落とされた小石はその透明な物体の塊全体に一つの衝動を伝え、その最も遠い境界に運動を促すように、宇宙的衝動によって原始の物質は振動させられたのです。また中心に近いさざ波は最極地のものより精緻であるように、創造の中心に近い物質は外側の縁のものより精緻です。物質界で創造作用をもたらした大いなる言葉の各々の衝動は集中化した衝動の主要な行動を通じて形ある存在状態に進化し、そこからより重い行動、より大きな知覚作用に拡大しました。その主要な振動数は少しのエネルギーの損失もなく、拡張しています。

【解説】

止水明鏡という表現がありますが、万物創造の状況はこのような静まり返った世界であったということでしょう。そこに創造主の言葉が響き、中央にその響きによって波の源泉が形成され、以降、万物の隅々にその作用が伝搬されて行ったという訳です。

そして遂には物質界に形あるものとして万物が創造されたという訳です。即ち、万物はこのオリジナルな波動の一つの表現形態になっているのです。そしてその源泉の創造主の言葉から形あるものの形成までには、私達が知らない様々な段階があるということでしょう。全ては最初の言葉を表現したものであるのです。

一方、池に落とした小石が作る波紋のように、作用（エネルギー）が伝搬する様子は自然のものです。地球人が人を殺傷する為に用いる爆弾、とりわけ原子爆弾の破裂力はこれら創造と真逆の破壊行為の象徴であることが分かります。創造に敵対する勢力を象徴する以外、何の役割もない、愚かな行為であるのです。

047 We know that in the pool of clearest water the first wave that was started, in its passing, gave to the next its force and animation. And that, in turn, imparted added motion unto the following molecules of water. Without the unity of the whole mass no particle could know the primal action. The cosmos is like unto the pool from out whose center flows the rhythmic motion - it is the clear calm sea of undivided consciousness upon whose surface there arises innumerable wavelets of vibration. Each form, in turn, contains the same - beginning with one basic impulse evolving to countless particles of motion, each one attuned unto the primal urge. Again, each tiny central point of action is offspring of the Great Heart of motion. To the understanding of the mortal man these countless points of action are perceived as separate entities within the varied kingdoms. Upon the earth man gives the name of mineral unto the denser substance that he sees; a little higher is the vegetable, and then there comes the animal and fowl, which leads up to the consciousness of man who separates the Allness into parts and draws a line where no such line could be, for through the whole vastness of the Cosmos the Primal Impulse incarnates itself and as the ripple in the pool gave up itself to create something greater, so does each manifested form of each kingdom release itself into evolvment. The innumerable minerals give up their impulse to plant life, the plant, in turn, releases energy unto the higher consciousness of flesh. There is nothing that can live alone, nor any spark of energy destroyed. All impulse lives and acts eternally, passing from form to form and in its passing charges all substance with emotion and creates ripples on the Sea of Being.

047 私達は透き通った水からなる池の中で、始まった最初の波は進む中で隣にその力と行動を与えていることを知っています。また、そのことはそれに続く水の分子に運動を伝達することでもあります。全ての物質の一体性が無ければ、如何なる粒子もその原始の行動を知ることは出来ませんでした。宇宙とはその中心からリズムカルな運動が流れ出る池のようなものです。それは表面に無数の振動するさざ波が起こる、分裂の無い意識からなる清澄な静かな海です。各々の形あるものは、今度は同じものを含んでおり、無数の粒子の運動を展開する一つの基本的な衝動から始まり、各々はその始原なる衝動に調和しています。更に各々の小さな行動の中心は運動の偉大な中心でもあります。死すべき人間の理解にとって、これらの無数の行動の中心は様々な王国の中での分離した実体のように受け取られます。地球に対して人は自分が見るより密度が高い物質を鉱物という名前で名付けますし、より高次なものを野菜、そして次に動物や家禽類等が入ります。これらは人間の意識にまで至りますが、それは全てを部分に分け、本来、そのような区別のあり得ない所に線を引いています。何故なら宇宙全体の広大さの中に始原なる衝動が化身し、池のさざ波のように自身をより大きな何かを創り上げる為に捧げているからで、各々の創造された形あるものは進化の為に自身を解放しているのです。無数の鉱物が植物の命の為に自分達の衝動を捧げ、植物はより高次の肉体的意識にエネルギーを放出しています。独りだけで生きて行けるものは何一つありません。また、破壊される如何なるエネルギーの火花もありません。全ての衝動は形あるものから形あるものに移行しながら生き続け、永遠に行動し、移行する過程で全ての物質に感情をみなぎらせ、実在の海にさざ波を創り出すのです。

【解説】

本項は宇宙における創造作用がどのようにして機能しているかを私達に説いています。

静置した水面上を波が周囲に伝わるように、私達創造物は主なる創造主の意向を体現し、次なる者に伝えなければなりません。この伝播の過程で、植物は動物を養い、またその動物も他の者を養う等、様々な形で互いに繋がっているということでしょう。

本来は鉱物や植物、動物もその存在の意義に差異はありません。宇宙における全ての構成員は、この同じ宇宙創造の波動の体現者、伝達者であるのです。

048 Substance is in the process of evolvment; consciousness, in the process of expression. Up and down the vast scale the force moves rapidly into expression, touching one particle of matter, then another - blending the two or more into a chord of harmony, just as the fingers of a man pluck music from the mute strings of his harp. To produce a perfect melody the strings must be set in motion many, many times, making new tonal combinations - now soft and low, now rising to crescendo; one time in rapturous swinging rhythm, then changing to a lingering minor key - all strings awaiting the touch that stirs them to life within the melody. Each string is vital to the total Song.

048 物質は進化の過程に、意識は表現の過程にあります。広大な規模に上下しながら、力は表現に向けて素早く動き、物質の粒子一つ一つに次々に触れながら、二つあるいはそれ以上の粒子を一つのハーモニーの和音に融合します。丁度、人の指がハープの沈黙した弦から音楽を弾き出すようにです。完全なメロディーを作り出す為には、弦は何度も何度も揺り動かされなければなりません。その結果、新しい音色の組み合わせを作り出します。柔らかで低いトーンから、今度は最高潮に上昇します。ある時は熱狂的な律動的なリズムで、次はなごりを惜しむ短調の調子に変化します。全ての弦はそれぞれをメロディーの中で命を掻き立てる演奏者のタッチを待っているのです。弦の一つ一つがその歌全体にとって無くってはならないものです。

【解説】

私達各自の役目が本項ではハープの弦と表現されています。つまり音楽の一つの曲を構成する上で、ハープの弦の1本も無くては完全なる音曲を造り出すことは出来ないこと、また奏者の指先に従って、弦自体がその弦固有の音を表現出来なければならないのです。

意識とはこうした内から沸き起こる表現の原動力のことであり、物質はこれら創造の衝動を表現する役目を担っているのです。

また、このことは私達人間が互いに異なる才能（音）を有しており、それらのいずれも同等な価値と役割があることに気付きます。そして重要なのは、曲が演奏されている時には、奏者（創造主）とハープの弦が発する音曲は一体化しており、両者の区別はないということです。

049 So it is with the Song of Creation - each atom of substance is used eternally, now making up a rose bush or a tree; now mingling within man, now in the beast; descending into form and then once more ascending to invisibility; expressing through fire, water, earth and air, and ether finer than man can know; from the coarse pulsation that produces stone to a motion higher than the speed of light; from radiation down into vibration and back again the Primal Essence moves. From the formless into densest matter and back again into the higher state, each atom relative unto all others, cooperating and exchanging places.

049 ですから、物質の原子は創造の歌と一緒に用いられており、今はバラの茂みか木を作る為、また今は人体の中で混合され、あるいは今は獣の中に混じっています。形あるものに降下し、次には再び目に見えない存在に昇華します。炎を通じて、あるいは水、大地や空気そして人が知っている以上の精緻なエーテルを通じて表現されています。また、石を作り出している粗い振動から光の速さより高い運動に至るまであります。放射線から低下して振動に至るまで、そして再び原初の真髄は動きます。形なきものから最も密度の高いものまで、また逆に、より高次元な状況にまで、各原子は他の全てとの関連において協力し合い、互いに場所を交換しています。

【解説】

宇宙空間内のあらゆるもの、あらゆる原子・分子は変わることなく様々な創造の場面で、その成立に貢献し、経験を積んで行くという訳です。宇宙の中には失われるものは何もなく全ては創造の過程にあるということです。

私達はこのことについては既に学んでおり、自然界においては様々な元素が循環し、物質の変遷の中で、様々な形を変えて動いていることを知っています。

まさに、宇宙開闢以来の長年月の間には、万物が交ざり合い、融合する中で各々の創造物の構成は他のもの達とほとんど変わらない構成比率にまでなっているのかも知れません。唯一、外形だけがその違いを表しているのです。

こうした中、私達は各自を構成する原子・分子の声や経験を知ることによって、本格的な進歩を手にすることが出来る筈です。それら膨大な経験こそ、私達が目指すべきものと言えるのです。

050 Within the Cosmos there is no destruction but only newness by a ceaseless action; all substance changing and transmuting but never for an instant's time withholding. In an endless array of patterns and designs from formless into formed in unfolding the wondrous picture of eternity.

050 宇宙の中では破壊というものはなく、絶え間ない行動による新しさだけが存在します。全ての物質は変化し、変質しますが、一瞬として保留状態にあることはありません。永遠の目くるめく絵画を紐解く中で、終わりのないパターンと形なきものへの入念な計画があるのみです。

【解説】

宇宙の全ての活動は常に新しい創造物の創出過程にあると説いています。私達が恐れ、悲しむ「死」は、私達自身の思い違いということなのです。

生きものにおける生死は生誕から食物連鎖の活動として、あるいはライフサイクルの満了までの時間軸の中で行われる生命活動に過ぎませんし、私達が現在立つ場所はそれら活動の輝きの一点であるということでしょう。

因である言葉を体現する私達の肉体は所期の目的が達せられ、使命を全うすれば再び元の材料元素に戻るべきなのです。いたずらに老い永らえるよりは、次なる生命発現の場に立ち会った方が良い体験を積めるというものです。

051 There is no greater law than that of conscious action, for upon it rests continuous Creation. Energy acting upon itself gives birth to time and space, the relative elements of the Cosmos that cause conception of the state called form. Each thing depends in part upon another and may be traced back to a common source.

051 意識の活動ほど偉大な法則はありません。何故なら止むことの無い創造はそれに支えられているからです。意識の活動において作用するエネルギーは、宇宙の相関的要素である時間と空間を生み出しますが、（その時間と空間は）形あるものと呼ばれる状態の概念をもたらします。各々の物事は、部分的に互いに依存しており、また一つの共通の源泉に遡ることができることでしょう。

【解説】

本当はこれまで私達が考えても見なかった程、”意識”と著者が表現するものは大きな力を有していると本項で明かされています。

即ち、時空を誕生させるのも、その結果として創造される形あるものを生み出すのも、元とはと言えばこの意識のエネルギーデアある訳です。

宇宙空間の中で次々に変遷して行くこれら創造物は互いに混じり合いながら、経験を深め、宇宙一体化の道程を進むという意図された進化、表現の過程にあるということです。

4. PERCEPTION AND CONCEPTION

052 "What man can conceive he can also achieve," has been said, but between conception and achievement there lies a middle step which is perception. We are familiar with the use of the word perception as used in relation to a faculty of receiving knowledge of external things by the medium of the senses. This same faculty may also be used to alert the senses to a Cause Intelligence which is beyond its effective scope of perception. Conception is constantly taking place within man; the conscious intelligence of the cosmos is eternally incarnating in matter, but unless there is awareness on the part of the mortal sense mind these thoughts are liable to pass on without ever being recognized in the world of form. We know that thought is the basis of human action and there are millions of thoughts that pass over the highway of mind every day, but man perceives approximately one thought out of every hundred which is conceived within his mind.

第4章 知覚と受想

052 「人が思いつくことはまた、実現することが出来る」と言われて来ました。しかし、思いつくこと（受想）と実現の間には、知覚という中間の段階があるのです。私達は知覚という言葉、感覚という媒体を通じて外の物事の知識を得る能力に関連させてよく用いて来ています。これと同じ機能は知覚の効果的な範囲を超えた宇宙的知性に感覚を鋭敏にさせるためにも用いることが出来ます。受想は人間の中で常に起こっており、宇宙における意識の知性は永遠に物質の中に体現していますが、肉体の感覚心の側に気が付かなければ、これらの想念は形あるものの世界の中で認識されることのないまま、通り過ぎてしまい易いのです。想念は人間の行動の基本であり、また毎日、心の大道を何百万もの想念が通過していますが、人は自分の心に受想されるおおよそ100に1つの想念を知覚するだけであることを、私達は知っています。

【解説】

本シリーズではConceptionの訳語を”受想”としています。実はConceptionの中には受胎（妊娠）という意味もあり、創造主の力を受けて生命を宿すという趣旨も含めているからです。

重要な点は私達は日常的に私達が気づく100倍以上のヒラメキを受想しているということで、それらのほとんどを無為に捨て去っているということでしょう。そして私達自身が精進を遂げる中で、それら多くのアイデアを現実のものとするのが可能であるということです。

漠然としたイメージの受想段階のイメージをより具体的なものとして知覚することが出来れば、私達の存在意義を果たせることになるのです。

053 There are myriads of thoughts bombarding man's mind every second; some are personal, some are impersonal, many are beyond the conception of the average sense mind. It is true that each thought that enters man's being impresses itself upon the individual cells of his body but the mortal sense mind as a whole does not become aware of it. Conception while being of Cause does not raise man to the Cause state; it is perception which produces growth in the mortal man. In the average man the thoughts are passing at the approximate rate of 1100 per second. In a highly developed person the thoughts run about one-half million per second. The mortal grows through experience and only that which is perceived consciously can be termed as experience. Awareness is the key to wisdom and the only channel to human thought expansion. Awareness must be combined with action so that intelligence may be expressed. Cosmic Cause incarnates in matter whether the mortal mind of man is conscious of it or not, but through perception of that action the mortal expands in the field of growth. The mortal sense mind, having divided itself from the Whole, must evolve again into the Oneness by perceiving the Cause in effects. In the cosmos everything exists and we, being of the cosmos, have everything within us. If we perceive that which is within us we are able to bring it into manifestation. Through perception we actually "mother" or "father" a thing into growth. The whole science of life is based on these two - through conception and perception are all things brought into being in the world of effects. Conception is responsible for putting Cause into motion and bringing forth action. Conception may take place without any awareness on the part of the intellect but the action which takes place due to conception bring forth a quickening that produces what we know as sensation. Perception is the act of becoming aware of sensation and knowing its source.

053 毎秒、人間の心に衝突して来る何万もの想念があります。あるものは個人的なもの、またあるものは非個人的なものであり、多くは平均的な感覚心の受想を超えています。人間に入り込む各想念は、それ自身を人間の肉体の個々の細胞に印象を刻印することは真実ですが、死すべき感覚心は概して、それに気付くことはありません。因に属する受想は人を因の状態にまで押し上げることはしません。死すべき人間において成長をもたらすのは知覚なのです。平均的な人間では、想念はおよそ毎秒1100個が通過しています。高度に進化した人物においては想念は毎秒50万個も流れます。死すべき人間は体験を通じて成長するもので、意識的に知覚したもののみが体験と呼ぶことが出来るのです。気付きは人間における想念の拡大につながるカギであり、唯一の道です。また、気付きは知性が表現されるよう行動と結び付けられなければなりません。宇宙の因は死すべき人間の心が意識しているに依らず、物質に宿っていますが、その活動を知覚することによって死すべき人間は成長の分野で発展するのです。全体から自分自身を分離した死すべき感覚心は結果における因を知覚することによって、再び一体性の中に進化を遂げなければなりません。宇宙の中に全てが存在し、私達もその宇宙に属する以上、私達の中に全てを有しています。もし、私達が自分自身の中にあるものを知覚すれば、私達はそれを創造の現れとしてもたらすことが出来ます。知覚を通じて私達は実際には物事を成長させる「父母」の役割を果たすのです。生命の科学全体はこれらの二つ、受想と知覚に基礎を置いており、それらを通じて、全ての物事が結果の世界にもたらされるのです。受想は因を動かし、行動を推し進める役割を果たしています。受想は知性の側には何らの気付きもないまま生じるかも知れませんが、受想に起因する行動は私達が湧き起こる感情として知っている状態を作り出す衝動をもたらします。知覚はその感情に気付き、源泉を知る行為なのです。

【解説】

大事なことは、各自が自らの努力として、これら毎秒1100個とも言われる想念波をより多く感知出来るようにし、それらを学習することを通じて、自らの体験を深めて行くことです。

私達はこれら想念波を感受する機能が備わっており、それら呼び覚まし、活用することが求められているのです。その為には私達自身がその事実を知る、悟ることが必要で、自分のみならず隣人の為、その能力を活用することが求められています。

毎日の一つ一つの実践体験は、各自の能力を高め、その影響は周囲に拡がって行くことになり、遂には惑星全体の振動数を高めることに繋がります。

054 In our christian bible we find references to "Life Eternal" and the way we must conduct our lives in order to know, "the only true God," but the application as to just how this is done is not explained. To know God the Father is to perceive Cosmic Cause. Conception has no limitations for it is cosmic, and that which is conceived can also be perceived by the mortal mind so perception knows no beginning or ending; its vastness is all-inclusive.

054 キリスト教の聖書に私達は「永遠の生命」や「唯一真実の神」を知る為に私達が人生を導かなければならない道に関する言及を見出しますが、ただ、これがどのようにしたら為されるのかについては説明されてはいません。父なる神を知ることが宇宙的因を知覚することです。受想は宇宙的属性であるが故に限界はありませんし、また受想されたものはまた、死すべき心によって知覚され得るため、知覚には始まりも終わりもない訳で、その広大さは全てを包含するものです。

【解説】

古来から地球人に伝えられて来た真理について、その内容は精妙なものであるが故に、当時の人々、更には今日の私達にも十分な理解を得ていないまま今日を迎えています。

多くの宗教の中に共通する教えがあり、それが本項で言う永遠の生命や唯一の神というものですが、それも具体的な到達方法についてまで説くものではありません。各個人によって状況は異なるものである以上、各自が修行によって一つずつ身に付けるより他に方法はないのです。

本第4章は私達へのヒントとして、因なる印象 (Conception)は高速に私達を通過し、その内容は当座はおぼろげな印象しか私達にもたらしませんが、やがて、私達がそれらの意図する内容を静かに学ぶことで、次第にその持つ具体的な意味を学ぶことが出来る (Perception)が可能となり、自らの能力を高めることが出来ると説いています。

055 Perception includes not only recognition but also comprehension. We cannot fail to recognize the fact that we are sons of the Cosmic Father Principle and heirs to all there is, but how many are there in this world who have actually perceived what that sonship means? Lack of perception leads always to a lack of confidence which prevents man going forward into greater accomplishment. The man who fails to understand his relationship with the whole is but a wanderer having no purpose in life.

055 知覚には認識のみでなく、理解も含まれています。私達は自分達が宇宙の父性原理の息子達であり、存在する全ての相続人であることを忘れてはいけませんが、この世の中にはどれだけの人がこの息子の地位が何を意味するかを知覚しているのでしょうか。知覚の不足は確信の不足に繋がるものであり、それは人がより大いなる達成に前進することを妨げるものです。全体との自身の関連性を理解出来ない人間は人生に何の目的を持たない放浪者でしかありません。

【解説】

自分が如何に恵まれているかを自覚するところから、進化の道は始まるということでしょう。ほとんどの賢者や宗教指導者が教える事柄の第一は「感謝」にあるのは、本項で説かれているように、まずは私達自身の恵まれた地位とそれを授けている創造主に感謝し、その事実を深く認識せよとしているのです。

一方、それら核心部分を十分に理解していない人は、行き先を不安に思い、自信を持てません。まさに、信仰心が不足している状態です。

従って、まずは私達自身の現状を自分の目で確かめ、与えられた環境を十分に活かしているかチェックした方が良いでしょう。自らを生きし続けて呉れる生命力に感謝し、その発現にこそ力を発揮しなければなりません。

056 Lack of perception is the greatest of the sins of omission; why should a man remain in ignorance when all things lie before him and the very fullness of life prevails within his being awaiting the command to come forth.

056 知覚の欠如は怠慢の罪の内、最大のものです。何故、人間は全てのものが自分の面前に有り、自身の中には命令が来るのを今か今かと待っている生命で満ち溢れているのに、無知のまま留まっているというのでしょうか。

【解説】

目の前に十二分な贈り物が供えられているにも拘わらず、それらに気付かず、他の場所に目をやり、何かを探し、「無い」と騒ぎ立て、それに疲れると再び眠り込む姿は私達自身を表しているということでしょう。

その恵まれた環境に気付くことが最も重要なことです。これは怪我をして長期間歩けなかった者がやがて傷も癒えて再び自力で歩けるようになった時、何気ない街路の散歩が如何に素晴らしいか良く分かることに似ています。

私達の歩む先には、やがて私達はその能力に目覚める時、発揮出来る能力とその素材が私達の指令を待っている訳であり、その発現こそ私達に期待されている所なのです。

057 When an unselfish idea is conceived it is to be perceived and brought forth into manifestation just as a soul conceived in the womb of a mother is to be given birth in physical form. Whatever one becomes aware of that is not contrary to natural law must exist, for how can it be possible to perceive that which is not existent?

057 一つの非利己的なアイデアが受想される時、それは丁度、一つの魂が母親の子宮で受胎し肉体の形をもって誕生するのと全く同じに、それは知覚され具体的な創造物としてこの世にもたらされます。自然法則に反しない限り、どのような事柄も人がそれに気付くものは存在する筈です。何故なら存在しないものをどうして知覚することが出来るのでしょうか。

【解説】

各自にとって時には、これまで自分中心（利己的）なアイデアではない、利他の要素を持つものも心に浮かぶものです。重要なのはそれを逃さず、更に深く知ろうとすることです。当初、私達にとって漠然としたアイデアの状態はConception（受想）であり、宇宙から来るものですが、それをより具体的に自分自身が理解することはPerception（知覚）であり、その後はそのアイデアを物作りや行動への発展させることに繋がります。

実際には類似したアイデアは過去にも出現している為、既に同類の内容が実現されている為、私達のPerception（知覚）以降の活動も宇宙空間自体に記憶され、私達の進路を導くことになるので安心せよ、と著者が私達に語り掛けているのです。

058 There is really very little difference between conception and perception; the former is the cause soul awareness and the latter is mortal sense awareness, and the two should be always united.

058 実際には受想と知覚の間には、本当にほんのわずかの違いしかありません。前者は因の魂による気付きであり、後者は死すべき肉体の感覚の気付きで、両者は常に一体であらねばならないのです。

【解説】

私達各自にあるConception（受想）とPerception（知覚）機能について、本項で著者はそれらの差異について記しています。

実際にはそれらの内容の違いはほとんど無く、受想は因なる魂の気付き、知覚は肉体の感覚の気付きとしているのです。重要な点は両者ともに私達各自の中にあるということ、因なる機能も肉体の機能も全て私達の中に存在しているということでしょう。

そうした中で、私達は例え全てを有していると言っても、実質的に因なる受想機能を発揮しなければ、やがてそれらは衰えてしまうことは必然です。そういう意味でも、その因なる部分を盛んにして実行力ある知覚に繋げる努力が必要だという訳です。

059 One of our noted scientists once said, "I find oftentimes that in the moments when I have ceased pondering over a problem the greatest revelations come to me." Such revelation is true perception, for it is the time when the mortal sense mind and the cause intelligence unite. Such awareness is called intuition, and the man who acts intuitively is always right. The mortal mind is usually unable to perceive the thoughts which are conceived from the cosmic source for it is in a constant state of friction and wonderment, lost in the perception of the innumerable forms of the effective world and so unaware of the new ideas that are waiting for birth. It is necessary to perceive the possibilities within anything before those potentials are able to become a reality in one's life. True perception goes beyond the apparent into the cause of the appearance, it goes into the invisible and brings newly conceived ideas into manifestation. Many people consciously perceive wonderful things but have not enough faith to bring them forth.

059 著名な科学者の一人はかつてこう言いました。「私はしばしば、問題について考え込むことを止めた瞬間に最大の新発見がやって来ることに気付いています」と。このような啓示は真の知覚です。何故ならそれは死すべき感覚心と因なる知性とは結びつく時であるからです。このような気付きは直感と呼ばれ、直感的に行動する者は常に間違いはありません。肉体の心は大抵は宇宙的源泉から受想される想念を知覚することは出来ません。何故ならそれは常に摩擦と好奇心の状態にあり、結果の世界における無数の形あるものを知覚する内に迷ってしまい、誕生を待っている新しいアイデアには気が付かないからです。このようなこと（訳注：感覚心と因なる知性が結びつくこと）が各自の生活において現実のものとなるのが可能となるためには、それ以前にその可能性を知覚する必要があります。真の知覚とは外観を超える因にまで及ぶものであり、新たに受想したアイデアを創造物としてもたらすのです。しかし、多くの人々は意識上は素晴らしい物事を知覚はしますが、それらを現実にもたらすほどの十分な信頼を持っていないのです。

【解説】

本項はかのエジソンが語った内容を例に、著者が私達が目指すべき「知覚」能力の開発方向を説いていると言えるでしょう。そもそも私達が自らの知覚力を磨くのは本文にあるよう、背後にある目に見えない要素であり、普段の諸々の思いや不安、興味で詰まった心を一端空にしない限り、現れない直観的な感受性です。

その為には、まずは私達自身の心から心配事やこだわり事を排除し、無心になってあらゆる波動を受け入れる寛容さこそ心掛けねばなりません。こうして得られたヒラメキを大切に、その実現を目指すことが望まれているのです。

060 Learn to believe in your power of perception; give recognition to those things of which you became aware and you will find yourself enjoying a feeling of happiness and well being. Your vision will gradually expand to where you can feel the pulsation of life in all forms. And you will understand the Universal Language of Life, and the limitations that have bound you to the personal ego will vanish into the illimitable vastness of Cosmic intelligence.

060 あなた自身の知覚力を信じることを学びなさい。あなたが気付くようになった物事に認識を与えることです。そうすればあなた自身、幸せと良好な状態を楽しんでいることに気付くことでしょう。あなたの視界は徐々に拡がり、あなたがあらゆる形あるものの中の生命の脈動を感じ取れるようになることでしょう。そしてあなたは生命の宇宙普遍の言語を理解し、あなたを個人の自我に縛り付けて来た諸々の限界は宇宙的知性の限りない広大さの中に消え去ることでしょう。

【解説】

私達自身には既に十分な知覚能力が備わっていることを先ず自覚することから始まるということです。仮にその姿が未だ見えないと主張する方も長い年月の中にはその片鱗を垣間見る瞬間もあることでしょう。大事なはその瞬間の体験を大切に、記憶することです。

このように時にいわば創造主の贈り物として得る体験から私達各々が何を学ぶかが問われているのです。わずかな機会であっても私達の自我を解放し、宇宙的な存在に変容する上でまたとない機会となるからです。

こうして少しずつ体験を積み重ねることで私達は創造された本来の存在、他のあらゆるものと共鳴、融合出来る宇宙的な存在になれるのです。

5. WHAT IS CONSCIOUSNESS?

061 The term consciousness seems to be the foundation of all creation. It is not a physical thing, yet it measures all expressions of physical forms. Without it no form could be or exist for consciousness is life itself. It is the power which gathers the elements into the formed state and it is the intelligent force which causes awareness and animation within the form. Conscious awareness of the All-Inclusive consciousness is that tremendous power which is referred to in the Scriptures as the Holy Ghost. It is a dweller, as power, within that which is created, perpetuating the growth of the form by the constant action which is the law of It's being.

第5章 意識とは何か

061 意識という用語は全ての創造作用の基礎であるように思います。それは物理的なものではありませんが、物理的な形あるものの全ての表現の尺度となっています。意識なしではどんな形あるものも存在することが出来ません。意識が生命自体であるからです。それは諸元素を集めて形ある状態にさせる力であり、形あるものの中に気付きと活気をもたらす知性的な力なのです。全てを包含する意識に対する意識的な気付きは聖書の中で聖霊と称されるあのすさまじい力です。意識は創造されたものの内側にある力としての住人であり、その存在の法則でもある絶え間ない行動によってその形あるものの成長を永続させているものです。

【解説】

本章では一連のアダムスキー哲学の中で最も重要とされている「意識」について改めて著者自らが私達に解説しています。

とにかく私達はこの「意識」なる用語を何か特別なものとして捉えがちで、単に”意識”、”意識”と唱えればそのものに接近することが出来ると思いがちですが、それは誤りであることでしょう。アダムスキー氏が教える「意識」の実態について、先ずは私達自身で探求し、真実の姿を見極めることが必要です。その場合、「Consciousness (意識)」と表現しているイメージはやはり私達日本人にとっては、通常”気を失って意識が無い”等々で用いる”意識”のままのイメージで良い筈です。異なるのはそれと同種の存在が万物に宿る、或は万物を支えているということです。

この意識なるものは物の全てに存在する訳で、物と物との間のつなぎ、連携するもので宇宙とも融合しているものと考えられます。その知性は万物を創造する知性と力を持っている訳ですので、その力は強力で私達はその力を借りることが出来れば、大いなる発展を遂げることが出来る筈です。

062 The story of creation as recorded in Genesis says that God created man from the dust of the earth; out of the elements He molded a form in His image and likeness as a sculptor creates a beautiful statue out of clay. This He did with intelligence and power, and having looked upon His completed form creation He was well pleased, so He incarnated into the form as the Breath of Life and man became a conscious being, a living soul, having the power of intelligent action, which we know as life.

062 創世記に記録された天地創造の物語は、神が人間を大地のチリから創ったとしています。その諸元素から創造主は彫刻家が粘土から美しい彫像を作り上げるように、神ご自身のイメージと似姿で一つの形あるものを型に入れて創ったのです。これを神は知性と力によって行い、自ら完成した創造物を眺め、神は大いに喜び、生命の息としてその形あるものの中に化身し、その結果、人は意識ある存在、生ける魂、私達が生命として知っている知性的な活動の力を得たのです。

【解説】

創世記におけるアダム誕生は、古代の人達に私達人間が如何にしてこの世に生まれたのかを、当時の知識レベルでも分かるように伝えられたものと思われます。重要な点は、人間は神の似姿として創られたこと、及びにその素材は全て地球の大地にあるチリと同じ元素から成っていることです。

しかし、こうして創られた肉体もその生命の源は創造主から吹き込まれた生命の息であり、その息無くして生命は存続せず、その息こそが英知を持ち全ての生きもの達を生かしている大本であるのです。

063 This intelligent force, then, is actually the Cosmic Whole, for Its limit of knowledge is no where. It is the creator of everything that was, is, and will be. It is not only the soul of man but the very soul of all things, the Father-Mother principle of the Cosmos.

063 この知性ある力は、実際には宇宙全体なのです。何故ならその知識の限界は何処にも無いからです。それはこれまでにあった、現在ある、そして将来あるだろうあらゆるものの創造主です。それは人間の魂のみならず、万物の魂そのもの、宇宙の父性母性原理なのです。

【解説】

私達が日頃気付いていないこの「意識」なる存在には、限界や際限が無く、宇宙全体とも繋がっており、その包含する知識は私達の想像すら出来ないほど深く、広いものです。何よりも宇宙空間全てを支えている存在だからです。

それに引き換え、私達の自我は何と小さく、矮小化した存在なのでしょう。更にそれは常に自分の存続だけを考えており、未知なるものに怯えて暮らしているのです。

ひとたび私達が自らの中にこうした宇宙に繋がる「意識」なる存在を有していることを自覚すれば、大きな変化を遂げることは確実です。そうした姿を黙って見守って呉れているのも意識であり、私達一人一人の守り神とも言うべき役割をも果たして呉れているということでしょう。

064 As far as we know consciousness had no beginning and will have no ending for it seems to be all in all, the Alpha and Omega, and is made up of the Trinity; first the power; second, the intelligence; and third, the created form. John tells us -"In the beginning was the Word and the Word was with God and the Word is God." What is a word? Is it not a thought expressed? And does not thought depend upon consciousness for it's being? Then we must admit that "in the beginning was consciousness and the consciousness was with God and consciousness is God." Out of consciousness, again, proceeded thought so "in the beginning was thought and thought was with God and thought is God." And thought becoming expressed returns us in proper sequence to the Word which is with God and is God. (Cosmic Cause) The incarnation of these three through action brings forth manifestation which is concrete realization in form of that which exists always in consciousness.

064 私達が知る限り、意識には始まりもなく、また終わりもないものでしょう。何故なら意識は全ての中の全て、アルファ（訳注：ギリシャ文字24個の最初の文字）であり、オメガ（訳注：ギリシャ文字24個の最後の文字）であるように思うからで、それは三位一体（訳注：「父・子・聖霊」の三位格があることを指す）から成っているからです。即ち第一に力、第二に知性そして第三に創造された形あるものです。使徒ヨハネはこう言いました。「はじめに言葉ありき、言葉は神とともにありき、そして言葉は神である」と。言葉とは何でしょうか。それは表現された想念ではないでしょうか。そして想念はその存在を意識に依存しているのではないのでしょうか。そうすると私達は「はじめに意識があり、意識は神であった。そして意識は神である」ことを認めねばなりません。意識の中から更に想念が進み出るため、「はじめに想念があった。想念は神であった。そして想念は神である」ということになります。そして表現された想念は神とともにあり神（宇宙的因）である言葉として適切な順序で私達に戻って来るのです。これら3つの活動の化身は意識の中では常に存在している形あるものへの永続的な現出である創造作用をもたらすのです。

【解説】

本章はアダムスキー哲学の「意識」を解説するものですが、本項では改めて新約聖書のヨハネ伝にある「はじめに言葉ありき」の”言葉”との結びつきについて説き起こしています。

アダムスキー研究者の間ではよく知られていることですが、アダムスキー氏自身はかつてイエスに最後まで従っていた聖ヨハネであったとされています。このことはアダムスキー氏自身がかつて自ら表現した意味を、ここで再度解説し、読者に説いているのではないかと思うのです。2000年余の時間が経過し、宇宙時代に入った地球人に対し、再度同種の内容を説く時、アダムスキー氏はそれを”意識”と表現したのではないのでしょうか。

広大な時間軸にあって、その原理は変わるものではなく、宇宙始原の昔から意識なるものは存在し、今後も存続を続けることでしょう。その意識にこそ、私達は更に近づき融合して宇宙的な存在に進化しなければなりません。

065 Everything from the mineral to the Cause kingdom is changed, moment by moment, by the everlasting activity of consciousness. It is the avenue of progress; the stream of life laden with ideas which drop into the consciousness of mortal man with great rapidity and which may be used or discarded, depending upon the understanding of the individual. Consciousness speaks the language of the Soul, for it is the Soul. This Cosmic language is soundless, yet it roars with a voice of thunder, reverberating with a tremendous force upon the mortal form, producing a state of awareness as to the ideas that lie within him - ideas which only he himself knows unless he expresses them in words, and which even then may not be understood by another.

065 鉱物から因の王国に至るあらゆるものは永続する意識の活動により、刻々と変化します。それは進歩の大道であり、大速力で死すべき人間の意識に降り下るアイデアを積み込んだ生命の流れであり、各自の理解力により、活用されるか或いは捨て去られるかになります。意識は魂の言葉を話します。何故ならそれは魂であるからです。この宇宙的言葉は無音ですが、雷ほどの声で叫び、死すべき形あるものにすさまじい勢いで響かせ、人の内側にあるアイデアにいての知覚状態を作り出します。そのアイデアは言葉に表現しない限り、その者のみを知り、言葉に表現したとしてもその時、他の者には理解されないものです。

【解説】

芸術家達に時に来るヒラメキは、ある者には楽譜を書くペンの先を、またある者にはその絵筆を動かして、大なる作品を創り出させる訳ですが、その原動力である意識の声は、本人にはとてつもなく大きく聞こえる程、力強いものとしています。それらの声は常にあるにも拘わらず、私達には聞く意欲が薄い為、一部の芸術家を除いては気付かずに過ごしているということでしょう。

これら力強い宇宙の力は当然、あらゆる粒子、原子・分子に作用し、それぞれに変化を促しています。それ故に私達は変化・流転の途にあるのです。この宇宙的な流れに従って進むか、或は自らの惰性・墮落の道を選ぶかは本人に委ねられていますが、どちらを進むべきかは明白であり、私達はより良い方向に進む意欲と確信を持たねばなりません。日々の活動を宇宙的なものに変革して行くことがその一歩となります。

066 Consciousness is the very substance of all forms, yet itself is formless. It is the ruler and keeper of all elements which compose it in the field of form-action, for through this intelligent force the elements which make the form become conscious. It builds form and disintegrates forms yet it knows neither life nor death. It is motionless, yet it is the all-active power by which the cosmos is maintained; placeless, yet it is everywhere for outside of it there is nothing; inert yet composed of unlimited power.

066 意識とは万物の本質そのものです。しかし、意識自身には形がありません。それは形あるものの活動の分野で組織するあらゆる元素の支配者であり、保護者なのです。何故なら、この知性ある力を通じて、形あるものを作り上げている元素が意識を持つようになるからです。意識は形あるものを作り上げ、また形あるものを分解しますが、それでも生も死も知ることはありません。意識はじっとしていますが、宇宙が維持される全ての活動的なパワーでもあるのです。定まった場所はなく、何処にでもあるのです。何故なら、意識の外側には何もなく、意識は自ら動くことはありませんが、無限のパワーから成り立っているからです。

【解説】

本項は「意識」の持つ驚くべき力について説明されています。古来からある種の”沈黙のちから”について多くが語られ、時によっては”聖霊”の力、等々の表現が為されて来ました。それらのいずれもが目に見えない霊力、気力という大いなる力の存在が強調されていたかと思います。

各宗教における様々な”行”も、氷上のフィギュアスケーターの華麗な演技も全てはこの「意識」との融合の中での人間の可能性を見せるものとなっているのです。

私達は日頃から、自らをこの意識との関連性において顧みるとともに、その行動の一つ一つをこの意識との融合の中に実行できるよう、心構えを整えておく必要があります。

067 The growth of earth and the growth of man is the actual evidence or testimonial of consciousness. Thought, itself, is composed of consciousness. All things of the heavens and the earth have been and will continue to be conceived in the womb of this mother-father principle. Man was born - into a physical form and will grow old and perish while consciousness remains everlastingly young in existence.

067 地球の発展と人間の発達は意識の実際の証拠であり、証明書です。想念自体は意識から成り立っています。天と地の全てのものは、これまでも、またこれからもこの母性父性原理の子宮の中で受想し続けることでしょう。人は肉体の形に生まれ、年老い、死を遂げますが、一方、意識は永続的に若いまま留まります。

【解説】

大事な点は原理や法則、更にはそれらを作用させている原動力には時間が無いこと、永遠に生命力溢れる若さが保たれているということでしょう。私達が日々摂取する想念・アイデアには本来、老いというものはありません。いつも生まれたばかりの生命体のようにすがすがしく、素直で力強い存在です。

一方で私達人間はその誕生後、年を重ねるにつれて年老い、やがては誰でもその命を終える時を迎えます。これは物質としての生きものの側面であり、自然の摂理と言えます。従って少しでも若々しい生活を維持したいなら、努めてこれら生命の原動力に近い想念・アイデアを摂取することです。

その為にも日頃から新しいテーマに取り組み、また手本となる様々な教えに接する等、宇宙的な要素を取り入れることに努め、利他の行動を通じて自らその手本となるよう努めることです。

068 One's breath is measured by consciousness, and Heaven is but a man suspended between the Soul consciousness of Eternity and Man's consciousness of earth. It is the mark or center of balance where the true understanding of the cosmos exists. Each conscious being is but a focal point of action within this great limitless ocean of intelligent force. There is no separation between any one of these focal points of conscious action and the Wholeness of consciousness.

068 人の息は意識によって見守られており、天国とは人が永遠なる魂の意識と地上の人間の意識との間に吊り上げられている人間のことなのです。それは真の宇宙の理解が存在する調和の印、或いは中心です。各々の意識的存在は、この偉大なる限りない知性の力の海の中における行動の焦点なのです。これらの意識的行動の諸焦点のいずれの間と意識全体との間には分離はありません。

【解説】

私達の呼吸の一つ一つが意識によって見守られており、刻々の私達の行動はこの大いなる意識の下で為されています。そういう意味では全ての行動は宇宙的意識により記憶されていることとなります。

また、本文に記されているように、各々の行動には意識の投影が必要であり、この意識なくして行動は出来ない以上、あらゆる行動は意識を伴っていることとなり、意識からの分断は無いということとなります。

天国と称される理想の姿は永遠なる宇宙的意識と私達地上の人間の意識とが釣り合っている状態だという訳です。

069 Those who have become consciously aware of conscious consciousness through the ages have known this and have used the knowledge in their daily life. They have recognized themselves as the unlimited consciousness and thereby have become the controllers of it. The average man who claims himself a conscious being has through the development of a personal ego blinded himself to the reality of his being and understanding of cause consciousness so that he is expressing not more than one tenth of one percent of his potential ability. Think of the possibilities ahead of man when he shall have enlarged his field of awareness.

069 時代を通じて意識的意識について気付くようになった者達は、このことを知り、日常生活の中にその知識を利用しました。彼らは自分自身を無限の意識として認識し、その為その支配者になって来ました。自分自身を意識的存在だと主張する平均的な人間は、個人的自我の発達を通じて、自分の存在の現実性について自分自身を盲目にしてしまい、その結果、彼自身の潜在能力の1%の10分の1も表現してはいないのです。自分の気づきの領域を拡げた時の人の前に拡がる諸々の可能性について考えて下さい。

【解説】

私達には沈黙の英知とも言うべきもの、即ち本講座で言う「意識」なるものが備わっていることに気付いている者には、その活用によって素晴らしい知識が授けられるという訳です。

課題解決の為のヒラメキや他者への支援策等々、私達が望む事柄に対して常に私達を助けて呉れる存在がこの意識でもあるのです。

本来、このような力量は各自に備わっているのですが、多くの者はその存在に気付かず、自分のエゴの意見に支配されています。私達はもっと自らに与えられた才能や能力を開花させ、自らをこの意識なる英知の表現者となるべきであり、他者の手本として生涯を送るべきなのです。

070 We have been taught that all things are possible with God. God is consciousness, and man cannot separate himself from consciousness for he is that. Are not all things also possible therefore, with man? Jesus the Christ understood this unlimited capacity for expansion when he said-"Greater things shall you do than I have done." He put no limitations upon himself or upon another. It is through the understanding of the consciousness, which is oneself, expressing through all forms that gives one the power to control all elements. Cannot a being command himself into action? Cannot consciousness direct its own movements? This mighty Cosmic force, with power to do and the intelligence to direct, is the most generous giver of all things to those who utilize every fleeting conscious moment, but it turns a relentless executioner in the hands of those who pay no attention to its gift of Ideas.

070 私達は全てのことが神とともにあっては可能だと教えられて来ました。神は意識であり、また人は意識から分離できません。何故なら人は意識であるからです。では、全ての事柄もまた、人間にあっては可能ではないでしょうか。イエス・キリストは「私が為した以上の大いなることを貴方は為すだろう」と言った時、この拡大する無制限の能力を理解していたのです。彼は自分自身にも他の者にも如何なる限界を設けていませんでした。それは全ての元素を支配する力を与え、万物を通して表現している自分自身である、意識の理解を通じてのことです。何人であれ、自分自身に行動せよと命令することは出来ないことでしょうか。意識はその運動を指図出来ないでしょうか。この力強い宇宙的力はそれを為す力と指導する知性を持ち、意識的瞬間の束の間のひとつひとつを活用する者達にとって全てのものを与える寛大な贈与者ですが、一方、そのアイデアの贈り物に何らの関心を払わない者達の手において情け容赦の無い執行人に変貌するのです。

【解説】

私達各自には、大きな可能性があることはイエスも教えていたということです。

私達が意識からの指示を受け入れ、実践するならば、創造主と同等の働きをすることが可能であるのです。万物創造の基本法則である意識の力を受け入れれば、私達自身も創造する側の役割を担えるという訳です。

この為、私達が意識に従う限り、そこに制限は無く、力を発揮することが出来ます。言い換えれば、創造主は常にその創造的な力の発現を望んでおり、もし私達自身がその一翼を担う意欲があれば喜んで力を貸して呉れることでしょう。天国を造り上げることこそ、創造主のお望みであるからです。

6. BODY, MIND AND CONSCIOUSNESS

071 Until quite recently mind and matter have been considered as widely separated as the poles. The materialist has exalted matter into predominance and the metaphysician has given the supremacy to the mind, while consciousness has received scarcely a consideration. There have, of course, always been alerted minds in the world who understand the inseparable relationship of mind, matter and consciousness and have made use of this knowledge in the field of practical evolvement, but the world in general has chosen to remain in the mystery of divisions.

第6章 肉体、心そして意識

071 全くの最近まで、心と物質は両極のように甚だしく分離して考えられて来ました。唯物論者は物質を優位位置に引き上げ、また形而上学者は心にその最高位を授けて来ました。しかし一方では、意識はほとんど考慮すら受けて来ませんでした。もちろん、世の中には心と物質、それに意識について引き裂くことの出来ない関係を理解する鋭敏な心の持ち主がいつも居て、実際的な発展の分野にこの知識を活用して来ましたが、世の中一般はその区分分けという神秘の中に留まることを選択して来ました。

【解説】

重要なポイントは私自身の中に肉体と心の他に「意識」と呼ばれる全能の知性が存在し、それらの3者があいまって、私自身という生命体を構成しているということです。この内、外面としての肉体も各自の内面としての心の存在も良く分かるのですが、意識となるとその意識なるものが般若心経等と言う「空」と同様、沈黙、無形の存在であるが故に、これまで長い間、気付かれることなく過ごされて来たのです。

しかし、私達自身の生命を実質的に持続させているのはこの意識であり、その知性無くして私達は生存することは出来ません。また、優れた解決法や進歩に繋がるヒント等、助言を与えて呉れるのもこの意識です。従って私達が探求すべきは各自の中にある意識の存在であり、この意識と親しむことによってその意義を日々学んで行くことです。

072 Science has done much in proving many things which the majority of the people of the world previously refused to accept. It has proven, for instance, that all forms are made up of cells which are composed of the same elements as the earth, air and water. It has revealed the fact that the human body is no different in composition than any other form in the mineral, vegetable, or animal kingdom. These cells or atoms of matter possess a certain amount of intelligence and are actually little entities not unlike the human being, but the world has not easily accepted the belief that a particle too small to be seen without the aid of a microscope can be the possessor of a mind, or intelligence. Science has now brought forth the proof of this. It speaks of living and disintegrating atoms of matter, and in working with these tiny cells it has learned to release a form of energy from the atom which is seen as a ray of light. One professor of science has spoken of this as the soul of the atom, which certainly implies intelligence.

072 科学はかつては世の中の大多数の人々が受け入れを拒絶した多くの物事を立証して来ました。科学は例えば全ての形あるものが、地面と空気、水と同じ元素からなる細胞から成り立っていることを証明しました。それは人体が鉱物や植物あるいは動物の王国における他の形あるものと組成において何らの違いが無いという事実を明らかにしたのです。これらの細胞や物質の原子は幾分かの知性を持ち、実際には人間とさほど違いが無い小さい実体なのですが、世間は顕微鏡の助け無しには小さすぎて目に見えない粒子が心や知性の所有者であり得るとの確信を受け入れることが出来ないうでいます。しかし、科学はこの証拠を提出しています。科学は物質の原子の生存と分解の状態について語っており、これら微細な細胞について研究する中で、これら細胞が光線として見られるような原子からのエネルギーを放出することを学んで来ました。科学のある教授はこのことを、原子の魂と表現しましたが、それは確かに知性を暗示させるものです。

【解説】

本項から万物を構成する分子・原子の中に知性が存在するという思想は、アダムスキー氏以外にもそれを説く科学者が居たことが分かります。今となっては本文で言う科学者とは誰なのかは確認出来ませんが、"Psyche-Genetics: The Soul of the Atom by Donna Pringle"(2005)なる著書も出版されていることから、いわゆる精神科学の分野では当時も説かれていたものと思われます。もちろんこれらの分野の研究も必要なのですが、注意しなければならないのは、神秘学とされる分野に立ち入らないことです。つまり、あくまで自分自身の知覚力を自分の手で高めることが重要であり、他人の導きに従うことは危ういものがあるのです。

唯一お勧めできるのは、これらアダムスキー哲学であり、他はあくまで参考用にすべきものと考えています。

いずれにせよ、私達各人はこれら究極の微粒子と交流することを自らの日常的な暮らしの指針としなければならぬのです。

073 It needed not the aid of science, however, to prove the intelligence of matter, for the very fact that bodies act and grow proves that the cells must possess the consciousness to receive instructions from a higher intelligence. We know that nature takes its own course in healing the body when called upon; that a thought given by a man is immediately acted upon by the cells of his body, so matter must have a mind which is capable of receiving the command of either man or nature or it would not act accordingly. Mind, itself, is nothing more than the highway over which consciousness projects ideas to set matter in motion. If matter were not the possessor of mind there would be no avenue through which it could receive the thought impressions; if it did not possess intelligence it could not act upon impressions, and if it did not possess consciousness it would be totally unaware of the command and would remain in a state of complete inertia.

073 しかしながら、物質の持つ知性を証明するのに科学の助けは必要としません。何故なら、肉体が行動し成長するという事実はそれら細胞がより高位の知性から指導を受け取る意識を持っていることを証明しているからです。私達は自然は求められた時、肉体を治癒する上でそれ自身独自の経路をとることを知っています。また、人間によって与えられた一つの想念は直ちにその者の肉体の諸細胞によって行動に移されることから、物質は人間あるいは自然の命令を受けられる心を持っているに違いありません。そうでなければ、それに応じた行動はとれないからです。心自体は意識が物質を起動させるためのアイデアを放射するハイウェイに過ぎません。もし、物質が心の所有者でなかったとしたら、その想念印象を受け取る大路は無いこととなり、もし、物質が知性を持たないとすれば、印象に基づく行動をとることが出来ないこととなり、もし、物質が意識を持たないとすれば、物質はその命令に全く気付かず、全くの惰性の状態に留まることとなります。

【解説】

私達の肉体自体、あるいは自然界のあらゆる物体は想念波動を理解し、それに呼応した働きを行う知性があります。そうでなかったら、各々の生命誕生から成長するまでの旺盛な生長活動或は生命活動停止後の速やかな還元分解活動を説明出来るものではありません。

本項では更に、これら想念波動が通る通路が「心」なのだと言っています。つまり心の中に心配事等の多くのものを置いておくのではなく、空にしておくことで宇宙からの想念波動が通過しやすくなるという訳です。また、それら心は人間では自我の心でもありますが、各細胞、各原子・分子のレベルでは本項で言う「意識」というレベルのものとも言えるかも知れません。

074 We know from actual experience that when a thought is sent over the highway of mind that all of the cells of the body respond in a perfectly unified state in producing that impression in outward form. It is not difficult to know if a man is joyous or angry. The thought of anger will mold the matter composing the body into an exact image of itself - contorted features, flashing eyes, clenched fists, set mouth etc. It may even produce a state of intense trembling throughout the form. If the thought is changed to one of joy the body again responds and matter is molded according to an entirely different pattern - the eyes glow with a soft light, the features are relaxed, and the whole form becomes one of simple grace, a symphony of harmonious action.

074 私達は実際の体験から、一つの想念が心のハイウェイに送り込まれると、肉体の全ての細胞は外向きの形にその印象を作り上げようと完璧に統一された状態と呼応することを知っています。人が楽しく思っているか、怒っているかを知ることは難しくはありません。怒りの想念は肉体を構成している物質をまさにその想念自身のイメージに鑄込み、歪んだ表情、ぎらついた目、固く握りしめた手首、こわばった口等を作り出します。それはまた、身体全体を激しく震えさせる状態さえも作りだすかも知れません。しかし、もし想念が楽しいものに変われれば、身体は再び呼応し、物質は全く異なるパターンに沿って鑄込まれ、目は柔らかい光に輝き、表情はリラックスし、形全体は純真な上品さ、調和ある行動のシンフォニーになるのです。

【解説】

確かに私達各自の表情はその内面の精神状況、即ち心を通過している想念波動を忠実に表現しています。また、これら一時的な影響もそれが継続するとその表情は固定化し、身体全体の細胞をその想念の鑄型のように想念波動そのままの体裁をとるようになるのです。

自らどのような想念波動が有益で何が危険なのかを十分に注意して心に取り入れる想念を選ぶ必要もある訳です。

世の中には私達一般人を自覚させず、支配者の奴隷のまま習慣的生活の中にとどめ置きたい勢力が多くある中で、私達各人なこれら真実にいち早く目覚め、自らの進化に繋がる道を歩む必要があるのです。

075 Mortal thought, however, is not the intelligence, it is but an idea projected by consciousness. It acts as a messenger between the sender and the receiver just as an idea consciously projected into a microphone travels on the mind of a radio (the ether waves) to the receiver. The great unlimited force of intelligence, which is consciousness, broadcasts a message in the form of thought; this message travels upon the highway of frequency called mind and contacts every part of the body. Since every cell is the possessor of mind the idea impresses each of them at the same time and they as a whole give expression through and upon the body. This is the same principle used in the operation of radio. Once the message is given over the microphone all space is effected since it can be picked up anywhere by a good receiving set. Thought effects the whole of matter in the same manner. The radio frequency is carried on the waves of ether and is neither seen nor heard outside the studio unless it passes through a receiving set. In this same way consciousness projects itself as an idea through space by an instantaneous action effecting all space at one time and the idea which is supported upon the waves of mind become manifest only after passing through the instrument of matter. In other words, mind is the channel over which man is supplied with conscious awareness just as the ether waves are the channel over which we receive the musical and oratorical expression of the consciousness broadcasting them.

075 しかしながら、死すべき（訳注：肉体の）人間の想念は知性ではありません。それは意識によって放出された一つのアイデアなのです。それは丁度、マイクの中に意識的に放出されたアイデアがラジオという心の上を（エーテル波として）進行し、受信者に到達するようなものです。意識である偉大なる無限の知性の力が想念という形の中にメッセージを放送します。このメッセージは心と呼ばれる周波数のハイウェイを旅して身体中のあらゆる部分と接触します。あらゆる細胞は心の持ち主である以上、そのアイデアは同時にそれらの各々に印象づけ、それらは全体として身体全部を通じて表現を与えるのです。これはラジオの操作で用いられているのと同じ原理です。ひとたびメッセージがマイクを通じて与えられると、全宇宙が影響を受けます。何故なら、良い受信機によっては何処でも拾い上げられるからです。想念は全く同様に物質全体に影響を与えます。ラジオの周波数はエーテル波によって運ばれますが、受信機を通らない限り、スタジオの外では見たり聞いたり出来ません。それと同様に意識は全宇宙空間を同時に影響を及ぼす瞬間的な行動によって自身をアイデアとして宇宙空間に放出し、心の波動によって支持されたアイデアは物質という装置を通ることによってのみ現出化するのです。言い換えれば心は人間が意識的気付きによって与えられたチャンネルであり、丁度エーテル波が私達がそれらを放送している意識の音楽や演説の表現を受信するようなものです。

【解説】

本項では想念・印象がどのようにして自身の身体や周囲の環境に影響を与えるかを解説しています。そういう意味ではむしろ科学の解説とと言えるもので、これらの点がアダムスキー氏が伝える事柄が他の宗教や神秘学と異なる点であり、他惑星社会における膨大な知識と経験に基づいていることを反映しているのです。

また、重要なのは私達各自の心、即ちハイウェイにどの種の想念を取り入れるかであることが分かります。良い想念は調和した身体を形作りますし、誤った想念はその逆の状況を創り出してしまうものです。また、類は類を呼ぶように、類似したレベルの想念が次々にやって来ることも確かですし、私達は日常の自らの想念選択を大切にしなければなりません。

同様に心も際限なく広がる事が出来る為、離れていても親しい間柄の中では容易に互いの意向が伝わり合うことが出来、互いに理解し合うことが可能となることが分かります。これらハイウェイが実現すれば互いに相手の思うことは同時に感知出来るからです。

076 The sense mind personifies the impressions received and distorts them with self opinions. If the radio ethers are disturbed we on the receiving set get the disturbance called static, which means that we cannot get the program clearly. This is also true with man, for when the mind of man is disturbed that which is coming from the broadcasting station of consciousness is not revealed perfectly and matter goes into action with a distorted conception of its mission. The result is a state of confusion within the body. Cosmic consciousness is never confused, it is always in a unified state, so the harmonious manifestation of an idea depends upon the stillness and impersonal attitude of the mind. A clear peaceful mind will always bring desirable conditions. A disturbed mind will cause distorted conditions.

076 感覚心は受信した印象を属人化し、自己の意見で歪めてしまいます。もしラジオエーテル波が妨害されると受信機の所にいる私達は雑音と呼ばれる攪乱を受け、その結果、私達は番組をはっきり聴取することが出来ません。これは人間についてもまた同様です。何故なら人の心が攪乱されると、意識という放送局から来るものが完全には明らかにならず、その使命の歪んだ概念による行為に物事が進むからです。その結果、肉体の中が混乱の状況になります。しかし、宇宙的意識は決して混乱はしません。それは常に統一化された状態であり、その為、アイデアの調和ある現出は心の静寂と非個人的な姿勢に依存しています。明晰で平穏な心はいつも望ましい状態をもたらすでしょう。一方、混乱した心は歪んだ状態をもたらすでしょう。

【解説】

宇宙の源泉から来る想念波動は常に完全無欠であるにも拘わらず、何故、私達は誤った行動をとってしまうのか、その仕組みについて解き明かしています。

イエスをはじめ多くの導師が素直さや敬虔、信頼、信仰が必要だと説いています。それは私達が高慢になるとやって来た想念・印象に対して、自分勝手な解釈をつけ、或はそれに便乗して自らの欲望を満足させようとしてしまうのです。そのことがその後の正常な想念流入を阻み、空白をもたらすために混乱してしまうと諭しています。

言い換えれば、想念は瞬発的なヒラメキであっても、それらには継続的な流入があり、ジグソーパズルのコマのようにある程度の数を得て初めて各々の繋がりが見えて来るものと思われれます。それ故に途中で受信が途絶えると全体のイメージを見失うことになるのです。そのため、私達はアイデアを求める際には、必ず真摯で素直な心境を保つ必要があるのです。

077 This proves to us then, that mind is not all there is since it can be used one way or another. Evolution is not the expression of mind but the expansion of mind. Just as an ungraded road is broadened and leveled in order to accommodate more traffic upon it, so must the highway of mind be expanded and smoothed in order to allow consciousness to project more numerous vehicles of thought to their proper destination. Mind is only the channel of expression, the avenue by which consciousness manifests itself in matter. Body, mind and consciousness, then, are one and inseparable. The body of matter would cease to exist if it were not supported by consciousness. Consciousness could not express itself in matter were it not for the conveyer over which it travels, and mind would be a useless nothingness were it not acting as a channel between the two.

077 このことは私達に、心というものはそれが様々な方向に使われ得るということから、心の現状が全てではないことを示しています。進化という言葉は心を表現したものではなく、拡張することが心を表すものです。丁度、未だなだらかに整備されていない道路がより多くの交通を収容できるよう拡げられ、平らにされるのと同様に、心のハイウェイは意識がより多くの想念の乗り物をそれらの適切な目的地に向けて抄出させられるよう、拡張し、滑らかにされなければなりません。心は表現のチャンネルに過ぎず、意識が物質にそれ自身を現出させる大道なのです。肉体と心と意識は、それ故一つであり、分離できません。物質からなる肉体は、もし意識による支援がなければ存在は途絶えてしまうでしょう。意識はそれ自身が通る輸送装置がなければ物質の中にそれ自身を表現することは出来ないでしょうし、心が両者の間のチャンネルとして行動しなければ何ら無用のものになることでしょう。

【解説】

実は心の機能は、想念波動をその内側に通すことだけのものであり、それ自体で判断したり制御したりすべきものではないのです。本項ではそれを道路に例えており、その上を高速で車（想念波動）を通す為には、その表面は滑らかであり、かつ幅広いことが必要です。よく言われる表現に、“心が狭い”というものがありますが、まさに言い得ているという訳です。

それでは心が判断しなくても良いのは何故かと言えば、宇宙的な想念はその中に既に解決策も内蔵されているような英知の部分も含まれているからであり、あとはそれに基づいて肉体が行動・実践することで良いのです。その背景にはそれら想念波動は創造主の意思に基づくものであるからです。物質と創造主を結びつける経路こそ、心であると説いているのです。

078 Remember, mind has the possibilities of expansion. Matter, again, is in the process of evolution; so neither mind nor matter is all in all.

078 覚えておいて欲しいことは、心は拡張の可能性を持っていることです。物質もまた進化の過程にあることです。ですから、心も物質もそのものだけでは全てではないのです。

【解説】

私達各人が精進すべき方向は、自らの心を広く開かれたものとするのであり、今まで気づいていなかったようなより精妙な波動やこれまで出会ったことのないような新しい分野のヒラメキにも心を開くことです。

これらは各自の試行錯誤の中で身に付く心境ではありますが、何より、これまで気付けなかった分野にも関心を向けて、様々な波動に寄り添った共感の姿勢が必要だということでしょう。

このように心の中を通る想念波動に肉体が呼応する関係が分かれば、本項で言うように心も肉体もそれ自体では完結せず、常に融合したものであるべきことが分かります。

7. CONSCIOUS AND SUB-CONSCIOUS MIND

079

There has been, and is, widespread misunderstanding regarding the status and function of the subconscious mind. This lack of knowledge has caused many people to get lost in mysteries which are of no value to humankind. There are books and teachings regarding the subject, which we find by research to be wrong. We know that the so-called conscious mind, which is the intellect that we use daily to govern our normal activities, is very fickle and weak. This mind receives impressions from the senses and formulates its own opinions and is subject to uncertainties, fear, or any emotional change that comes its way. This mind gives credit to a sub-conscious mind which it feels possesses memory of past events and a greater knowledge of things unknown to itself.

第7章 意識的心と潜在意識的心

079 潜在意識の心の状態と機能については、広範囲に拡がった誤解があります。この知識の欠如の為、多くの人々は人類にとって何らの価値のない神秘の中に迷っています。このテーマに関して書物や教えがありますが、私達は調査の結果、それらが誤りであることを見出しています。私達は、日常、私達が普通の行動を支配するために用いている知性である、いわゆる意識的心は、大変移り気であり、弱いことを知っています。この心は諸感覚から印象を受け取り、自分の意見を作り上げ、やって来る不安定さや恐れ、あるいはその他感情への変化に従属しています。この心は過去の出来事に関する記憶や自分自身には分からないより偉大な知識を有していると感じている潜在意識の心に信任を与えているのです。

【解説】

よく言われる潜在意識とは何か、あるいは通常私達が言ういわゆる顕在意識とは何かについて、本章で私達は改めて学ぶことになります。

著者はこれらこれまでの意識についての分類には誤りがあり、そのように分類することに意味は無いと語っています。重要な点は私達が通常、意識或は顕在意識や意識的心と言うべきものは、もっぱら各自の感覚（視覚、聴覚、味覚、嗅覚）の意見に従っているだけで極めて不安定なものだと説いています。つまり、唯一の拠り所はこれら感覚器官の反応とこれまで記憶に残っている経験のみで、真理に基づくものではないのです。

一方、潜在意識は人間にではなく宇宙的知性に基づいており、はるかに優れた知性を有しています。この潜在意識との交流こそ私達に必要であり、各自はもっと親しむことが求められているのです。

080

This so-called subconscious mind is in reality one in consciousness with the ever present Cosmic Intelligence. It is the Soul mind in the body of man; that which built and maintains the body. It fears nothing and respects nothing in the sense of personal respect. The sense mind is negative and the All-knowing mind is positive and they are one. In order to enjoy the full benefits of each, man must discipline the sense mind to follow the dictates of the Soul mind. This mind gives impressions for action that is sometimes beyond the perception of the sense mind, and will continue to do so from time to time until the sense mind executes the impression perfectly, so that it may partake of the experience of right action. Just as a teacher would tell a child to do something in a certain way and the child did not do it, but made a mistake, if the teacher should allow the child to go on that way, would it ever know the right way of doing that which it was told to do? No. Therefore the teacher, in order that the child may know the right way, insists that it be done over and over until it is done right and by so doing the child has the practical experience of how it is done.

080 このいわゆる潜在意識心は、実際には永遠に現存する宇宙的知性と共にある意識状態の一つです。それは人体の中の魂の心であり、身体を作り維持している存在です。それは何ものをも恐れず、人の個人的事項に関し、何ものも尊ぶことはありません。感覚心は陰性ですが、全知心は陽性であり、それらは一つです。それぞれの恩恵を十分に享受するために、人は感覚心を訓練し、魂の心の指令に従うようにしなければなりません。この魂の心は時として感覚心の知覚を超える行動に向けた印象を与え、感覚心はその印象を完璧に実行するまで、時折そうし続ける結果、感覚心は正しい行動の体験を共にすることが出来るようになります。丁度、教師が子供をあるやり方で何かさせようとし、子供がそうしようとせず過ちをしでかす時のように、もし、教師がその子供をそうすることを許していたとすれば、その子供は言いつけられた正しいやり方を知るでしょうか。いいえ、出来ません。ですから、教師はその子供が正しい方法を知るようになるため、正しく行うまで何度も何度もそうすべきと主張しますし、そうすることで子供はどのようにして為されたかの実験的な体験を持つのです。

【解説】

私達が注目すべきいわゆる潜在意識という知性は私達各自の中に常に存在し、宇宙的な知性と繋がっているのです。それは私達の肉体の心とは異なるもので、普段、私達の心はその存在に気付くことなく過ごしています。

しかし、ほとんどの生命活動はこの潜在意識に基づいて行われている訳であり、私達の心はその上に無知の状態のまま、まどろんでいるということでしょう。

唯一の救いは時折、心がこれら潜在意識から宇宙的印象がもたらされることであり、それに対して私達が正しく呼応して行動した結果、宇宙的な経験を得るような機会が与えられることです。こうした好機を逃さず活用し、自分のものとするのが進歩に繋がるということなのです。

081 To bring ourselves into a broader state of conscious awareness we must transfer the controls from the sense mind to the All Knowing consciousness; and by so doing we transform the body into its natural state. The conscious thoughts that we entertain in our mind draws like conditions unto us. If we wish to expand in conscious awareness of that which we really are we must place the past conditions which have already served us in their proper place, and progress into the vast understanding of a limitless being.

081 私達自身をより幅広い意識的自覚状態にするためには、私達は統制を感覚心から全てを知る意識に移行させなければなりません。そしてそうすることによって、私達は肉体を自然な状態に変質させるのです。私達が自分の心の中で抱く意識的想念は同様な状況を私達に引き寄せます。もし私達が実際にあるがままの意識的自覚を拡張したいと願うのなら、私達は、私達に役立った過去の状況を適切な場所に置いて、無限の存在への広大な理解へと前進しなければなりません。

【解説】

重要なのは私達が意識している内容は、その内容に関わらずそのまま私達の心身に影響を及ぼしていること、心身はそれら私達の意識している内容を反映したものとなっていることです。昔から”病は気から”と表現されているように、私達各自の精神状態はそのまま身体に影響を及ぼしているのです。

この為、仮に一時的にせよその者の心境をリフレッシュ出来れば、病状も回復に至るという訳です。ここでのポイントは私達が日頃から心に抱いているような想念は私達自身に大きな影響を与えるという原理を十分に理解することです。つまりは私達が今、何を意識しているかが重要であり、それをより明るく、活発、前進的なものにすれば自ずと環境は良化するものです。それ故に意識は重要ということです。

更に進めば、宇宙的な意識を努めて取り入れることは心身全体を大きく進化させ、常に若々しく保つことに疑念の余地はありません。他惑星人が長寿命なのは、この意識の作用原理を理解し、実践しているからに他なりません。

082 Knowing what we are, we then have to hold fast to that which we want and eliminate from the conscious sense mind that which we do not want. We are bound to get results if that which we want is the right thing for us to have at that time. Otherwise we will get what we need at the proper time.

082 私達が何者であるかを知った後は、私達は自分達が欲するものをしっかり保持し、望まないものを意識的な感覚心から駆逐しなければなりません。私達はもし、私達が欲するものが、その時私達を得るのに正当なものであるなら、結果を得る筈なのです。さもなければ、適切な時期に必要なものを得ることでしょう。

【解説】

”思いは実現する”とあるように、如何なる想念も心に入り込んだ時を起点として、それは諸々の要素に働きかけ、実現を目指すことになります。これは法則であり、想念の基本的な作用なのです。従って私達は自らの心には真に望ましい想念のみを配置し、望まないような類のものを排除して置く必要があります。

未来に対する楽観的な態度や希望等こそが重要であり、その者の人生の指針ともあるものと言えます。よく言われることに”先ずは目標を設定せよ”という表現があります。各自が将来に何を望むのかを明確にすることで、やがてはそれに近づく人生の歩みともなる筈だからです。

そしてその究極の姿としては、何も望まずただひたすら仏の導きの通りとする心境、即ち全てを宇宙の英知の指示に委ねること、創造主への信頼・信仰ということになり、無欲無我の心境となるのではないかと考えています。

083

But man must have faith and confidence in the workings of the eternal law; if he has any doubt he will block the condition from appearing. A doubt as small as a mustard seed will keep it from him, but should he have faith as small as a mustard seed he shall have the desired manifestation.

083 しかし、人はその永遠なる法則の作用に対し、信頼と確信を持たなければなりません。もし、どんなものでも疑いがあれば、現出の条件を妨げることになります。カラシ種ほどの小さい疑いは、その者から遠ざけますが、カラシ種ほどの小さい信頼があれば、望んだものの現出を得ることでしょう。

【解説】

しかし、このような素晴らしいアイデアを得たとしても、私達自身の心の中にその実現を阻むもの（いわゆるサタン）が存在します。それは疑いであり、不安感です。よく言われることですが、こうした迷いはその者の行動を抑止し、現状のまま放置しようとするのです。

想念自体の持つ実現力を発揮させる為には、その受け入れに当たって、いささかの疑念もあってはならないのです。イエスのカラシ種のたとえがそれであり、少しの疑いや迷いもあってはならないのです。丁度、フィギュアスケーターが次々に氷上の演技を披露する間、スケーターの心には一瞬の迷いも無いことでしょう。全ては心に流れる高速度な想念の流れに身体各部を従わせ、自らをその完璧な表現者としている訳です。

即ち、一瞬たりとも迷いがなく、次々に流れ来る想念を表現することが芸術性を生むのは、その想念自体が本来、そのような宇宙的な性質をもっているからなのです。

084 Man has risen from the savage state to the present civilization only by wanting the better things of life knowing that he could have them.

084 人は野蛮な状態から今日の文明まで、実現出来ることを知りつつ、生活のより良い物事を望むことのみによって立ち上がって来たのです。

【解説】

何事も向上心がなければ進歩はありません。よく高齢になると、これで良しとする傾向になりがちですが、それは決して現状維持にはならず、退化・後退の道を下っていると思うべきでしょう。

映画「2001年宇宙の旅」に表されているように、私達地球人はこれまで未開の民から、今日の文明を築くまでになりましたが、それも私達の中の優れた先駆者の努力と情熱のお蔭でもあるのです。こうして高度な文明社会を一応は構築出来た私達ですが、現在は再び大きな問題を抱えていて、その解決にもがいているという所です。

こうした中、私達一人一人はこれら諸問題の解決を目指して新しい宇宙的思想を取り入れるべく、本講座を学んでいるのです。

8. MAN IS A FOUR SENSE BEING

085

One of the greatest bits of wisdom ever given to man by the outstanding philosophers of all ages is composed of two words: "Know thyself." That one assignment has kept the seekers of knowledge hard at work for billions of years, and it will still be a supreme admonition a billion years hence. It is an eternal study, for man himself is eternal. In that one statement the philosophers have taken in the whole of the Cosmos.

第8章 人は四つの感覚からなる存在

085 あらゆる時代の傑出した哲学者から人類に与えられた最も偉大な英知の小片は二つの言葉から成っています。「Know thyself (汝自身を知れ)」。その課題は知識の探求者を何十億年もの間、勤勉に働き続けさせましたが、またなお、これから10億年も最高の説諭となるでしょう。人自身が永遠であるために、それは永遠の学習なのです。その一つの声明の中に哲学者達は宇宙の全てを取り込んだのです。

【解説】

様々な場面で「汝自身を知れ」という言葉が示されて来ましたが、その起源のほどは存じませんが、ソクラテスをはじめとする遠くギリシャ文明にも遡るとされています。

しかし、私達はこの言葉の真意を十分には理解して来なかったように思います。これは後世のいわゆる「身の程をわきまえる」等の意味ではなく、はるかに深遠な意味を持っているという訳です。

これまでの学習から私達自身には宇宙的知性を備えた細胞があり、その数、60兆。またその一つ一つの細胞を構成する分子原子自体にも知性がある等、私達を構成する要素は知性に溢れていることを学んでいます。

こうした上に立って、その頂点に位置すべき私達自身には何の記憶も知識もないまま、惰眠をむさぼり、好き嫌いの裁きを下しているのが実状であり、そのことを十分に自覚せよとしているのです。

086 The desire within all men to understand themselves is increasing tremendously. Theory upon theory has been advanced in the endeavor to throw some new light on the subject. Of late years we have heard a great deal concerning the senseman, and the control of the senses as a means of living above conditions and environments, yet we are still struggling under a misconception concerning them.

086 自分自身を理解しようとする全ての人の内側にある願望は驚くほど増えています。理論に次ぐ理論がその課題に何らかの新しい光を投げかけようと努力の中に繰り広げられて来ました。昨今では私達は、状況や環境を超越して生きる手法として、感覚人や感覚の制御について多くを聞いていますが、それでも私達は未だ、それらについての誤解の下であえいでいるのです。

【解説】

哲学や心理学等、人間自身の課題や特徴を学ぼうとする傾向は、現在でも続いていると言えるでしょう。今日ではインターネットの検索サイトで関連するキーワードを入れれば、古今東西の研究事例を抽出してくれる為、居ながらにして世界中の研究の歩みを知ることが出来ます。

しかし、このような事例調査よりはるかに有益なのは、私達自身を研究対象として日常的な観察を行い、その特徴を把握することです。他人の理論に囚われず、自身の体験を通じ、実践を通して少しずつ自分を理解することが望まれています。

087 We have looked upon ourselves as a five sense being possessing the attributes of sight, hearing, taste, smell, and feeling or touch. We have drifted along idly contenting ourselves with this analysis of our makeup, but recently we have become quite curious to know just how these senses work and what they are. In our seeking we have run our craft upon a rock. We have been unable to account for certain elements of action which we have encountered in our daily lives and so to relieve the tension of this uncertainty some of our most learned theorists have endowed us with a sixth sense. To this added sense has been attributed all the phenomena that have been unexplainable in the five sense man. In fact there have been those who have sought to add a seventh sense. The mortal mind seems to have a faculty for complicating that which is very simple and thereby creating confusion instead of understanding.

087 私達は自分自身を、視覚、聴覚、味覚、嗅覚そして触覚ないし感觸の5つの感覚の属性を持つ存在として見なして来ました。私達は私達の成り立ちをこの分析で無益に満足したまま漂って来ましたが、最近になって私達はこれらの感覚の作用がどのように行なわれるか、またそれらは何であるかについて大いに知りたいと思うようになりました。私達のこの探求の中で私達は自らの乗り物を岩に乗り上げてしまいました。私達は私達の日常生活の中で出会ったある種の行動の要素を説明することが出来なかった訳であり、この不確かさの緊張を和らげるために、私達の最も学識のある理論学者達は私達に第6番目の感覚を授けたのでした。この付け加えられた感覚に5つの感覚の人間となる説明不可能な全ての現象が割り当てられました。本当は第7番目の感覚を追加した人達もいたのです。死すべき人間の心は、とても単純な物事を複雑にする才能があるようで、これにより理解の代わりに混乱を創りだしています。

【解説】

私達そのものが何であるかについて、私達はあまり良く考えたことはありません。そもそも私達が何を指針として生きているか、私達自身は何者であるか等、思いもしないまま生涯を送っています。

その結果、多くは年齢を重ねるとともに習慣性のワダチから抜け出ることなく、退化の道を下って行くということです。

しかし、それで良いのかという疑問も残ります。そもそも私達がこの世に誕生した意味は何か、私の果たすべき役割を十分に勤めて来たかを顧みる時、自然と反省の念が起こるものです。

本項はそうした中でも私達自身が何に頼って生きて来たかについて、振り返ることを私達に求めています。既に前講座「テレパシー」の中で私達は自身が四つの感覚に支配されていることを学びました。つまり私達の日常はこれら四感覚の騒ぎに身を委ねる中でより本質な感受性、想念波動への鋭敏性が失われつつある問題を学んできた訳で、ここで改めてその重要なポイントを復習することが求められています。つまり、視覚や聴覚、その他の感覚に拠らない真の感受性こそ万物と交流出来る基本感覚と言えるのです。

088

If you have accepted the theory of the sixth sense you will no doubt be surprised by the statement which I am about to make, but as one of the great Chinese sages has expressed it - "The truth that we least wish to hear is that which it would be to our advantage to know."

088 もし貴方が第6感の理論を受け入れていたなら、きっとこれから私が行なおうとする発表に驚かれることでしょうか、偉大な中国の賢人の一人が表現したように、「私達が最も聞きたくないと思う真実は、私達が知ることによって私達の為になるというものが多いのです。」

【解説】

老子の言葉に「信言（しんげん）は美ならず、美言（びげん）は信ならず」（信じるに値する言葉は美しいものではない、飾った言葉は信じるに値しない）。自分のためになる言葉は心地よく聞こえるものではない。」とする教えがあるとされています。

本項では、通常、第6感と称している想念波動の感受性について改めてその誤りを指摘している訳ですが、そもそも私達はこれから自分自身と向き合うに当たって、これまでの概念を一端、全て捨て去ってから新しい気持ちで本書が伝えようとする内容に耳を傾けるべきだと説いているのです。

089

The purpose of this lesson is to show you by means of practical analysis that man is not the possessor of the five senses but is actually a four sense being. This, we realize may be more difficult for you to accept than the belief in the sixth sense, for we as mortals can more easily accept that which we feel adds to, rather than subtracts from that which we think we have. However, this subtraction, as you will find, is not in the nature of releasing something as a loss, but as the process of gaining something much greater.

089 この教科の目的は、貴方に実際の分析の手法を通じて、人間は5つの感覚の持ち主ではなく、実際には4つの感覚の存在であることを示すことにあります。このことは貴方にとって第6感を信じるよりはるかに難しいだろうと私達は承知しています。何故なら、死すべき存在としての私達は私達が所持していると思っているものから減ずるより、加わることを容易に受け入れられるからです。しかし、この引き算はやがて貴方も分かるように、失うという意味で何かを手放すという性質のものではありません。そうではなく、より大いなる何かを得る過程のものなのです。

【解説】

本項は私達の本質として、五感ではなく、四感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚）がその基本構成となっていると指摘していることは、多くのアダムスキー学習者は既にご存知の通りです。その上で著者は私達自身が潜在的により多い才能を持つと言われることは好むが、それを減らされることについては抵抗があるであろうとも言及しているのです。

しかし、私達自身の正体と向き合う為には、現実と対峙しなければならず、日頃の私達の反応や行動について真摯に顧みることが重要です。あらゆる不要な事柄を捨てて、より本質のものだけに注目を傾ける断捨離はそれまでの重荷を整理し、身軽になることを勧めているものと思われます。私達自身にとって必要なものを改めて洗い出し、整理する作業が必要となるのです。

090

Let us, therefore, analyze the sense man. You have believed that man is endowed with five avenues of expression - sight, hearing, taste, smell and feeling. Each of these attributes is supposed to have the ability to act independently of the others. We can close our eyes and hear, taste and smell. It is possible to decipher between sweet and sour without hearing, smelling or seeing the object in question. We can certainly tell the difference between a bit of garlic and a rose without using the sense of sight, sound or taste. So it is possible to prove that four of our senses do work independently of each other. But now let us remove that which is known as the fifth sense; let us deprive man of feeling. What is the immediate result? The result is a state of unconsciousness; the four other senses are ceased to function, even though the organs of sense themselves, are still existing in the body. The eyes, nose, palate and ears are uninjured yet they do not see, smell, taste or hear. Apparently these senses cannot, then, work independently of feeling. Does this not prove that feeling is not a sense, but the conscious power which gives sensation to the senses?

090 それ故、感覚人間を分析して見ましょう。貴方は人が5つの表現の大通りを授けられていると信じて来ました。視覚、聴覚、味覚、嗅覚そして触覚です。これらの属性の一つ一つは他と独立して作用する能力を有しているように思われます。私達は目を閉じて聴くことや味わうこと、香りを嗅ぐことが出来ます。問題の対象物の音が聞こえなくても、臭いが嗅げなくても或いは見えなくても甘いとすっぱいの味の違いを判読することは出来ます。私達は確かにニンニクの薄片とバラの違いを視覚や音や味の感覚を用いずに言い当てる事が出来ます。ですから、私達の4つの感覚は互いに独立して働いていることを証明することが出来るのです。しかし、第5番目の感覚として知られているもの（訳注：「触覚」のこと）を取り去って見ましょう。人から触覚を取り除いて見ましょう。直ちにどのような結果になるでしょうか。結果は無意識の状態です。4つの他の感覚は感覚器官自体は依然として肉体に存続していても機能を停止します。目や鼻、舌や耳は傷ついていませんが、それらは見ることも嗅ぐことも味を感じ、聴くことはありません。見たところこれらの感覚は触覚から独立して作用することは出来ないようです。このことは触覚は感覚ではなく、感覚に刺激を与える意識的な力であることを示すものではないでしょうか。

【解説】

本項では私達の外界との接点、或は経路として役立っているのが、四感覚だと説いています。これら四つの経路は互いに独立して機能を果している訳ですが、それらの機能も触覚の助けがなければ機能しないのです。よく表現されるように「意識がなければ」感覚器官は正常であっても、それを機能させることは出来ません。

このことは私達は本来、感覚ではなく「意識」に依存した存在であるとも言えるのです。とかく私達はこれらの感覚を通じた情報だけに頼って生きている訳ですが、既に十分に学んでいるように、これらの情報は結果の情報でしかありません。物事が進行しようとする時の情報、想念・印象波の動きについては全くの鈍感なのです。ここに私達の課題があります。私達は自身にある意識なる機能を活用して印象レベルの情報を知覚することで、進化の道を歩むことが出来るということです。

091

Each sense is able to operate independently of the other senses only so long as it is supported by the life force of feeling, but the feeling or consciousness is entirely independent of the four senses. The sense of sight, taste, smell and hearing might all be destroyed and yet so long as the feeling remained man would be a conscious, active being, knowing joy and sorrow, peace and pain, and altogether very much alive. The feeling is indestructible. It is the eternal, the everlasting intelligence. The destruction of the body cannot destroy the feeling, which is consciousness. It is like the electricity which flows through the wires to the bulb to produce light. If the bulb is destroyed the electricity cannot produce light through it, but the electricity is not destroyed. On the other hand, if the electricity is withdrawn it matters not how good the bulb may be there will be no light emanating from it.

091 各感覚は触覚の生命力によって支えられている限りのみ、他の諸感覚から独立することが出来ますが、触角あるいは意識はその四感覚とは完全に独立しています。視覚、味覚、嗅覚そして聴覚が全て壊されても、触角が残る限り、人は意識があり、行動でき、喜びも悲しみも平穏さも痛みも感じることが出来、まったく活発に行動できます。触覚は破壊されることはありません。それは永遠であり、永続する知性なのです。肉体の破壊によって意識である触覚が破壊されることはありません。それは光を作り出すために電球に電線を通じて流れる電気のようなものです。もし電球が壊されれば電気は電球を通じて光を作り出すことは出来ませんが、電気は破壊されることはありません。もし電気が取り消されれば、電球が如何に良いものであるかは問題にならず、電球から光が出ることはありません。

【解説】

これから私達が着目しなければならない”意識”について、既存の四感覚を支えるのみならず、それ自身は電灯の光をともす電気のように形はなくても肉体に属する四感覚を機能させる基本的なエネルギーであると説かれています。

このように意識は肉体に属するものではなく、より高次のエネルギー体であり、形のないものと言えるでしょう。時間や空間に限定されることなく、自由に空間をさまよって出ることが出来、あらゆる他の存在との融和し、相互に理解し合えるという特徴があります。

それ故、この意識を発達させられれば、私達には時間や空間の制限がなくなり、自由に伸び伸びとした生活を楽しむことが出来るという訳です。

092 Within the last few years the attention of the world of science has been attracted to the many cases of suspended animation where the body remains for months in a state of perfect preservation. The sense organs are normal, yet they cease to function in a conscious way. Why? Because most of the feeling has left the body; approximately ninety-nine percent of the consciousness has left, and while one percent of feeling within the body keeps it from disintegrating, this is not enough to cause any apparent awareness within it. Many of these cases have reentered into active life. The feeling had again taken possession of the body and reanimated the inert organs of sense producing in them a state of conscious awareness. If understood rightly these four senses of man correspond perfectly to the four elements of creation, and the so-called fifth sense is the stimulus which imparts to them the animation necessary to produce conscious functioning.

092 過去数年間、世界中の科学の注目は、肉体は何ヶ月も完全な保持状態である中での生気が中断している多くの事例に引き付けられて来ました。感覚の諸器官は正常なのですが、それらが意識的には機能しなくなっているのです。何故でしょうか。それは触覚の大部分が肉体を離れてしまっているからです。概ね意識の99%が離れてしまっており、肉体の残り1%の触覚が肉体の分解を抑えており、これでは肉体内部に知覚をもたらすには十分でないのです。これらの多くは再び生気を取り戻しています。触覚が再び肉体内の位置を取り戻し、不活発な感覚器官を再び活性化し、意識ある覚醒状態にしたのです。もし正しく理解していれば、人間の四つの感覚は創造の四つの要素に対応し、いわゆる第五感覚は、意識的機能を作り出す為に必要な活性化を与える刺激ということが分かります。

【解説】

手術や検査の際の全身麻酔の場合も本項の内容に近い状況と言えるでしょう。確かに一部の薬剤が及ぼす作用により、感覚は麻痺し、私達自身の意識も薄れさせることが出来るのです。

こうした場合にも、意識・触覚の作用が1%でも残っている限り、生命は存続することが出来るということでしょう。重要なのは意識・触覚の機能が存続していることであり、それが無くなってしまえば生命体ではなくなるという訳です。それ故にこそ、私達は意識・触覚を自らの生命の本体として大切に切り扱わなければなりません。

093

In other words this sense is merely the unification of the four senses with that unlimited conscious feeling which controls, supports and animates every conceivable thing in the universe. It is the expansion of the four senses in the channel of feeling which makes of the mortal sense man, a conscious user of conscious power. Through this education of the senses the sight becomes a microscopic sight extending beyond the gross material forms; the hearing is expanded to catch the soundless sound frequencies. etc. Each of the four senses will themselves into greater fields of awareness through the recognition of Cosmic Feeling which is the mother-father thought supporting them.

093 言い換えれば、この感覚（訳注：触覚）は、宇宙空間の中のあらゆる知覚し得るものを支配し、支持し、活性化する無限の意識的な感じによってその4つの感覚を統合しているに過ぎません。それは触覚の経路への4つの感覚の拡張であり、死すべき感覚人間を意識的な力の意識的利用者にするのです。諸感覚の教育を通じて、視覚は大まかな物質の外観を超えて顕微鏡的な視野となり、聴覚は音のしない音波を捉えるまで拡張します。4つの感覚の各々はそれらを支える母性及び父性の想念である宇宙的な触覚の理解を通して自らをより大いなる気付きの場にもたらしめます。

【解説】

私達が融合を目指すべき宇宙的知性と私達とはどのように繋がっているのかを、本項では明確に示されています。即ち、通常私達が”触覚”と言っている感覚こそが私達を宇宙の因にまで繋げる意識の要素であり、それを発達させれば自ずと宇宙的な存在になることが出来るという訳です。

触覚は私達の四感（視覚、聴覚、味覚、嗅覚）の機能も支えており、触覚が無くなれば私達は無意識の状態になったのと同じ状況です。感覚器官に異常がなくても触覚的要素、即ち肉体内に張り巡らされた神経網が機能しない限り、その感覚は働くことはありません。全ては触覚的要素に掛かっている訳です。

しかし、もし私達が各自の肉体の中のこれら触覚的要素をより宇宙的に向上させ、肉体を通過する想念・印象波を感知できるようになれば、私達は宇宙から直接学ぶことが出来る筈です。それこそが本文で言う宇宙の父性母性原理に従うことにもなるのです。

094 The mortal may be likened to a violin, which is the closest to the human expression known as man. Upon the violin there are only four strings; through the medium of those four strings can the coarsest or the most celestial melodies be played but the Instrument is only a bit of wood and string until it is acted upon by a conscious intelligent force. The sounds produced depend upon the skill of the musician. The four senses in the instrument called man are unable to bring forth any expression of life without the aid of the All-Inclusive consciousness which is feeling.

094 死すべき人間はバイオリンになぞらえることが出来るかも知れません。バイオリンは人として知られる人間的表現に最も近いものです。バイオリンには4つの弦しかありません。それらの4つの弦の媒体を通じて最も粗いものも最高に天上的なメロディーも演奏されることが出来ます。しかし、その楽器は意識的な知性を持つ力によって演奏されるまでは、単なる木と弦でしかありません。作り出される音はその音楽家の技量に依存しています。人と呼ばれるその楽器における4つの感覚は、触覚である全てを含有する意識の助け無しでは、如何なる生命表現をももたらすことが出来ないのです。

【解説】

これまでも紹介したことがあります。四弦からなるバイオリンは人間と最も良く象徴した楽器であるとされています。演奏者と一体になって楽器と演奏者の肉体が共鳴、一体となって音律を発する様は、ある意味宇宙的波動を表現する究極の楽器（インストルメント）とも言えるものです。

しかし、これら美しい音楽もその楽器の出来や奏者の技量が未熟であれば、期待された音律は得られないでしょう。道具としての楽器もそれを奏でる演奏家の能力が共に高まってこそその演奏なのです。このバイオリンを人体に例えるなら、私達は皆等しく上質な人体、即ち楽器を贈られてこの世に誕生しました。そして私達の四感覚、即ち心は自らの肉体を操作して来た訳ですが、果たして修行の結果、優れた音楽を生み出すまでに至っているのでしょうか。

何事も磨かざれば輝くものではありません。四弦を調律し何時でも各々正しい音を発するよう各弦が調律された後、優れたインスピレーションを得た才能ある奏者によってのみ、優れた曲が生み出される訳で、その演奏中はバイオリンは奏者のインスピレーションの完全な表現者になっているのです。

095

Feeling is a state of alertness - when expressed impersonally it is conscious awareness of conscious consciousness.

095 触覚は警戒の状態であり、非個人的に表現された場合、それは意識的意識に対する意識的な気付きとなります。

【解説】

私達の一連の触覚要素は既に述べられて来たように、フィーリングという想念・印象を感知する領域に繋がっています。おそらくは私達自身の肉体に張り巡らされた神経網から各細胞に至るあらゆる生きた器官に共通する感覚とも融合・共有できる感覚というものかと考えています。

その感受状態を著者は意識 (Consciousness)と表現しているのです。そしてその意識なるものは遠く宇宙とも融合していて、常に私達に有用な知見を提供し、また各々の生命活動を指揮しているという訳です。

それ故に各生物間は皆同じ意識体の下に生きており、兄弟姉妹の間柄であるということになるのです。

096

When that feeling is no longer playing upon the senses they lie inert like the muted strings of the violin after the consciousness of the musician is withdrawn to another channel of service.

096 諸感覚に対して触覚が作用しなくなると、諸感覚は演奏家の意識が別の奉仕の経路に引き上げられた後にそのバイオリンの沈黙した各弦のように不活発になったままになります。

【解説】

私達の四感自体、この触覚要素に支えられて機能している訳で、いくら肉体組織として正常な器官を有していても、それらは演奏家の手を離れたバイオリンのように自ら音を発することはないのです。

即ち、私達は意識の働きがなくなれば、生きる屍状態に陥ってしまう訳です。このことは私達自身、日常の暮らしが送れること自体、意識が働いており、生かされていることを自覚しなければなりません。置かれたまま音の出ない楽器になることなく、常に宇宙的意識を取り入れて、自ら音律を表現する存在で居たいものです。

097

In a television program called "Frontiers of Mind," the Bell Telephone Company presented an excellent scientific demonstration of what touch is and how it reacts to electrical impulses. It showed that touch is not a sense organ but acts as a telegraphic system via the nerves to the brain. It registers that which it contacts and relays that reaction as electrical impulses through the nervous system of the body. Touch is inseparable with feeling, for feeling gives sensation to the nerves.

097 「心の最前線」と呼ばれるテレビ番組の中で、ベル電話会社は触感が何であるか、またそれが電気パルスに対し、どのように反応するかを示す優れた科学実験を提供しました。その番組は触感は感覚器官ではなく、神経を経由して頭脳に通じる電信システムとして機能していることを示しました。それは触れるものを記録し、肉体の神経を通じて電気信号としてその反応を伝達しています。触感はフィーリング（訳注：触覚）と分けることは出来ません。フィーリングは神経に興奮を与えるからです。

【解説】

本項は私達が触感とか触覚と称して来た感覚は、身体のあらゆる部分を結びつける神経ネットワークの作用であると説いています。つまりはそれらの機能が私達が学ぶフィーリングと同じものであり、接触の反応は想念波の領域にまで拡がっていることを示唆しています。

通常、私達はこれら感覚の内、視覚を最も重視していますが、その視覚も受光量が小さくなれば把握することは出来ませんし、目の細胞の解像度以下のものも識別は出来ません。一方、自然界では光の無い深海や地中に生活の場を置く生物も多くあり、彼らは目以外の器官を活用して生きています。

中でも昆虫たちは触角や体毛等に鋭敏な器官があり、相手に触れることでその大きさや脅威について把握しながら、厳しい競争生活を生き抜いているのです。

私達も更に自らの触覚要素を活発にさせて、自分の人生に生かすことが求められているのです。

098

Science has now proven that the so-called fifth sense should not be classed with the other four.

098 科学は今や、いわゆる第5番目の感覚は他の4感覚と同類に見なすべきではないことを証明しているのです。

【解説】

以上述べられて来たように、私達は自分の持つ五感を同レベルに取り扱うのではなく、触覚については本来、より大きな役割、即ち私達自身を宇宙に繋げる大きな力を持っていることを自覚することが重要です。

その上で、これら触覚的な要素を単なる触感から想念・印象を感受するより精妙な器官に高め、各自の生活の中に実践・応用して行くことです。それこそが私達をこれまでの他者を批判し、不安に苦しむ生活から、宇宙に感謝し創造主に日々感謝する奉仕の生活へと転換させることに繋がるのです。

9. THE HIGHWAY OF PROGRESS

099

The sages of the Orient left to posterity many words of wisdom that might well act as guide posts along the way of life. Among the Chinese proverbs is one statement to the effect that "a journey of many miles begins with one step."

第9章 進歩の王道

099 東洋の賢人達は子孫に人生を歩む中で、案内標識としてよく機能する多くの知恵の言葉を残しました。中国のことわざの中に「何マイルもの旅も一歩から始まる」（訳注：「千里の道も一歩から」）という意味の言葉があります。

【解説】

私達の目の前には、遥かなる道が続いているのです。他惑星人社会のようなレベルに到達するには長い道程を歩む必要があるという訳です。

しかし、著者は私達にその道程は遠すぎて到底及ぶものではないと諦めを諭すことはしていません。毎日の一歩がやがてその道を克服出来ると説いているのです。

これについては一言、申し上げておきたいことがあります。即ち、実は一歩踏み出すと僅かですが、視界が広がり、自信も僅かですが身に付くものです。決して大きな進歩ではないのですが、山登りと同様、一歩一方が私達の視界を広げ、超えて来た後方を振り返る時、よくここまで登って来たと自分の進歩の歩みを感じることも出来る訳です。毎日の歩み、継続的な修練こそ、ゴールへの道ということになるのです。

100 In these days of restless activity and innumerable new discoveries, in the babble of uncounted creeds claiming space contacts and guidance, and in the uncertain whirl of diversified circumstances it is well to contemplate this bit of wisdom and stabilize oneself in the thought that action begins with one single step. That regardless of how far or how near the goal may be there can be only one step taken at a time. It is the first stride forward or backward that will carry a man in that direction. This is true of every act of our daily lives and is just as true in our start to live a unified life. It takes but one step at a time to lift us out of the rut of the old habits and start us on the highway of the new, but that step must be complete; we cannot put one foot forward and keep the other in the rut, for in such cases we will have made no progress. That is what many people are doing in their effort towards moving into the newness of cosmic life - trying to go forward into the vastness of Cause while clinging to the limited sense conceptions of traditional belief and opinions.

100 今日の落ち着きのない活動と無数の新しい発見の時代、宇宙人とのコンタクトや導きを得たと主張する無数の信条のたわごとや様々な状況下におけるはっきりしない渦の中にあっては、この知識の薄片をじっくり考え、行動は一步から始まるというその考えの中で自分を安定化することは良いことです。ゴールが如何に遠いか、あるいは近いかに係らず、一時に一步しか進むことはできません。前進であれ後退であれ、その方向に人を運ぶのは最初のひとまたぎです。これは私達の日常生活のあらゆる行為についても言えることで、統合された生命を生きる上で私達がスタートする上でも同じことです。古い習慣のわだちから私達を引き上げ、新たな王道で私達をスタートさせる為に一時にただ一步が必要なだけです。その一步は完全でなければなりません。私達は一方の足を前に、他方をわだちの中に置いたままにしておくことは出来ません。そのような場合、私達は進歩することはありません。それは多くの人達が宇宙的生活の新鮮さの中に移行しようと努力している中で行っていることでもあるのです。因の広大さの中に行こうとする一方で、伝統的な信念や意見という限定された感覚の概念にしがみついているのです。

【解説】

本項に記されている、宇宙人とのコンタクトや今後訪れるとされる世界規模の災害等について、多くの予言や情報を訴える事例は、実は現在の方が本書が記された当時よりも格段に増えていると言えるでしょう。

それほどに地球全体、社会全体の混乱の規模が広がっており、私達が行く末に不安を抱えているからに他なりません。しかし、自らの道は自らが築くことが必要であり、他人の言に左右されるべきではないでしょう。私達は何よりも宇宙的な存在に人生の舵を切らねばならないからです。その為には何よりも自らの歩みを新しい宇宙的な方向に進める必要があります。一步ずつ、一日毎に自分が何を学んだかを整理する必要もあるという訳です。

101

It takes courage and faith to walk the road of progress; the doubter will remain forever in the same old rut. He may turn his vision towards greater knowledge but it will remain forever a dream of mystery unless he releases himself from the spot upon which he stands and takes one step forward.

101 進歩の道を歩むには勇気と信仰を必要とします。疑う者は永久にその同じ古いわだちの中に留まりません。その者はより大なる知識の方向に自分の視野を向けるかも知れませんが、自分が立つその場所から自身を解放し、一步を前に踏み出さない限りは、永遠に夢の中に留まることでしょう。

【解説】

前項で毎日の一歩からというお話をしましたが、実際に多くの事例では、その一歩も完全に前に進むのではなく、片足は昔の状況のまま留まっている例も多いものです。人間は自分自身を変えることが実に難しく、長年の生活習慣の延長を改めようとは思わないものです。

しかし、他人の助言をいくら聞いても、実践しなければ単なる耳学問、知識に過ぎず、実体験を得ることは出来ません。その一方で氷上のフィギュアスケーターのように一瞬一瞬を行動していく中で、経験を積んで自らの体験を身体細胞に覚え込ませることが出来る訳です。

そしてこれらの記憶は忘れ去られることはなく、本人にとって永遠に保たれる体験になり、宝物になる筈です。長年月経過したとしても体験した事柄は長く記憶されるものです。そういう意味では何よりも一歩完全に踏み出し、その行動体験を積み重ねることが重要で、知識だけを蓄積することにはあまり価値はないものと思われま

102

What would this country be today if the pioneers who set sail from lands across the sea had lost faith and courage and spent their days merely dreaming of the new land while their ships remained anchored in the ports of the old world?

102 もし大西洋を横断した大陸から帆を上げた先人達が、信仰と勇気を失い旧世界の港に錨を降ろしたまま、単に新大陸のことを夢見て彼らの時を過ごしていたとすれば、この国（訳注：米国）は今日どうなっていたことでしょうか。

【解説】

何事も行動・実践しなければ成果は得られるものではありません。しかし、長年の習慣の中に生きる私達にとって、未知なる新しい世界に一步を踏み出すには大いなる勇気が必要なのです。

それ故、師は弟子がその一步を進む時、我が事のように喜び祝福するのです。ましてや放蕩息子の例のように父なる創造主から見れば再び父の元に帰ろうと決心し行動したことはこの上ない喜びであるのです。

同様な意味で、国内外の仏像も、私達が再び宇宙普遍の理の下に自らの生き方を改めようと発願し、行動する姿に対しては、大変暖かく見守っているように思うものです。また更に言えば、最も喜ぶのは各自の中にある意識・宇宙に繋がる生命活力ではないでしょうか。長年の苦節を経て、今日ふたたび父の下に戻る一步をしるしたことは、身体全ての細胞に再び生き返らせるほどの歓喜を与えることになるのです。

103

The thousands of scientific discoveries that have benefited humankind would be still in the realms of Cause if some few men had not had the faith to bridge the gap between the known and the unknown and had the courage to take the first step upon the bridge. The many things that we enjoy today may be laid to the credit of the few who were courageous enough to move forward into new realms of perception.

103 人類に恩恵をもたらした何千もの科学の発見は、もしわずかの人達が既知と未知との隙間に橋を掛けようとする信仰を持たず、その橋の上に第一歩を乗せる勇気を持たなかったとしたら、それらは依然として因の領域にあるままになっていたことでしょう。私達が今日享受している多くの物事は、新しい知覚の領域に進み出ようとする勇気を持った極少数の人達の貢献に帰すると言えるでしょう。

【解説】

今日、私達の生活は様々に便利なものに溢れ、私達はそれらの成果の恩恵に浴していると言っても良いでしょう。航空機や高速鉄道、更には高速無線通信網その他医療の進歩等、枚挙にいとまがありません。

しかし、このような技術も最初は各々の発案者がアイデアを導き、多くの後継者が改良を続けた結果、一般の人々も利用できるまでになったと言えるのです。本文ではこの時の最初の段階から各々のステップにおいて、まさに無から有を生み出す役割を担った人達の功績と、実行力、更にはそれを支えた信念や勇気について説いていると言えるでしょう。

何事も一歩踏み出す際には、そのアイデアを信じる勇気、受けた印象への信頼が必要なのです。私達の毎日の生活もその心境を応用しなければなりません。

105

One step can set a man on the highway of eternal learning - the everlasting revelation of facts that exist only in the laboratory of Cause which knows no limitations or boundaries. But after you have taken the first step, learn the lesson of patience so you may not try to travel faster than your understanding will permit, One step will set you on the highway, but there are billions of steps ahead of you, for after you have reached a goal you still must travel through Eternity. Man can never attain the totality of all that is to be known, for if he could do that there would be an end to all things. Knowing that this is true, why be impatient to forge ahead? Each step we take is new; each step is the first one from the point that we have previously reached. It is well to have ideals; we are given glimpses now and then of the fullness of the life ahead of us so that we may be inspired to continue action, but if we keep our eyes totally upon the future we are sure to miss the beauty of the present and we may stumble into a briar patch and endure much suffering while trying to extricate ourselves.

105 一歩の踏み出しが人を永遠の学びという王道、制限も境も知らない因という実験室の中にのみ存在する事実の永續する現出の場に据えることが出来ます。しかし、貴方が第一歩を踏み出した後は、貴方は自分の理解が許すより速く旅しようとはしないよう、忍耐の教科を学ぶことです。踏み出す一歩は貴方を王道に乗せはしますが、貴方の前には何十億もの歩みがあるのです。何故なら、貴方が一つのゴールに到達した後も、貴方には永遠を通じてなお旅する必要があるからです。人間は知るべき全ての全体性を決して達成することは出来ません。何故なら、もしそれが出来たとすれば、あらゆるものに終わりがあることになるからです。このことが真実だと知ったからには、どうしてせっかちに先頭を切ろうと突進するのでしょうか。私達が毎回、踏み出す一歩は新しいものです。私達が時折、私達の将来にある満ち足りた生活を先立って見せてもらえることもあります。もし私達が未来のみに全て着目していたとすれば、私達は間違いなく現在の美しさを見失い、イバラの小畑の中につまづいて、自分を救い出そうと、より手ひどい痛みを耐えることになるかも知れません。

【解説】

本文はこれから私達は日常をどう過ごして行くべきかについて、その最も肝要なポイントを説いているように思います。即ち、私達の前方にはもちろん素晴らしい未来が待っているのですが、そこには直ちに到達できる訳ではありません。一步一步進んで行く必要があります。

しかし、私達は目指す山の頂ばかりを見定めて登っているだけで良いのでしょうか。むしろ、毎日の一歩を楽しむ余裕、昨日と比較して良くなった視界を愛でるゆとりが必要であり、自然と美しさを謙虚に賛美し、その中に生きていることを感謝して過ごすべきです。

先日、致知出版社のメルマガの中に60年以上現役を続けた将棋の加藤一二三さんのインタビュー記事が出ていました。その中で「人は神様から愛されているから存在する」「人は無から存在に呼び出された」という言葉が紹介されていました。「人生には様々な敗北や挫折があるが、神様から与えられた魂を失わない限り、絶望はない」とお話された中に、厳しい勝負の世界の毎日を乗り越えて得られた真理が良く表されていると思った次第です。創造主に見守られているという心境こそ大事なものはないのです。

おわび [2020-09-10]

昨日の記事についてはタイトルの段落番号に誤りがあり、掲載の順序に誤りがありました。本日と昨日と順番が逆になりますので、ご了承下さい。

竹島 正

104

It is true that the step into the wholeness of life carries us into the unexplored but what would our existence be if we remained always in the world of the obvious? Delving into any subject takes us from stagnation to knowledge and progress. There is no need for any one remaining in the state of disintegration or static mental condition when everyone is privileged to step into the newness of things and study in the school of everlasting advancement. There is no place to which a man is bound; he may go forward freely whether it be in a world of acts or in the universe of facts. There is no standing still; one must go either up or down, and the upward step is always the proper one to take. All of the storehouses of earthly knowledge in which various manuscripts are treasured contain not even a beginning of the wisdom that is held within the storehouse of the cosmos.

104 生命の全体性への歩みは私達を未踏に運び入れますが、もし私達が明らかな世界にいつも留まっていたら、私達の存在意義は何なのでしょう。どんな課題でもそれを掘り下げることが、私達を停滞から知識と進歩に連れ行きます。誰もが物事の新鮮さへの一歩が与えられ、永続する前進の学校での学習が与えられているというのに、誰一人、崩壊或いは静止した精神状態に留まっている必要はありません。人が縛りつけられている必要のある場所は存在せず、人は行動の世界や事実の宇宙の中であれ、自由に前進することが出来るのです。静止しているものは何一つありません。人は上昇するか下降するかのいずれかであり、上向きの一歩は常に取るべき適切なものです。様々な原稿が収蔵されている地球上の知識の宝庫の全てをもっても、宇宙の宝庫の中に保存されている英知の冒頭さえも含んでいないのです。

【解説】

真に宇宙的に生きるとはどういう事かを本項では説いているように思います。

即ち、私達は前進か後退かのどちらでしかなく、停滞とはとりも直さず時代の流れから取り残され、習慣の中に埋没し退化して行くことになるのです。

しかし、これを為すには何か大変な努力をしなければならないという訳ではありません。私達の意識をもっと自由に拡げ、空間を行き来させ、新しい想念・印象と出会うことが重要なのです。この意識を拡げることは肉体とは関わりなく自由に出来る筈です。こうした自由闊達、開放的な心境になることで、やがては宇宙的想念・印象と出会う中で、進歩を遂げることとなる筈です。

106

Remember that youth is the result of constantly renewed thoughts and life is activity - it is progress. The first step taken in any field of accomplishment is an initiation into a new endeavor and requires a certainty that is born of perception - an assurance of a vastness that lies beyond our present line of vision. Neither you or I know what each new step will bring but the journey must be made and only faith will reveal truth to us.

106 覚えておいて欲しいのは若さとは絶え間なく更新される想念の結果であり、生命とは活動であり、進歩であるということです。如何なる達成の分野でも踏み出された最初の一步は新たな努力へのはじまりであり、私達の現在の視界の境界線の奥に横たわる広大さの知覚への確信を必要としています。貴方も私も新しいそれぞれの一步が何をもたらすのか知るものではありませんが、その旅は為されなければならず、唯一、私達の信仰が私達に真理を明らかにすることでしょう。

【解説】

新規分野への踏み出しに対して、失敗を恐れる人と希望が湧く人とが居ることでしょう。そのどちらがあるべき姿なのか、本項は私達に諭しています。

もちろん失敗を恐れて踏み出すことが出来ない者は、新しい経験を積むことが出来ずに人生を終えてしまいます。しかし、夢ばかりを追い求めていても成就是遠く及ばないことも体験上、分かっています。重要なのはその一步を踏み出した時、単に従来のエゴの妄想を展開させることなく、心を落ち着けて、その一步を踏みしめ、生じて来る課題に向き合うこと、また自ら得たビジョンを信じることかと考えています。根気よく努力することで自ずと道が拓かれることは既に学習しているからです。

こうしたチャレンジを続ける中では人は老いることはなく、いつまでも新鮮な心境を保っていられることにもなるのです。

107

Through our life on earth we have learned a great deal; how much more we shall learn as we venture into the realms of Cause. We shall know much more beauty than we have known in the world of effects. Our admittance to such knowledge is not difficult - just one step can prove itself the key that will unlock the chambers heretofore unknown to us. "There is nothing," we have been told, "that shall not be revealed." To the vision of the brave in heart no truth can be concealed. One single sacrifice - the releasement of old thought habits, may bring rewards far greater than you have ever dreamed

107 地球上における私達の生活を通じて、私達は多くを学んで来ました。私達が因の領域に足を踏み入れれば、更にどれほど多くを学ぶこととなるでしょう。私達の結果の世界で私達が知って来たよりも更に大きい美しさを知ることになるのです。このような知識に対する私達の入場の権利は難しいものではありません。ただ一步の踏み込みが、私達にこれまで知られていなかった特別室を開けるカギであったことを明かします。「明かされないものはない」と私達は教えられて来ました。心の勇敢な者の視野には如何なる真理も隠されていることは出来ません。ただ一つの犠牲、古い思考習慣の解放は、貴方が夢見たこと以上に大きな報酬をもたらすことでしょう。

【解説】

この宇宙哲学を学ぶにあたり、そもそも私達が何を目指しているかについて本文は明確に述べているように思います。

つまり、私達は地上における物質の世界、結果の場についてはこれまで多くを学んで来ました。そしてその過程で優れたもの、美しいものにも出会って来た筈です。

しかし、それ以上に私達がこれから学ぼうとしているのは、因の世界、即ち創造主の想念が行き来し、これから万物が生み出される源泉の活動力の場を探求し、知ろうとしている訳です。そこにはこれまでの結果の世界とは比べようもない精妙華麗な世界が広がっていると著者は説いているのです。そして私達はその入り口の扉を開くことは十分に可能であって、唯一私達の古い思考週間を捨てることで良いのだと説いているのです。（注：私には映画「2001年宇宙の旅」の中でポーマン船長が木星の大気圏に入って行く際の様々な光が交差する映像の表現に、本文で言う想念が飛び交う因の世界が象徴されているように思っています）

10 FAITH

108 Faith is perhaps one of the most widely discussed topics in the world, yet it is the least understood. Teachers, ministers, psychologists, etc., all advise the development of faith and proclaim it as the basic quality of life but find difficulty in explaining this particular faculty.

第10章 信仰

108 信仰はおそらく世の中で最も広く議論された話題であり、また最も理解されていない話題でもあります。教師や聖職者、心理学者その他の人々は皆、信仰の発達を推奨し、それが生命の基本的な質であると宣言していますが、この特別な機能について説明することは難しいとしています。

【解説】

何故、Faith（信仰、信念）が重要なのかを本章では改めて学ぶことになります。

言い換えれば、そもそも何を信じようとしているのか、何故それが必要なのかということでしょう。これについてはまず、私達がこれから取り扱う因の領域については、それは未だ実現していない想念・印象の段階にあることと関連していることに気付きます。つまり、物質や物体として未だこの世に存在する以前の段階を取り扱う為、それがやがて実現することになると理解する上で、両者の繋がりを信頼することが基本となる訳です。

分かりやすく言えば、想い（想念）は叶い、実現するという静かな心境が重要です。それ故、心の中、或は受け入れる想念・印象の中に望まない事柄は微塵も混入させてはなりません。私達の心の中のもの全て遠からず実現することになる為、抱く想念には常にチェックすることです。自らが受け入れる想念が諸々の影響を及ぼすこと程、重要なことはありません。心に想起することはやがて実現するという法則性、またこうした私達創造物に対する創造主の見守りに対しても同様な信仰が必要だということなのです。

109 We know that all things in the manifested world are possessed of the positive and negative aspect. Faith is one of the positive aspects of man's character so what is the opposite of faith? Fear, of course! Therefore, to understand one we must understand the other; they are the two ends of one pole. Fear is the lower expression so let us begin with an analysis of it and work upward to faith.

109 私達は、創造されたこの世界の全ての物事は陽と陰の側面を有していることを知っています。信仰は人の性質の陽の側面の一つですが、それでは信仰の正反対は何でしょうか。もちろん、恐怖です。ですから、私達は一つを理解するには、もう一つも理解しなければなりません。それらは一本の棒の両端なのです。恐怖は低次元な表現ですから、私達はその分析から始めて、信仰まで昇って行くことにしましょう。

【解説】

おそらく生きて行く中で私達が絶えず直面するのが、この「恐怖」の問題でしょう。この要素出現は未来が予見出来ないこと、また現下の諸状況が絶えず変化している中、これからの私達各自がますます困難な目に遭うかを危惧するからです。

しかしこうした恐怖にさいなまれているのは人間だけのように思えるのです。たとえ明日朝屠られ生を終える水牛達がのんびり身体を休めていたり、何時踏みつけられ生命を終えるかわからない危険な状況にあっても、ひるむことなくアリ達は日々の仕事に精を出していることを私達は知っています。

こうした行動はどのようにして可能なのか、私達は真剣に考えてみる必要があるのです。そしてその結論は、各々には創造主への信頼、仮に生命が途絶えたとしても再び何処かで再生復活するという事実を信じていることが背景にあるということでしょう。

私達人間は大自然の中の彼ら動植物の持つこれら信仰（信念）について、もっと学び身に付ける必要があるのです。

110 If we analyze fear we will find it to be produced by a state of wondering in regard to our support and safety. In most every case fear is focalized about one's personal being or self-interest. Most men look upon the activities of life in the light of the effect that they will have upon themselves and those dear to them. They are living in the consciousness of the effective world, depending upon outer things for their support, and the recognition of the instability of outer effects produces a condition of uncertainty within their own minds. We may say then, that fear is the self-centered state and faith is living the impersonal state of being. Fear is based on effects; faith is based on Principle or Cause.

110 もし私達が恐怖を分析すれば、私達はそれが私達への支持と安全に関する不安状態によって作り出されることを発見するでしょう。ほとんどの場合、恐怖は自分の個人的な存在か自身の関心に焦点が当てられています。ほとんどの人達は、それらが自分自身や自分達にとって大切なものに与える影響という光で人生の活動を見ています。彼らは結果の世界の意識で生きており、自分達の支えを外側の物事に頼り、外側の結果物の不安定さの認識が心の中に不安定な状況を作り出しています。ですから私達は恐怖とは自己中心の状況であり、信仰とは非個人的な状態とすることが出来ます。恐怖は結果に基づくものであり、信仰は法則、即ち因によっているのです。

【解説】

確かにあらゆる場面を考えて自分に降りかかる障害の可能性を懸念して私達は普段から生きているように思います。ましてや競争社会にあっては世の中で生きて行くことは不安やストレスが貯まる傾向になるものです。また、昨今では新型コロナウイルスから如何に身を守るか等、多くの人は気が休まる時がないのではないのでしょうか。

もちろん、こうした心配事は危機管理の上からは事前に危険を予測する意味で大事なのですが、問題は過度に私達の心は恐れがちになることで、その行き着く先は身体にも変調を来し、食事も摂れなくなる事態に追い込まれる場合もあるのです。

問題はこうした不安や恐怖の心境がその人の未来、因の世界までも影響を及ぼすようになり、次々に悪循環の輪に入り込んでしまうことです。

このように不安や恐れは何一つ事態を解決しませんし、私達に良いことをもたらすことはないことを先ず理解する必要があるでしょう。その上で私達は結果のみを見て嘆くのではなく、自ら明るい想念・印象を心に取り入れて、自らの肉体細胞を良質な振動を発するようにしなければなりません。その為には、生命は一体、誰に支えられているかを良く調べ、その力の源泉に回帰する以外に方法はありません。しかし、こうした状況を乗り越えた末に気楽な暮らし、他力本願の心境が生まれたとすれば、それは何よりもかけがえのないものとなる筈です。

111 How often quoted is the expression of the Christ, "If ye have faith as a grain of mustard seed ye shall say to this mountain, remove hence to yonder place, and it shall remove; and nothing shall be impossible to you." (Matthew 17:20) This statement has been used to show how little faith is necessary to bring forth manifestation. Notice, however, that the words are not "faith as great as a grain of mustard seed" but "faith as a grain of mustard seed." Not the quantity of faith but the quality of faith is called to note in this statement. Let us study the consciousness of the mustard seed. Is it ever overcome with fear in regard to its personal existence? What causes it to grow? Is it not the conscious impulse force within it which promotes it into action? The seed knows nothing but this urge within itself which causes it to expand, burst its shell and proceed upward into the light. It does not seek to resist this force of natural growth nor does it wonder if it is right to act in this manner. It acts unquestioningly according to the law or principle of its purpose. It does not look to effects - neither to man, to earth, water, or sun. It expands into a mature bush because the forces within it command it into such growth.

111 これまで何回、キリストのこの表現が引用されたことでしょうか。「もし、汝に一粒のカラシ種ほどの信仰があれば、この山に対し、ここからあそこの場所に移れと言え、その山は移るであろう。貴方に不可能だというものはない。」(マタイ17:20)。この表現は創造作用をもたらすのに、如何に小さな信仰が必要なだけであることを示すため、用いられて来ました。しかし、それらの言葉は「カラシ種一粒の大きさの信仰」ではなく、「一粒のカラシ種ほどの信仰」としているのです。信仰の量ではなく信仰の質がこの声明の中で求められていることに注意して欲しいのです。カラシの種の意識を研究して見ましょう。それはその個人的な存在に関して恐怖に打ち負かされているということはないのです。何がそれを成長させるのでしょうか。それを行動に突き動かすのはその種の中の意識的衝動ではないのでしょうか。種は自分の中にあるこの衝動しか知っておらず、それが膨張し、殻を弾けさせ、光に向かって上方に進み出します。それは成長のこの力に抵抗しようとはせず、またこのように行動することが正しいかどうか迷うことはありません。それは法則あるいはその目的の為の原理に沿って、疑問を持つことなく行動します。それは人間、地面、水や太陽に対する影響を見てはいません。内部の諸々の力がそのような成長を命じる故に、成長した茂みになるのです。

【解説】

私達も含めあらゆる動植物が本来、持つべき創造主への信頼（信仰）について、本項で説かれています。イエスが説いた”カラシ種ほどの信仰”とはその小さな植物の種にあっても、芽を出し生長する上で糧となる意識は因への信頼であり、その強さは私達の比ではありません。山をも動かす程のゆるぎないものであるのです。

それに比べて私達の信仰は実に不安定なものではないでしょうか。少し目先の状況が変化したことによっても私達は見通しを大きく乱し、混乱を呈してしまうのです。

これに対して、私達が身に付けなければならないもの、人知れず心に留め置くものとして、目に見えない者、因への信頼があると考えます。不安定な結果の世界に囚われることなく、宇宙を流れる目に見えない法則に軸足を置くことが状況を望ましい方向に導くことになるからです。

112 At this point you will, of course, say, "But the seed could not grow without the support of the earth, air, water and sun." This is true, but as the seed obeys the command of the Cosmic or Cause intelligence all necessary elements unite to bring it forth. The seed is not commanded to push through the ground in the cold winter months nor does it seek to grow without that urge from within. It waits patiently till it feels that the time for growth has come. What would happen if the seed questioned the urge to grow as man questions new ideas of a broader conception of life that try to impress themselves upon his mind? As the seed by not resisting the urge grows into a beautiful bush, so man, likewise, may be assured that if an idea or desire arises that is impersonal, it is there for a purpose and if acted upon will produce beneficial results. A desire can be kept from manifesting only through the effort of the personal will in resisting action. For the thought or desire is the actual Cause which fathers the outward conditions.

112 この時点で貴方はもちろん、こう言うでしょう。「しかし、種は土や空気、水や太陽の支援無くしては成長出来ない。」このことは真実ですが、種は宇宙の、或いは因の英知の指令に従うため、全ての必要な要素が種の発芽を実現するため、結束するのです。種は寒い冬の月日に地面を貫いて突き進むよう命ぜられることはありませんし、そのような内部からの衝動無くしては成長しようとはしません。それは成長の為の時期が来たと感じるまで忍耐強く待っています。もし種が人間が自分の心に印象付けようとしているより広い生命の新しい概念を疑問視するように、成長への衝動に対して疑問に思ったら、どうなることでしょうか。種がその衝動に抵抗することなく、美しい茂みに成長するように、人間も、もし非個人的なアイデアや願望が起こった場合には、それ（訳注：アイデアや願望）は一つの目的の為にそこにあるのであり、もしそれに応じて行動すれば恩恵のある結果を作り出すことでしょうか。願望は抵抗的行動をとる個人的意志の影響によってのみ現象化から遠ざけられるのです。何故なら、想念や願望は外側に向けての状況を生み出す実際の因であるからです。

【解説】

先日テレビでサツマイモを水を入れた皿の中に置くと、数日で芽が出てやがて葉を伸ばす程に生長する様子が紹介されていました。またYouTubeではジャガイモに穴を開け、その穴にバラの茎を挿すとバラが芽を出し生長するとしています。

いずれも私自身試したことはありませんが、貯蔵していたジャガイモが芽を出すように、農作物は収穫後も生きていて、いつでも条件が整えば再び生長しようとしていることが分かります。

これらの作物は各々宇宙の法則に従っており、自らが置かれた境遇等を一切気に掛けることなく、自分の使命を全うしようとしているのです。私達はそれらを食べる中で摂取した各々の生命を自らの行動の中に十二分に生かす努力が必要であることは言うまでもありません。結局は私達は他の動植物や鉱物と同じ兄弟として地球という惑星に生きています。

113 The development of faith in man is the growth out of the personality into the impersonal expansion of awareness; from effect to the cause back of all effects.

113 人における信仰の発達は、個としての自分から非個人的な知覚の表現への成長、結果から全ての結果物の背後の因への成長のことなのです。

【解説】

信頼・信仰・信念等々に相当する本章の中心課題であるFaithとは結局、因の世界に個我から抜け出すことにあると著者は本項で結論を私達に説いています。とかく私達は信念と言うと自分の目標の実現を祈る程度の理解でしかありませんが、そもそも本来のFaithとは自我を超えたもの、自分の願望から抜け出したものというのです。

自分の望みでなく自我をあらゆる結果物の因に拡張する中で得る因への信頼こそが私達が学び身に付けるべきもの、Faithだという訳です。

114 There is no such thing as absolute unbelief; there is only a growth from the lesser faith to the greater faith. As the teacher Zoroaster explained, "Evil is but unripened good." Likewise, fear is but undeveloped faith. Man has come from Cause Intelligence to the world of effects; his mortal sense mind lost the memory of Cosmic Cause and he is now in the process of reestablishing himself; he is on his way back to oneness with the Principle where selfishness with all of its innumerable effects is dissolved. It is through the recognition and realization of Cause that faith is stabilized.

114 絶対的な不信心というようなものは存在しません。より少ない信仰から、より大きな信仰への成長があるだけです。教師ゾロアスターが「悪とは未成熟の善である」と言ったようにです。同様に恐怖は未発達な信仰なのです。人は因なる英知から結果の世界に生まれ来たり、その死すべき感覚心は宇宙的因の記憶を失い、今や自分自身を再構築する過程にあります。人は利己心とその無数の結果物と溶け合う一大原理と一つに戻れる道の途中に居ます。信仰の安定化は因の認識と実感を通じてなされるのです。

【解説】

このように大事な信仰心なのですが、実際に身に付けるのは容易でないと思う人も多いようです。しかし、本文で述べられているように私達が母体の中で生きていた間は全てを母親に委ね、自らの生命を母体に依存して来たのです。言い換えれば、宇宙の因に全てを委ねていたと言っても良いのです。

しかし、生誕後、成長するにつれて、自我が次第に拡張し、それまでの信仰心は小さくなってしまったのです。それ故、私達は元来はこうした信仰心のことを十分理解していた訳で、再びその心境を思い出さずだけで良いのです。

外界に目を奪われ、結果の世界に右往左往する状況から再び安定していた母体の記憶を呼びさますだけで良いのだとも言えるでしょう。

115 Why do we have perfect confidence that the sun will rise each day? Have you ever known a man rising each morning, hours before dawn, to sit wringing his hands in tense anxiety over the prospect of eternal darkness? No, we have no such fear, and the primal reason that we do not doubt in this case is because the action of the suns and planets is greater than our mortal mind can conceive and therefore we leave such actions entirely in the hands of the All-Knowing Principle which understands and perpetrates all action. In this case we realize our personal insufficiency and so do not concern ourselves by exerting mortal effort in regard to it. We simply allow it to take place.

115 何故、私達は毎日太陽が昇って来ると完璧に確信して来ているのでしょうか。貴方はこれまで毎朝起きては夜明け前に永久に闇が続くことを恐れる余り、両手を握り締めて座すような人を知っていますか。いいえ、私達にそのような恐れはありません。また、このような場合に私達が疑いを持たない主な理由は、諸太陽や諸惑星の行動は私達の死すべき心が計り知りえるより偉大であり、それ故、私達はこれらの行動を全ての活動を理解し、それを為す全知の法則の手に完全に委ねているからです。この場合、私達は個人的な力量不足を自覚し、その為、それに対して死すべき者の努力を行使して自分自身を係らせようとはしないのです。私達は素直に起こるに任せているのです。

【解説】

そもそも私達の不安は何処から来るのか、私達は自分自身を教材としてよく考える必要があるでしょう。実は私達は漠然とした不安感を感じているだけかも知れません。もちろん、未来の事柄は分からないことですが、宇宙の中に生きている限り、未来永劫にわたり自然を育てて来た普遍の法則の下、自然界の一員として私達は生きて来た訳で、そこには疑いの余地はありません。

こうした永劫に続く活動の流れの中で私達は生きて来た訳で、本文に記されているように、毎日、太陽が出ない日は無いのです。

このように考える時、私達には生かされているという確信 (faith) が持てる訳であり、信念・信仰 (faith) もこうした自然界への考察の中で培われるものでもあるのです。

116 Do we worry that the rivers will start flowing up hill, or drop a weight and hold our breath that it might rise again, or throw a ball into the air and doubt that it will return to earth? No, for again we know the principle governing such action.

116 私達は川が丘を遡って流れるかも知れないとかを心配し、或いは重りを落として再び昇って来るかも知れない、或いは空中にボールを投げて再び地面に戻って来ないかと息を凝らすことがあるでしょうか。いいえ、ありません。何故なら、この場合もやはり私達はこのような行動を支配している原理を知っているからです。

【解説】

私達の不安や恐れは何処に原因があるかについて、その反証として私達自身が自然界の中でごく当たり前の事象としている例を著者は私達に示しています。

つまり私達が自身や信念を持たないのは、その想定事象に働く宇宙的な法則が理解できていないことに関連しているということです。“想いは実現する”という法則性を理解しているか否かがその岐路になるということでしょう。

私達の一生も自らの日頃の心境、発する想念が造り出すものであり、私達自身、それらの結末を甘んじて受け入れなければなりません。全ては法則の下にあり、人は蒔いた種を刈り取る訳ですから、そこには本来、見通せない未来は無いということになるのです。

そういう意味では、創造主への信頼と自らの実践を通じて日々働く中に不安感は存続できないのです。

117 Our lack of fear is not due to our confidence in matter but our inherent faith in the principle supporting and controlling matter. I say inherent because Cosmic Cause which produces faith is within everyone. It is closer than hands and feet and whether or not we as mortals openly admit its existence we do realize it or we would not be conscious, living beings.

117 私達に恐怖が無いのは私達が物事に確信があるからではなく、物事を支配し、統制している原理に対する生まれながらに存在する信仰がある為です。私は信仰を作り出す宇宙的因は誰もの中にある為、生まれながらに存在すると言っているのです。それは貴方の手や足よりも近くにあり、死すべき私達が外に向かってその存在を認めるかどうかによりません。何故なら、そうでなければ私達は意識があり、生き物にはならないからです。

【解説】

このように私達が恐怖や不安を抱かない事柄があるのは何故かについて、著者はそれは私達が対象となる事象に対して信念があるということではなく、そもそも私達自身の中にその事象を支える法則について生まれながらに身に付いた信頼（信仰）があるからだと言っています。

つまりは既に私達は宇宙的原理について理解し知っているが故に、不安に思うことがないという訳です。言い替えれば、私達が宇宙の原理について学び、身に付けて行けば行く程、私達から不安は無くなって行くということです。おそらく仏陀やあらゆる場面においても揺るぎない温和な表情を見せていたことでしょうし、そのお姿を心に留めようと仏像の建立が始まったのかも知れません。

118 It behooves us then to study Principle instead of focusing all of our attention upon the effects of Principle (source of origin). When we direct our attention towards that inner guiding force we become fully awake and feel the inter-relationship of all life. There has never been a time when one released the personal ego to this inner force that he has not seen some immediate result of action; so as one becomes more fully aware of his oneness with the All-Intelligence his faith is increased and consequently his fear is decreased. Faith is the result of one's unity with the Whole, and such unity cannot take place until every thought of selfishness with its whole category of resultant fears steps aside and leaves the highway of understanding free of barriers. So we may see that absolute faith is not of easy attainment - it must come through a gradual growth just as all things change by degrees. Faith is actually an expansion of conscious awareness to include more knowledge and certainty of action.

118 ですから私達はその注意をすべて法則（源泉）の結果物に集める代わりに、法則を学ぶべきということとは当然なのです。私達はその内なる導きの力に向かって注意を向ける時、私達は完全に覚醒し、全生命の相互関係を感じ取るようになります。人が個人的エゴをこの内なる力に解き放つ時、行動の直ちに起こる結果を見ないままで終わることはありません。ですから、人が自身が全英知と一体になっていることに、より完全に気付くようになるにつれて、その者の信仰は増し、その結果、その者の恐怖は低減します。信仰とはその者が全体と一体になった結果であり、このような一体化は全ての結果に及ぶ利己的なあらゆる想念が脇にどいて、理解の王道から障害が無くなるまでは有りえません。ですから、私達は絶対的な信仰というものには達成できるものではないことは分かると思います。それは、丁度、全ての物事が少しずつ変化するのと同じように、なだらかな成長を通じて実現する筈です。信仰とは実際には、行動に対するより大いなる知識と確かさを含む意識的知覚力の拡張であるのです。

【解説】

私達の進化の過程を表現するものとして、円グラフを例とすることが多いものです。即ち、目指すべき状況を円の全周とすれば、私達各人はその途上にあり、未達成な部分が少しずつ減った分、達成の割合が増えるというものです。

言い換えればこの達成割合を少しずつ広げて行くことが精進であり、決して一晩で達成されるようなものではないのです。

本文では私達は物事の背後にある因に私達の関心を向け、心をその源泉の中に解き放てと説いています。即ち、想念・印象が飛び交う因の世界に関心を向けよとしているのです。とかく私達は目の前の事柄や自らの身体状況に自分の関心を奪われがちですが、著者はそれに代わってもっと奥底の因の世界に自らの関心を没入させよとしているのです。目に見えない創造主への信頼こそ最重要課題とすべきなのです。

11 TO BE BORN AGAIN

119 "Verily, verily, I say unto you, except a man be born again he cannot see the kingdom of God." (John 3:3)

第11章 再び生まれるために

119 「まことに、まことに私は貴方に言って置きます。人は再び生まれなければ、神の王国を見ることは出来ません」(ヨハネ3:3)

【解説】

これほどまでにイエスは私達に創造主の王国を観る為に抜本的な内的改革をせよと説いています。原文では”再び生まれる”と表現されており、肉体としての誕生の後、再び真の宇宙の英知の下に誕生することが大きな意味を持つと説かれているように思われます。

仏教ではこの状態を悟りや覚醒と呼んでいるようですが、論語にも”朝（あした）に道を聞かば夕べに死すとも可なり”とあるように、その真理を理解し、自分が創造主の花園に生きていることが理解できれば、それは素晴らしい心境になるものと言えるでしょう。私達の住むこの地上をそのような姿の実相として認識することはそれ程に価値があるということです。

120 Thus spoke the Christ, to whom Life had revealed her mysteries. This statement has been made the very foundation of religion, but Nicodemus of old, who asked of the Master, "How shall this be? Can a man enter the second time into his mother's womb?"(John 3:4) is not alone in his ignorance of the second birth.

120 生命がその持つ神秘を明かした相手であるキリストがそのように話されたのです。この声明は宗教の基礎とされていますが、年老いたニコデモは、導師に「どのようにすれば、これが為されるのですか。人は自分の母親の子宮に二度目に入ることが出来るのですか（ヨハネ3：4）」と尋ねましたが、それは彼一人がこの第二の誕生について無知であった訳ではありません。

【解説】

私達はこれまでの迷いや苦しみ、恐れから如何に解放されるのか、イエスは私達地球人を導くにあたり、私達に再び生まれ変わることを求めているのです。

そして本文では著者ジョージ・アダムスキー氏もそのイエスの言葉こそ宗教の土台であると説いています。そのように説くのはアダムスキー氏自身がイエスが地球に居た時、イエスの下に従っていた使徒の一人であったとされることにも由来しています。即ち著者アダムスキー氏は過去の記憶から、当時イエスがどのような意図で説いたかを良く知っていたからに他なりません。

確かに現状の私達にとって生まれ変わるということは、一旦は自我を消滅（死滅）させることであり、その後新しく、大地から生まれ来る存在、自然と調和した存在として生きて行くことを意味する訳で、各自にとって一大転換の覚悟を要求していることでもあるのです。

121 The Master said, "No man ascendeth up to heaven except he that came down from heaven, even the Son of Man which is in heaven." (John 3:13) Meaning that the second birth is the conscious return into the original Cause state out of which all things proceed into the world of form. Man has descended from Cosmic Cause and he has the privilege to return again to that impersonal state of conscious awareness of Cosmic Cause. When he was born into the world of form he became lost in the appearances of matter and no longer understood the vast Cosmos. He has given himself over to the dictation of the senses and his mind is slow to accept the guidance of the soul. His understanding of the universe has become limited to the effective world - his whole attention is given to the analysis of form and he has been blinded to the Cause back of form. So before he can come into his own original self, he will have to be born again - born into the unlimited perception of the All Intelligence. As the first birth has given man an understanding of the form world like himself the second birth will expand his awareness of the unmanifested Cause world. Man's duty now is to burst the bonds of ignorance - to emerge from the matrix of earth and perceive the vastness of Cosmic Cause.

121 その導師は言いました。「天から降りて来た者以外に天に昇る者はいないのだ。天にいる人の息子でさえも。」(ヨハネ3:13) それは第二の誕生は全てのものが形ある世界に向けて進行して来た源の原初の因の状態に意識的に帰って行くことを意味しています。人は宇宙的な因から降り来たものであり、人は宇宙的因の非個人的な意識的気付きの状態に再び帰る特権を持っています。人が形ある世界の中に生まれた時、人は物質の外観の中で迷子になり、広大な宇宙をもはや理解しなくなっていました。人は自分をその諸感覚の指図に差し出してしまい、人の心は魂の導きをなかなか受け入れようとはしません。人の宇宙への理解は結果の世界に限定されるようになり、その関心の全ては形あるものの分析に注がれ、形あるものの背後にある因に対しては盲目になっています。ですから人が自分自身の原初の自分になるには、再び生まれる、即ち全英知の無限の知覚の中に生まれる必要があるのです。最初の誕生は人に自分自身のような形あるものの世界についての理解を授けたように、第二の誕生は未だ現象化していない因の世界についての気付きを拡げることでしょう。今日の人の義務は無知の束縛を破裂させること、地球の地殻から抜け出て、宇宙的因の広大さを知覚することです。

【解説】

本来私達各自は天性の素質、即ち生まれながらに備わっている因の要素をこれまで無視し、もっぱら目に見える結果の世界や自らの肉体に属する感覚に自身を委ねて来てしまったのです。その結果は、現状のような不安定な状況を生み出し、世界も混乱の度を極めているのです。

かつて2000年前にイエスが目にした状況は今日でも続いており、もし今日再びイエスが地上に降り立ったなら、どのような教えを私達に説くのでしょうか。私達はこの2000年で何を何処まで進歩させたか答えるのでありましようか。おそらくこの問いに関してはほとんど何らの成果を報告することは出来ないように思われます。

それほどにある意味、雲をつかむ程の内容ですが、その一線を超えない限り、進歩の道に乗ることは出来ないことも確かなのです。

122 The second birth does not necessitate the death of any form of consciousness nor the death of the body; it necessitates only the uniting of the two phases of consciousness into the awareness of oneness. The second birth produces unlimited awareness, uniting heaven and earth. The sense consciousness and the all inclusive consciousness become equally balanced and man begins to learn about the Cosmos.

122 第二の誕生は意識の如何なる形式の死も、肉体の死も必要とするものではありません。それは唯一、意識の2つの側面を一体性の自覚の中に統合することだけを必要とします。第二の誕生は無限の気付きを作り出し、天と地とを一つに結び付けます。感覚の意識と全てを包含する意識は互いに等しくバランスし、人は宇宙を学び始めるのです。

【解説】

第二の誕生を迎える為に、現在の意識も肉体も死ぬ必要はないと著者は説いています。おそらくこの言葉はイエスが説いた当時のイエスご自身の言葉を示唆していると思われます。アダムスキー氏の記憶から出た言葉であると思うからです。

即ち、この第二の誕生に当たって、私達は自分の肉体も精神も捨てる必要はなく、只、もう一つの意識、宇宙意識と結合させよと説いているのです。

しかし、次に問題となるのは、もう一つの意識、宇宙意識をどのようにしてその存在を把握したら良いのかということでしょう。宇宙意識の存在こそ、私達が常に関心を持ち、融合の相手として身の回りに探し求める必要があるのです。その為には自我を小さく保ち、その陰に隠されていた宇宙意識の存在を受け入れる努力を続ける必要があるのです。

123 Not until the teachers understand this can they save anyone or themselves. Many scientists are closer to the second birth than is any so-called spiritual student. One of our greatest scientists made the remark, "When I am fatigued with mental effort and have ceased to ponder over a problem I find that is the time when the truth of the question is most clearly revealed to me." This is a glimpse of the second birth-when the mortal consciousness is released into the hands of the vast consciousness the veil of limitation is rent asunder and truth is vividly perceived.

123 教師達はこのことを理解するまでは、誰もまた自分自身も救うことは出来ません。多くの科学者達はいわゆる霊的学者より、この第二の誕生に近づいています。今日最も偉大な科学者の一人はこのような所見を述べました。「私が精神的努力で疲れ切り、問題について考え込むのを止めた時が、その問題の真理が最も明瞭に現れる時になることは分かっています」。これは死すべき肉体の意識が広大な意識の御手の中に解放される結果、制限のベールが引き離され、真理が鮮やかに知覚される第二の誕生を瞬間的に見るようになるのです。

【解説】

実際、宇宙意識を迎え入れる為には私達はどのような心境を維持すべきか、本項は明確に示しています。即ち、これまでの私達は自我の力に頼って物事に対処して来ました。その結果、多くの誤りや回り道を辿ることになる一方、自我を解放し、本来の宇宙に流れる法則の導きに従えば、瞬時に解決に導かれると著者は私達に説いているのです。

そこには自我の願いや欲求から離れて、無心の心境になる時、初めて解決に至るヒントが宇宙意識からもたらされるのだと説かれています。既に多くの科学探求者が成果を得ているという訳です。

私達も同様にして、宇宙意識を交流したいのですが、それには先ず、現状の苦痛や自我の要求を捨て、自由な心境を自分の中に造り出さねばなりません。その上でもたらされるヒントを受け入れる中で宇宙意識との交流が始まるものと思われれます。

124 It is man's duty to be a happy child in his Father's house, and to do this he will have to be aware of the house. He must be aware that he is now in the heaven that he is seeking to enter and that within his form of self is the ever present all-inclusive intelligence.

124 自らの父の家の中で幸せな子供になることは人の義務であり、それを為すためには、人はその家の存在に気付かねばなりません。人は自分が現在、入りたいと求めてきた天国の中に居ること、また自身の形あるものの内側に全てを包含する永続する英知があることを気付かねばなりません。

【解説】

私達が目指すべきものの全ては、私達自身の内側に既にあるということです。

これまで私達は宇宙の何処かに天国がある、或は何処か遠くのところに理想郷があると信じて来ましたが、実際に天国は遠くにあるものではないのです。それは私達自身の中、自分の手足よりももっと近くに存在し、私達は既にその中に暮らしているのだと著者は説いています。

これに対して多くの人々は現状の各自の経済状況や身体や精神状況を例示して、何処に天国があるのだと訴えるのかも知れません。まさにイエスの時代から今日に至るまで人々が求めていたものについて、私達は未だ実感を持ってないのです。

しかし、仏教を含む多くの宗教は私達の現状の心の有りようについて、様々に指導して来ました。その指導の先にあるものは本項で言うように私達各人は本来、創造主から恵まれた環境を与えられ、その一家の一員として幸せに暮らせるよう、祝福されているということなのです。如何に祝福されているのかを知るこそ、私達の第一歩と言えるでしょう。

125 Here lies the answer to the question as to the constant urge in the heart of every human to know more about the composition of forms as well as the cause and purpose of action, for it is the Cause Parent impressing the effective child to know more about the vast possibilities so that he may enjoy all that the Father has to give.

125 ここにあらゆる人間の心の中に行動の理由と目的と共に、形あるものの構成について更に知りたいとする絶えざる衝動に対する答えがあります。何故なら、結果である子供が父が与えるべき全てを楽しめるよう、広大な可能性について知りたいとする印象を子供に与えているのは因の親であるからです。

【解説】

私達が心に持つ探求心が実は宇宙の因、両親とも言える存在からもたらされていると本項は説明しています。つまりは私達自身から起こっている探求心ではなく、もっと高次元な存在からの指導的印象がその源であるという訳です。

これまでの歩みを振り返れば、私達人類の進歩はこうした探求心によってもたらされたことは容易に分かります。もし、私達が怠惰な状態を続けていたなら、文明の進歩は無かったと言えるでしょう。

こうした探求心は一つ一つの物質・物体の構造や仕組みを学ぶ過程で、外観には現れていない不可視な要素を私達は学ぶこととなります。今日的に言えば、生物を構成する細胞組織や遺伝物質等々です。それらは肉眼では見る事が出来ませんが、生物界を支配する法則を担うものであることは確かでしょう。その他人体における記憶場所やその復元の仕組み等、多くのメカニズムも次第に明らかになって来ることでしょう。私達はこれら全体の意義や位置づけについて、本項で示唆するような宇宙の因として整理し、理解することが必要かと思う次第です。

12 EMOTIONAL BALANCE

126 As we all know there is a great unrest all over the world. The conditions existing in the national, home, and personal life all display quite clearly the loss of equilibrium which now exists. Each individual feels the need for security and the people of the earth are demanding something that will bring about more stable conditions. The desire for equality and balance and some feeling of assurance have caused some people to return to the churches and many to follow the teachers who profess to know all of the answers concerning the new dispensation. Unfortunately there are extremely few individuals who are equipped with this type of knowledge.

第12章 感情のバランス

126 私達全てが知っているように、世界中を大きな不安が覆っています。国家や家庭そして各人の生活の状況は皆、明らかに今や均衡を全く失っている事態を示しており、実際そうになっています。各自は安心の必要性を感じており、地球の人々はより安定な状況をもたらすものを求めています。公平さやバランス、そして確かさの幾分かの感じへの願望は人々を教会に立ち戻し、また多くの者をその新たな摂理に関する全ての答えを知っていると称する教師達に従わせています。しかし、残念なことにこの種の知識を備えている者は極めて少ないのです。

【解説】

前章第11章では”再び生まれるために”という課題について学び、私達には既に帰るべき家が自身の中に用意されていることを知りました。本章ではそこに行き着く上で必要となる自我の克服について学ぶという訳です。

本章のタイトル”感情のバランス”とは、日常の私達の心の状態に関して説かれている訳ですが、未熟な私達が陥りやすい状況について改めて自ら整理して行くべきだと著者は示唆しているものと思われま

す。今日、科学技術が発達し、労苦も減って日常生活が送れるようになったにも拘わらず、私達は依然として様々な問題に直面し、不安定な状態の中に生きています。また、それら不安な人達に対して多くの声があり、宗教も生まれています。真理を求めるという意味では良いのですが、肝心なそれを導く者が利益主義の場合も多く居り、真贋を見極めることも容易ではありません。

これに対して、本シリーズでは決して他人に頼ることなく、自らの内面に存在する宇宙源泉に繋がる真理に従って、自ら本来の道を歩むよう諭しているのです。

127 We find that students who have studied under one teacher or another are very confused and living in a state of dissatisfaction concerning the world they must call home. They are looking to the day when they will be privileged to become the inhabitant of another planet. They can see no beauty in this world, being conscious only of the pain and misery which exists.

127 私達はある一、二の教師の下に学んできた生徒達が大変混乱していて、自分達が我が家と呼ばなければならぬ世界に関して不満足な状況の中で暮らしていることに気付きます。彼らは自分達が他の惑星の住人になれる日を待ち望んでいます。彼らはこの世界に何らの美しさを見ることは出来ず、そこにある苦痛や悲惨さのみを意識しているのです。

【解説】

これまでのUFO・宇宙問題に関わる中で、多くの人達が現状の社会の問題を指摘し、それに代わる天上の理想社会に憧れる姿をよく目にしたものです。確かに地球は多くの未解決な問題そのままに科学技術のみが発達してしまったことにより、益々悪がはびこり、生きづらい惑星になっています。

しかし、それぞれの惑星の状態はそこに住む者達が生み出したものである以上、その住人が解決すべきものです。また同時にそのような悪事が蔓延する環境にあっても、天然自然の営みは他の惑星以上に豊かであり（映画「禁断の惑星」のように）、英知を表現しているともいえるのです。

私達はこうした現状に対してどのように対処すべきかを先ず考える必要があるでしょう。いたずらに他の天上世界を憧れるだけでは問題は解決できないからです。先ずは小さいところからの一歩、一瞬一瞬、印象を受け入れる際の心境をチェックし、毎日の自分の行動を有意なものにすることから始める他ないということでしょう。

128 Teacher and students have made the mistake of separating heaven and earth and so have been carried from one false balance to another. The impersonal man will unite heaven and earth; will incorporate idealism and practicality; will bring the peace and beauty of the celestial into the concrete materialism of the earth. Anyone who cannot live a happy useful life here in the present world will find it no easier in another world. The Father, by whose breath we live, has but one Law that governs all things. He created this planet as He created all others, and the same principle directs its action. All worlds in the cosmos are alike in principle and to one who lives according to the Law there is no division of perfection.

128 教師と生徒達は天と地とを分離するという過ちを犯しており、その為に一つの誤ったバランスからもう一つの誤ったバランスに運ばれているのです。非個人的な人は天と地を結びつけますし、理想主義と実践主義を結合させ、天上の平安と美しさを地上の確固たる物質主義の中に注入します。現在の世界で幸せで有意義な生涯を送ることが出来ない者は誰一人、他の世界でも決して容易ではないでしょう。私達がその息で生きる父は全てのものを統括する一つの法を持っています。神はその他の惑星と同様にこの惑星を創造し、それと同じ法則が法則の行動を指揮しています。宇宙のあらゆる世界は原理において同様であり、その法則に従って生きている者にとって、完全さに何らの分裂はありません。

【解説】

優れた芸術家が人々を感動させる絵画や楽曲を作り上げる場合、彼ら芸術家は自らが感受した宇宙的印象を自らの技量で具体的なイメージに表現して人々に見せているのです。そのお蔭で人々は改めて精緻な美の世界を学ぶことが出来る訳です。

もちろん、これら芸術家を含めて私達はいろいろ課題のある世界に住んでいますが、こうした汚れた世界ばかりに焦点を当てているだけでは物事は解決しません。人々に正しい生活を示唆し、さらに美しい世界が存在することを教示することが重要です。

そういう意味からも本項で述べられているように、私達は宇宙的な美しい世界とこの地上の世界とを融合させながら少しずつ社会を進歩させて行くことが重要なのです。

129 In Matthew 5 :34-35 is the admonition against division plainly given: "But I say unto you, Swear not at all; neither by heaven; for it is God's throne; nor by the earth; for it is His footstool; neither by Jerusalem; for it is the city of the great King."

129 マタイ5：34-35には、この分割に対する訓戒が平易に授けられています。「しかし、私は貴方に言う、天にかけて誓ってはならない、それは神の王座であるからだ。また地にかけて誓ってはならない、それは神の足台であるからだ。またエルサレムにかけて誓ってはならない、それはその偉大な王の街であるからだ。」

【解説】

そもそも「〇〇にかけて誓う」とはどのような意味なのかを考える必要があります。最も単純に考えれば、「自分が持っている〇〇をかけて誓う」と言うこと、即ち「〇〇は私のものである」ことを前提として、この者は相手に誓っているという解釈もできるのです。

しかし、本項ではかつてこう述べる者に対し、そもそも”天国”や”王座”、”エルサレム”等々について、その者の所有物ではないとイエスが述べたことを記しています。即ち、これらは私達の所有物ではなく、私達には権利が無いとしているのです。

このことは宇宙における私達の位置付けにも関わっていることになります。私達はこうした環境の中の旅人であり、何らのものをも本来、所有している訳ではないということかと思われれます。各々の生涯を通じて、学びながら宇宙を旅する者というイメージです。

130 Neither heaven, the place of cause, nor earth, the place of effects, nor Jerusalem; symbolically used to represent the earth's inhabitants, can be called one greater than the other. These instructions were given against discriminating or calling one part better than the whole, Heaven and earth are not two but one, each expressing the other; man is no lesser for he is both, an integral part of the Whole. Divisions exist only in man's opinions when he calls one greater than the other, for in so doing he is judging and setting himself above the Creator.

130 因の場所である天も、結果の場所である地も、地球の住人達を代表させるべく象徴的に表現されたエルサレムもどれ一つ他のものより偉大だと見なすべきではありません。これらの訓戒は差別したり一部分が全体より優れていると見なすことに対して授けられ、天と地は二つの存在でなく一つであり、互いに他を表現しているのです。人は劣るものでなく、両方の存在、全体の統合された部分であるからです。区別は人が一方のものを他より、より優れたものとして見なす時の人の意見の中にのみ存在します。何故なら、そうすることによって人は裁きを行い、創造主より上位に自分を置いているからです。

【解説】

本文の元となったイエスの言葉は、聖書の解釈 (<http://thomasluke.cocolog-nifty.com/blog/2015/09/post-8cee.html>) によれば、当時の律法学者は誓いに関する逃げ道として「神」の名によるもの以外はその限りでないと言い訳していたとされています。つまりは誓いの対象として上下の関係を設けていたことに対して、イエスは諭していたという訳です。

実は同様なことは私達にも当てはまります。即ち、宇宙の因こそが重要であり、現世は重要ではないとすることです。よく引き合いに出されるのはインドに多く居るとされる修行者で、汚れた衣服を着て現世のことには一切関心なく、隠遁生活を送る人に対して、人々を導く為には、逆の意味で現世にも関心を持ち、身繕いを勧めたいところです。これらの状況は遠く仏陀の時代からあった訳で、苦行では真の悟りを得られないことは苦行から離れ村の少女から乳粥を寄進された仏陀がその後悟りを啓いた故事からも明らかです。

131 From the heavens comes the cause and power of creation and yet the earth, being the Father's footstool, it is the foundation upon which He stands. So instead of desiring to live elsewhere one should learn all there is to know concerning his present earth home and recognize it as a garden of beautiful, heavenly things, the actual garden of the Father.

131 諸々の天から因と創造の力がやって来ますが、それでも地球は父の足台であり、父が拠って立つ基礎です。ですから、何処か他の地に住みたいと願う代わりに、人は自分の現在の地上の家庭についての全てを学ぶべきであり、それを美しい天上の事物の庭、父の実際の庭として認識すべきなのです。

【解説】

そもそも私達自身が自分が生まれた意味や目的についてよくよく考えるべきでしょう。私達に用意されたこの地上で暮らす中で各々自らの生きる目的を明確に掴む必要があります。

とりわけ歴史を観れば各々の時代によって地上の状況は異なり、戦乱の時代のような困難な時期もあった一方、科学技術が進んだ今日のような状況もあるのです。その中では学べる内容、学ぶべき事柄も異なる筈です。私達は過去何回か地球に生まれ過ぎしていたかも知れませんが、現在では現在の課題があるということです。

いずれにしても本文で明記されているように、創造の原点である因は宇宙に由来しますし、その表現を担うのは地上世界である訳で、私達はそれらを繋ぐ経路となるべきで、両者の間に優劣はないのです。

132 Innately every human feels an ideal life that he is seeking to find but each individual wants this heaven to be according to his specifications. Many groups have started with high ideals but when the personal opinions prompted by the ego of some of its members have not been accepted the ideal was lost in the fog of emotional differences.

132 生まれつきあらゆる人は自分が見出したいと求めている理想的な生活を感じ取っていますが、個々人はこの天国が自分の明細仕様に従ったもので有って欲しいのです。多くのグループが高尚なアイデアを持ってスタートしましたが、そのメンバーの何人かのエゴによって促された個人的な意見が受け入れられない時には、その理想は感情の相違という霧の中に失われてしまいました。

【解説】

このアダムスキー哲学や宇宙文明に関しても過去半世紀以上、私達は様々な経路を辿って来ましたし、その間、多くの人達が会に加わりまた、去って行きました。その結果、知識としてはもはや日本では十分に知られている或は知り得る環境になっているのですが、果たして1952年11月20日に起こった宇宙人との会見以降の一連の事柄が現在の私達にどれほど役立っているのかは、正直疑問です。

実はグループの運営はそれ程に難しく、また同時に様々な妨害活動も降りかかって来るものです。こうした中、私達は当初の理想を失いかげ再び元のモクアミに戻りつつあるのかも知れません。

実際に砂漠で会見した当事者やその支持者等、アダムスキー氏の活動を支えた人達は貴重な体験を得た一方、時の経過の中で地上から旅立ってしまっており、残された私達は書物を通じて自習することが求められています。こうした中であって、私達は再び元の混乱に戻ることなく、当初の感動に立ち返って再び集うことの大切さを認識すべきです。ちなみに英語ではこれら再会の集いをReunionと称しています。

133 The everlasting spark of life which allows man to express as a form is never separated from Cosmic Cause; when man controls his mortal sense mind to think beyond apparent effects he begins to understand the purpose of life and gain a margin of emotional balance.

133 人を形あるものとして表現させる生命の永続する輝きは、決して宇宙的因から離れることはありません。人が自らの死すべき感覚心をコントロールして外観上の結果物の背後を考えさせる時、人は生命の目的を学びはじめ、感情のバランスの余裕を掴みはじめます。

【解説】

私達は常に宇宙始原の因から送られて来るスパークを発するような力強い波動を受けることによって生き続けているのです。絶え間なく打つ心臓の鼓動はそれをよく表しています。

このように私達は本来、宇宙的な波動の中に生きている訳で、これまで問題とされて来た結果物に支配されている件についても、少し心してその実態を、こうした想念・印象の世界から見直すことによって理解出来るようになるという訳です。従来視点に少し因の要素を取り入れるようにすることで、自ずと道が拓けるというものです。その為には、自らの心を落ち着かせて、未知・未経験な波動も先ずは受け入れるようにする寛容さが重要になると考えています。

134 The emotional force which rises in the mind when one's will is crossed by another's is very destructive for it draws the actor into a whirlpool of unbalanced action, and he is blinded to reality.

134 ある者の意志が他の者の意志と行き違いになった時、心に起こる感情の力はとても破壊的です。何故なら、それは役者をアンバランスな行動の渦の中に引き込み、その者は現実が見えなくなってしまうからです。

【解説】

先にも述べたことですが、当初は同じ目的で始めたものでも、やがて意見の違いが出るものです。その際に多くが陥るのが、本文に記されているような内容です。これは哲学・宗教の分野でも同様です。その結果は多くの宗派、教団が乱立し互いに違いを争う有り様になる訳で、その原因は本文に記されているような当事者の破壊的な感情に起因します。

それ故に古くから寛容が重要だと説かれている訳ですが、何よりも私達はこうした場面に生じる破壊的な想念こそ、抑え込み、解消させなければなりません。怒りは敵と言われる通りです。実際には相手が何故そのような想念を起こすのかを理解できず、自分の意見を押し通そうとすることに原因があります。また、その結果を修復するには長い時間が掛かることがこの地球では繰り返えされて来たのです。

私達は常に自他ともに公平、平等であり、積極的に相手の提案を理解しようとする素直さが必要という訳です。

135 All that man is in reality - is the thought that he is consciously aware of for the moment. Each moment follows the preceding moment and the key, if there be one, is to keep constant vigil over our reactions so that the next thought will be one that we can enjoy entertaining in our mental house.

135 現実における人の全ては、その人がその時、意識的に気付いている想念なのです。各瞬間はその前の瞬間の後を付き従っており、もしカギがあるとすれば、それはその次の想念が私達が自分達の心の家で楽しむことを可能とさせるものであるよう、私達の反応を絶えず見張り続けることです。

【解説】

私達人間の本質は、その者が取り込む時々刻々の想念であると本項は要点を突いています。つまり、私達の人格は生まれてから現在に至るまで身体を通して来た想念が形成したものであるのです。

このことは今後、私達が入り入れる想念をより良いもの、宇宙的な性質のものに転換すれば、私達自身も進化して行くことが可能であることを意味します。即ち、いつでも懺悔し心を改めれば立ち直りの機会が与えられるということです。

そしてもう一つ重要な点は、たとえこれまで正当な進化の道を歩んで来たからと言って、劣悪な想念が入り込ませることを許せば、たちまち奈落の道に落ちることになる訳で、私達は絶えず自分自身に受け入れるべき想念を見張り、チェックする必要があるということです。

136 There is so much bickering over personal opinions, and what does it profit man? Nothing, for it is a consumer of time and energy. This does not mean that there should not be an intelligent discussion about a subject but when the mortal sense mind is quiet and receptive it can see the picture clearly.

136 各自の意見に対してあまりにも多くの口論が為されておりますが、それは人に何の利益をもたらすのでしょうか。何もありません。何故なら、それは時間とエネルギーの浪費であるからです。これはテーマに対する知的な議論をすべきでないということではなく、死すべき感覚心が鎮まり受容的になる時、感覚心は状況をはっきり見ることが出来るということです。

【解説】

多くの場合、私達は議論をうまく進めることが出来ません。各自が自分の意見を曲げず、互いに物別れになるケースが多いものです。その為、協議の機会を設けることすら無駄に思うことも多いものです。

原因は私達自身のメンツ、即ち自我を守ろうとすることにあります。各自が柔和な心境、寛容さを持ってなければいたずらに時間を無駄にするだけに終わってしまいます。

私達には皆夫々に本来、同じ時間、同じ恵みが与えられている筈ですが、柔軟性が無くそれを十分に活かさないまま、人生の最後になって成功と失敗の結末の差につながるように思われます。

イエスが言ったように、素直な幼児の心境こそ、私達が常に保持すべきもののなのです。

137 Emotional balance maintained under all conditions is essential if one wishes to have lasting happiness and good health.

137 永続する幸せと健康状態を持つようとするなら、全ての状況の下で感情のバランスが保たれることは必須です。

【解説】

私達の感情は非常に不安定です。とにかくも少しでも不都合な状況が分かれば、それに動揺し不安ばかりが先行しますし、意見の相違により自分の主張が通らない場合では怒りさえも生み出すのです。

これらは私達が正しく状況を理解出来ないことに由来しますが、自らの感情をコントロール出来なければ現代社会の中で生きて行くのも苦しくなるばかりです。

そうした中で必要なのは自ら自分の心境をコントロールすることです。様々な外乱の中にあってもしっかりした芯棒、立ち位置を持ち、行く末を見通す視野が必要ではないでしょうか。そういう意味でも、私達には他惑星文明につながる哲学があり、十分な知識も有していることを忘れてはなりません。イエスや仏陀の時代に遡る歴史を通じて歩まれて来た進化の道を歩き続ける中で、そうした感情を鎮め、本来のバランスを保つことに専念しなければなりません。

138 Any emotional extreme disturbs the normal frequency action of the chemicals of the body. Excitement, whether it be caused by extreme joy or fear or anticipation, allows the normal amount of certain chemicals that go into the blood stream to be changed; thereby changing the normal action of the heart. This in turn affects the nervous system and the cells of the body and causes one to feel weak or ill.

138 如何なる感情の過度も肉体の諸化合物の正常な振動活動を妨げます。興奮はそれが喜び或いは恐怖、予感によって引き起こされるに係らず、血流に入るある種の化学物質の量に変化をもたらします。その結果、心臓の正常な動きを変化させるのです。この結果、それは神経系統が肉体の諸細胞に影響を与え、その者に疲労感や体調不良を感じさせます。

【解説】

感情の極度な高まりは人体にドーパミンやセロトニンその他、今日では神経伝達物質と称される様々な物質が分泌され、それらが心臓その他の臓器の活動に大きな影響を及ぼすとされています。また、一方では覚せい剤等の特定の薬品もこうした身体への影響を与えることから、一時的な感情の高まりはあってもそれらは継続せず、最後は身体が消耗して結末を迎えるのです。

このように感情の起伏は私達の本来の生命活動を阻害する訳で、私達は努めて自らを穏やかに安定した精神状態に保つことが必要なのです。

その為にも、私達は自らの心をそのような乱れた状態に陥れることから防ぐ必要があり、絶えず心に浮かぶ想念を見張って、より適正なもののみを受け入れるよう心掛ける必要があるのです。

139 This change is similar to a high precision motor that causes a frictional deterioration on all of its parts when it is not properly synchronized. Each emotional unbalance curtails the free life flow and causes damage to the body, until the mortal sense intelligence comes to the realization of its limited and destructive influence and releases its personal ego to the Cosmic Life Force.

139 この変化は高精度なモーターが適切に同期が取られていないと、その全ての部品に磨耗を引き起こすのと類似しています。死すべき感覚の知性がそれ自身の限界と破壊的な影響を自覚するようになり、宇宙的な生命力に個人のエゴを解き放つまでは、感情のアンバランスの一つ一つが自由な生命の流れを短縮し、肉体に損傷を与えるのです。

【解説】

私達の身体は精妙な作りになっています。それ故、私達の刻々の心境、受け入れた想念の波動が瞬く間に全身の細胞に影響を及ぼします。

本項の例のように私達が感情を爆発させたような場合、その影響は甚大です。顔つきや皮膚までも硬くなる等、身体細胞にダメージを与えることが分かります。もちろん、こうした繰り返しを重ねると、致命的な病気になったり、また、反対に心自体があらゆる事柄に無反応になるということでしょう。

実はその反対に、もし私達が本来の宇宙の精妙なる想念波動と同期するのであれば、私達の身体は直ぐに本来の調和ある動きを復活し、本来の最高位の創造物としての表現を行えるようになり、その生命活動に衰えは無い筈です。

13 FREE WILL OR SELF-HYPNOTISM?

140 The choice is yours, for the acts of today bring the rewards of tomorrow. Enjoyable rewards will come to those who are living according to the laws set in motion by Cause Intelligence - giving honor to the All-Creative Principle of Life, and such honor does not incorporate the characteristics of emotionalism or self hypnotism.

第13章 自由意志か自己催眠か

140 選択権は貴方自身にあります。何故なら、今日の行動は明日の報いをもたらすからです。因なる知性によって起動させられている諸法則に従って生きる者、生命の全ての創造的法則に榮譽を捧げている者には、喜ばしい報いが訪れることでしょうし、このような榮譽は感情主義の性質のものや自己催眠とは組することはないのです。

【解説】

前章（第12章）では私達が各自の内面にある真の姿に生まれ変わる必要があることを学びました。しかし、次なる課題はそれをどうやって実現するかになります。

これに対し、これまでも教師と称する者が現れ、ワザを用いて各自を一時的に高揚させ、或は自己催眠にかけて一時的な思考麻痺を起こさせる例があったのです。

しかし、これらの結果は、長続きせず真の覚醒とは言えないものでした。真の覚醒とは自ら宇宙の法則を知覚し、その法則を享受しながら、その法則の下に生きることであり、これら一時的な麻痺状態とは内容が全く異なるものです。

141 Religion and so-called spiritual teachings have not, in most cases, brought true realization to the heart of humanity. Some of these organizations practice rituals and affirmations which produce a temporary intoxication during the performance of the rites but tend towards a tremendous "let down" after the service has been completed. Most of the individuals attending, upon returning to their worldly pursuits revert to the old ways where the survival of the fittest attitude takes over, and man continues to take advantage of his brother instead of being his brother's keeper. In the religious sanctuary the individual feels that he would help anyone according to their needs and where hate had been, there arises an emotion that is interpreted as love, but outside of the sanctuary these emotional influences change, which proves that they were nothing more or less than a form of hypnosis induced by the service that he attended.

141 宗教そしていわゆる精神主義的教えは、ほとんどの場合、人間の心の底に真の悟りをもたらしては来ませんでした。これらの組織のいくつかでは、その間だけの一時的な陶酔を作り出す儀式や宣誓を実施しますが、その礼拝が完了した後は、とてつもない「落ち込み」をもたらす傾向があります。出席している個々人のほとんどは、それぞれの世俗的追求の場に戻るや、適者生存の原理が支配する昔ながらの方式に復帰してしまい、人は自分の兄弟の後見人になる代わりに自分の兄弟を利用し続けるのです。宗教的な聖域の中では各自は必要があれば誰をも助けようと感じ、憎しみがあつた所でも愛と解釈される感情が湧き起こるのですが、その聖域の外側ではこれら感情の影響は変わってしまい、自分が出席した礼拝によって誘引された催眠の形態以上の何物でもなかったことを立証するのです。

【解説】

よく海外諸国では、人は宗教には忠実で、信仰する神の前では敬虔な信者である一方、教会やモスクの外に出ると、他者との厳しい商売に明け暮れる姿を見るものです。つまり自らの神に対する心持は真剣そのものなのですが、他者や商売相手、生活のなりわいの中にあつては、如何に相手から利益を得るかが第一となるのが普通なのです。

その為、人々は互いを信じることが出来なくなり、犯した罪は全て宗教が中和して呉れるということかも知れません。

しかし、ここでは私達が真に成長して行く為には、宗教儀式に頼ってはダメだと説いているのです。一人一人の日常の生き方が宇宙本来の波動に沿っていなければならないとしており、人によらず法（哲学原理）によって生きよとするかの仏陀の教えと近いものとなっています。

142 Is it not true that when a hypnotist wishes to put a subject under his control he suggests something which he asks him to hold steadily in his mind? If the subject does this he becomes the victim of the hypnotist's will and is forced to obey whatever thought is presented to him. The hypnotist can make his subject believe anything that he tells him. He can cause the individual to eat onions thinking that they are apples and he will not discern the difference, which proves that the subject has lost his reasoning as well as his will power.

142 催眠術者が被術者を自分の支配下に置こうとする際、術者は被術者に何かを自分の心に常に保持しておくようほのめかすことは、本当に行われていることではないでしょうか。もし被術者がこのようなことをするなら、被術者は術者の意志の餌食になり、自分に示されるどのような想念にも従わざるを得ないこととなります。催眠術者は自分の被術者を自分が語るどのようなことをも信じさせることが出来るようになります。術者はその者にタマネギを食べさせ、それらがリンゴであると思わせることも出来ますし、その者が違いを見分けることはなく、そのことは、自分の意志力同様、推論の力も失っていることを示しています。

【解説】

宗教的儀式その他で問題となるのは信者が指導者に盲目的に従うあまり、自ら考え思考して何かをつかむのではなく、指導者の支配に完全に委ねてしまうことです。その極端な例は本文にあるような催眠術の場合と言えるでしょう。

実はこのテーマは大変難しい内容だとも言えるのです。即ち、一方では”素直になれ”と説いている訳ですが、もう一方では自らの判断を相手に委ねてはダメだとしている訳です。そのどちらの極端においても問題があるということかを思われます。即ち、指導者の言動であってもそれが私自身にとって適切な内容か、よく吟味して消化せよということかと思えます。もちろん相手の教示を受け止めることが第一なのですが、その後はその何処が優れているのかを自身で十分に吟味消化して良いものであれば努めて身に付けるということでしょう。

143 Religion in the early days held the upper hand over the masses through such actions as this. The Soul-seeking populace were thrown into a state of emotional hypnosis which made them an easy prey to the more clever individuals who perpetrated such methods of worship.

143 初期の頃の宗教は、これと同様な行動を通じて大衆を支配しました。魂を求める民衆は感情的な催眠状態に陥れられ、このような礼拝の方法を実施したより悪賢い者達へのたやすい餌食になってしまったのです。

【解説】

歴史を見れば、メキシコ・アステカ王国を征服したコルテスやペルー・インカ帝国を滅ぼしたピサロ等々、南米へのヨーロッパ諸国の侵略にはキリスト教の信仰を掲げるという大義名分がありました。しかし、その名分の下に行われたのは略奪であり、殺戮であった訳です。

もちろん、今日そうであるようにその後、この地域はカトリック信仰の地となった訳ですが、実際に行われていたのは、本文に記されているような「新宗教」による素朴な民の支配であったことに間違いはないでしょう。

そういう意味では、「宇宙文明」という新しい分野が登場したことによって、同様な懸念を抱くのも当然なことです。事実、UFO目撃が顕著になった1950年代から、UFOを宗教化する動きが、人々に危機をおおって金品を集める者も出たことがあるのです。更に最近では地球規模の変動期に入らる中で、人々の不安を突いて、恐怖を助長する傾向も出始めています。私達はこれに対して、自らの良識と経験を最大限生かして、真実なるものを見極めることが大変大事な時代に入りつつあります。

144 Did you ever attend a camp-meeting where the participants threw themselves into such a high emotional state that they were finally hypnotized into performing things they could never have done when in a normal state of consciousness? After coming out of this emotional spell they were asked if they knew what they had done and the answer would be a negative one. All that they were conscious of was the fact that the Holy Spirit had them under control. This proves that they were under an imposed influence which deprived them of their power of reasoning and will.

144 貴方はこれまで、参加者達が、このような激しい感情状態に陥った結果、最終的には催眠状態にかかり、正常な意識状態では出来ないような事柄を成し遂げるような野外集会に参加したことはありませんか。この感情の魔法から抜け出した後、彼らは自分達が何を成したかを訊かれますと、否と回答するでしょう。彼らが意識していたことの全ては、聖なる魂が自分達を統率していたという事実だけです。このことは彼らが自分達から推論と意志の力を奪った、ある押し付けられた影響力の下にあったことを示しています。

【解説】

1960年代後半、米国ではヒッピーと称される若者達が反戦運動も含めて野外集会を通じた活動を行っていました。おそらく同種の集会が様々な主張の下、全米各地で起こっていたのかも知れません。

同様な事例が日本にもあったのかも知れませんが、多くは”火渡り”その他の行者が行う奇跡として残っているものと思われます。

とかく私達は通常では行い得ない過酷な行為を、痛みを感じることなく実行して見せる者を超人として称賛しますが、その実態について良く理解しなくてはならないということでしょう。単なる既存感覚の一時的鈍化であるかも知れないからです。

私達は元来、どのような目的で、これら向上の道を歩もうとして来たのか、再度考え、一時のショーのような奇跡には近づくべきではないのです。もっと広い宇宙の理解の下に息づいた自然の生活こそ目指すべきでしょう。

145 Some self-acclaimed Truth Centers are using this emotional hypnosis, induced by various methods. Innumerable individuals are testifying to healings but permanent healing or the regeneration of the body must be attained through an understanding of the conditions to be dealt with, and the execution of all actions must be taken in a free and conscious state of will. True faith is not a state of self hypnosis, it is a knowing, a willing of the personal ego will to the guidance of the All Intelligent Cause Will. The Will is the man and if the Will is restricted or held in dominance by another the individual ceases to exist as a thinking, reasoning being. Man must understand the forces of his being and control those forces to bring about the desired effects in his life.

145 幾つかの自称真理センターは、様々な方法で誘導される、この感情催眠を用いています。無数の個人が癒しについて証言していますが、永続的な癒し或いは肉体の再生は取り扱われるべき条件を理解した中で得られるものであり、全ての行為の実行は自由で意識的な意志状態の中で行われなければなりません。真の信仰は自己催眠の状態ではなく、知っていることであり、個人的な自我の意志が全知の因意志の導きに喜んで従うことです。意志とは人そのものであり、もしその意志が他の者によって制限を受け、或いは支配下に捕捉されるようなことがあれば、その者は考え、推理する存在ではなくなります。人は自分自身の存在の諸々の力を理解し、自分の生涯の中で望ましい結果をもたらすようそれらの力を制御しなければなりません。

【解説】

真に私達が救われる為には、一時的な催眠状態や恍惚状態では達成される筈もありません。何より、日常的、継続的な心境変化、宇宙的理解と実践行動による体験が必要であるからです。そのような一時的な恍惚状態は多くの場合、自分の意志を消滅させて指導者の意志に置き換える為、その後はもはやその本人は自分そのものを失ってしまうことにもなりかねません。危険な行為と言えるのです。

本項はすぐに結果が出るような神秘に向かう傾向に対して、警鐘を鳴らすと同時に、かつて仏陀が説いたように日々の覚醒の中で理解を拡げ、宇宙の法則（法）に沿った生き方を歩めとする教えとなっています。

146 It is true that many effects similar to the desired actions can be produced through self-hypnosis but when the person has returned to his normal state of mind he is unaware of the process by which he gained the experience. It therefore does not benefit him for he is never able to contact that particular experience again, and he has weakened his will. The Will is the controlling element of man's being - the element that makes the individualized consciousness a man or a beast, god or devil.

146 望んでいた行動と類似した多くの結果が、自己催眠を通じて作り出され得ることは確かですが、自分の心の正常な状態に戻れば、その者は自分がその体験を得たプロセスに気付くことはありません。それ故、その者にとって恩恵をもたらすものではないのです。何故なら、その者がその特別な体験と再び接触することは出来ず、その者は自分の意志を弱めてしまったからです。意志とは人の存在を支配する要素であり、個々の意識を人にするか野獣にするか、神にするか悪魔にするかを決める要素なのです。

【解説】

本項も自己催眠への警告を説いています。

おそらく当時、多くの場所でこくした野外集會が開かれ、人々が自称靈能者と稱する者に自身を委ねて、一時的な恍惚状態を作り上げていたものと思われまゝ。時代の変化の際に偽物が自分には靈能力があるとして、人々の悩みや不安を一時的にマヒさせていたものと思われまゝ。

このことは日本も含め各地に起こっており、特に戦後は「巷の神々」のごとく多くの新興宗教が生まれ、人々を救済するとして来ました。しかし、その実態の多くは集金システムに他ならない例も多かったのではないのでしょうか。

同様な事例はUFO・アダムスキー氏に関連しても言えることで、アダムスキー氏の死後、これまでも自称コンタクティーや自称超能力者の話が出ては消えて行ったことも確かです。

多惑星文明へのあこがれは、それ程、私達各人が抱いているものであり、それを狙う者も多く出現してしまう地球の現状があるのです。私達はハトのように穏やかであると同時にヘビのように賢明でならねばならないのはそれ故です。

147 Success in any endeavor comes not through self-hypnosis but through self-control. The perverted will is the cause of all mortal suffering but that suffering cannot be permanently lessened by a mere suppression of the will through any form of hypnosis. The will and understanding must be united to produce a worthwhile life of service and accomplishment. Emotionalism can very easily produce illusionary effects and lift an individual into a temporary state of ecstasy but it will never bring about the regeneration of the mortal body or the changing of the ego-will to the cause-will which is necessary for an all-inclusive understanding of life and the cosmos. There is but one way, into the sheepfold and that is through the expansion of conscious awareness in the field of understanding and a systematic training of the will rather than the deadening of the will.

147 どのような努力においても成功とは自己催眠を通じてではなく、自己統制を通じてもたらされます。墮落した意志が全ての死すべき苦難の原因ですが、その苦難はどんな形をとるにせよ、催眠からの意志の単なる抑制からでは永久に緩和されることはありません。意志と理解は有意義な奉仕と業績の人生を作り上げる為に統合させなければなりません。感情主義は大変容易に幻想上の諸効果を作り上げることが出来、個人を一時的な恍惚状態に引き上げることが出来ますが、死すべき肉体の再生や生命と宇宙の全包含的理解に必要な自我の意志の因の意志への転換をもたらすものではありません。目的とする羊の囲いには唯一つの道しかなく、それは理解という分野における意識的気付きの拡張を通じてであり、意志を強めるのではなく、意志を系統的に訓練することによるのです。

【解説】

何事も一時的な恍惚・マヒ状態によって達成したものは、後に続けることが出来ません。どのようにしえ、そのような心境に到達し、物事を実現したのかの実体験や記憶がなければそれらの現象は一時的なもので終わってしまいます。

一方、私達に必要なのは、継続的な歩みであり、その後、様々な状況変化の中にあっても、それら新たな環境の中、再び同様な道筋で努力することによって、普遍宇宙の法則の下、再び更により大きな成果を達成できるのは、こうしたこれまでの成功体験をよく覚えているからです。

その為に当時、自分はどのように覚悟し、どう行動したかをしっかり記憶しておけば、今後も同様な道筋で同様な成功体験を得ることは間違いないからです。

148 The Christ said, "Fear not the man that slays the body but fear the man that slays the soul." This individualized soul is the reasoning and will-power of man.

148 キリストは言いました。「肉体を殺す者を恐れず、魂を殺す者を恐れよ」と。この個別化された魂とは人間の推論と意志の力のことです。

【解説】

このイエスの言葉は、遠く2000年以上も前の言葉ですが、現実には今でも当てはまるものと言えるでしょう。人々を熱狂させるカリスマが真に確かな者かは危ういというものです。多くの場合、人々はその者を信奉し、突き進んだ結果が、残忍な戦争と空しい敗戦であった例は枚挙にいとまはありません。多くの場合、人々を熱狂させ、いわば狂気に陥れる者の背景こそ、私達は注意しなければならないのです。とりわけ他惑星文明に関する真実はタブー視され、一般には地球以外に文明はないとされて来ています。これは太古からの地球の支配者が自分達のコントロールが転覆されると恐れていることに由来します。しかし、遂には少しずつ真実は明らかにされ、人々は真理に目覚めて行くものと思われれます。これまでの呪縛からいち早く抜け出て、自ら宇宙空間における私達の立ち位置を確立し、新たな世界観、宇宙観を持つことが求められているのです。

149 Newness, constant action, progression of thought, substitution and replacement of ideas keeps one in pace with life. If you seek a broader understanding of the cosmos you need not affirm or deny but use your emotional power with reason for the betterment of yourself and others. Control your emotions instead of being a slave to them, for uncontrolled emotion which is temporary self-hypnosis is the cause of crime. You may never take the life of a fellow-being but if you indulge in self-hypnosis you will be guilty of killing your own soul.

149 新しさ、絶えざる行動、向上する想念、アイデアの交換や取替えは人を生命に遅れず付いて行かせます。もし貴方が宇宙のより広い理解を求めるなら、貴方は貴方の感情の力を肯定も否定もする必要はなく、貴方自身と他の人達の向上の為に用いる必要があるのです。貴方は感情の奴隷になるのではなく、それらを制御するのです。何故なら、制御されない感情は一時的な自己催眠であり、犯罪の原因であるからです。人は決して仲間の命を奪ってはならないのですが、もし貴方が自己催眠に身を任せるとしたら、貴方は貴方自身の魂を殺す罪に問われることになるからです。

【解説】

私達はあたかも呼吸をするのと同様に、毎回想念を摂取し、また放出しなければなりません。想念も空気と同様に呼吸し、放出する必要があるのです。即ち、自由な心境を保ち、様々な宇宙的想念・印象と接する中で、それらを実践行動して成果を得ることが望まれています。

こうする一連の行動の中で、私達は自らの感情の力を自らコントロールして用いて行けば良いという訳です。感情の力は大きく、それらを自分の配下に置いて、活用することが肝要だという訳です。

著者は拙速な結果ばかりに力点を置く、自己催眠のやり方では、やがては自分自身を殺すことになることを警告しているのです。

14 RELAXATION

150 One of the most ascribed methods of attaining physical and mental well-being is the development of the ability to relax. Psychology, medical science, athletes, etc., all acknowledge the beneficial results obtained when the body is not tense, but the average individual finds it difficult to relax at will.

第14章 リラクゼーション

150 身体的及び精神的健康を達成する上で最も要因となる方法の一つは、リラックスする能力を発達させることです。心理学、医学、スポーツ選手その他全てが、肉体が緊張状態に無いときに有益な結果が得られることを認めています。平均的な個人は、思いのままリラックスすることを難しいことだと思っています。

【解説】

刀を交えて相対する際、相手の剣の先が緊張してこわばる様子がなく、自在、柔軟に動く様子があれば、相手は相当の達人であり、急いで逃げよとする話を以前、本で読んだことがあります。如何なる状況にあっても自らの心をリラックスさせられる者は道を究めた者と言うことも出来るのです。

一方、私達は少しでも厳しい状況に出会うと、緊張し、全身が硬直して柔軟さを失いがちです。しかし、そのような状態では細胞は硬直し新しい想念を受け入れることが出来ず、問題の解決も出来ないこととなります。

如何なる時も、穏やかな心境を保ち、やって来る瞬発的な印象のヒラメキを受け入れられるよう、心の中を無、即ち空っぽにして置くようなリラックスの方法について、各自研究することが求められるのです。

151 I believe that there is a misconception regarding relaxation. It is often thought of as a state of inertia, and people will be heard to remark, "Oh, I haven't time to relax; my work keeps me busy every minute." If relaxation were truly understood such ones would realize that there is oftentimes much greater relaxation in work than in so-called periods of rest. The law of nature demands purposeful action and if a person is intensely interested in his work he is making of himself an open channel for the free expression of energy which is always waiting to be used. In other words, a person who has lost himself in some particular piece of work forgets to set up the usual mortal resistance to free-flowing energy and so opens himself automatically to its benefits.

151 私はリラクゼーションに関しては誤解があると思っています。しばしばリラクゼーションは慣性状態のように考えられており、人々は「ああ、私にはリラックスする時間が無い。仕事が休む暇なく忙しくさせている」と言うのを聞くことがあるでしょう。もしリラクゼーションが本当に理解されるなら、このような人はいわゆる休んでいる間よりは、しばしば働いている時の方がはるかにリラクゼーションにあることに気付くでしょう。自然の法則は目的のある行動を要求しており、もし人が自分の仕事に対して情熱的な関心を抱く場合は、その者は常に使用されるのを待っているエネルギーの自由な表現の為の経路に自分自身を成しているのです。言い換えればある特定の仕事の断片の中に自分を没入させた人物は自由に流入するエネルギーに対する通常の死すべき抵抗を打ち立てることを忘れてしまい、自分自身を自動的にその恩恵に対し開くのです。

【解説】

よく引き合いに出されるのは、パイプのたとえです。私達は自ら何かを生み出すというよりは、宇宙の因から与えられる想念・印象パワーを自らを通して表現する、即ち自分をその経路とするという訳です。

この場合、重要なのは私達は源のパワーの流れに対して抵抗となるようなあらゆる要素を無くして、可能な限り源泉オリジナルのものを表現し、現実世界に見せることです。

丁度、芸術家が寝食を忘れて作品に取り組む中、疲労感はなく、作業を進めて行くような状況です。本項で説く本当のリラクゼーションとはこのような状況を言うのです。

152 Relaxation should be used as a process of reestablishing harmonious, non-resistant action; the true way of expressing those words of the Christ, "Not my will but Thy Will be done."

152 リラクゼーションは調和ある無抵抗の行動を再構築する過程として用いられるべきです。その道はキリストの言葉、「わたしの望むことではなく、あなたの望まれることが為されるように」が表す、真の道です。

【解説】

本文のイエスの言葉は、イエスが自分が捕らえられる前にゲッセマネで祈っていた際の言葉とされています。（マルコ14:32-42）。

捕らえられた後に起こることを知っていたイエスが決心して、自ら捕らわれて行った際、自らの命が断たれることに対し、「父」なる創造主の意思に自らを託し、その役割を受け入れた時の言葉なのです。

それ程、大事な言葉なのですが、本項ではそれこそがリラクゼーションの意義であると説いていることに注目すべきでしょう。真のリラクゼーションとは、生死を掛け、創造主を信頼した一大決心を要することを遠く示唆しているように私には思えるのです。

153 Relaxation is not inertia! A person may be very quiet and still not be relaxed. It is possible to be in a state of lethargy which may be interpreted as relaxation but such a condition is no more than the effect produced by loss of equilibrium which lowers the frequency of the body cells and puts them in a state of partial coma. Such a condition is to be avoided for it is actually destructive. Relaxation does not include the creation of a mental vacuum or the cessation of action. It is the means by which the mortal consciousness releases itself to the greater action of the Cosmos and therefore should not and cannot produce a dormant condition in any part of the body. If a person is not aware of a finer and more intense activity taking place within his being he can assure himself that he is not relaxed but has merely dropped into a state of indifference.

153 リラクゼーションは惰性状態のことではありません。人はとても静かであってもリラックスしているとは限りません。リラクゼーションと解釈されるかも知れない無気力状態もあり得ますが、このような状態は肉体細胞の振動数を下げ、それらを昏睡状態にさせるような均衡を失ったことによってもたらされた影響でしかありません。このような状態は避けなければなりません。何故なら、それらは実際には有害であるからです。リラクゼーションは精神的真空状態や行動の中断を作り出すようなことは含み得ません。それは死すべき意識が自分自身を宇宙のより大きな行動に解放する手段であり、それ故、身体などの部分にも休眠状態を作り出すことはありません。もし、ある人が自分自身の中により精緻で、より激しい活動が生じていることを感知しないのであれば、その者はリラックスしているのではなく、単に無関心の状態に落ち込んでいるに過ぎません。

【解説】

真のリラクゼーションについて著者は本項で、その内容を説明し、同時に私達がこれまでリラックスするという意図で行って来た体内の生命活動・精神活動の停滞状態は有害であることを説いています。

これまでも述べられて来たように、私達にとって本当の意味のリラックスとは生命本来の生き生きした活動の中に、それら生命波動と共鳴し、不調和無く生きることであり、私達自身を通じてそれらを現実世界に表現することです。従って、そこには停滞の要素はなく、無関心も有り得ないのです。

実は、この状況を実現する為には私達自身の側で様々な工夫も必要とすることでしょう。自我に生じがちな未経験な物事への不安や失敗への恐怖等、乗り越える課題は数多いものです。しかし、練習や努力の積み重ねがやがてこれらを克服し、本来の自分の舞台、表現の場で活躍できるものと考えます。真のリラクゼーションの習得は、その人のその後の人生を飛躍させる大きな力を与えて呉れるものであるからです。

154 A person may quiet the body through a form of self-hypnosis, but this is not relaxation, for it destroys the free action of the body elements. The body is composed of tiny cells in each of which there is a spark of potential energy capable of unlimited radiation. This spark or nucleus within each cell is the animating energy of the body, but because the particles surrounding this central force are generally held in the tense state they act as barriers or resisters to the energy within. When this tense condition is released the outer substance composing each cell becomes receptive to the energy at its center and is set into a higher frequency through the action of the interpenetrating force.

154 ある人は自分の肉体を自己催眠の形を通じて鎮めるかも知れませんが、それはリラクゼーションではありません。何故なら、それは肉体の構成要素の自由な活動を破壊しているからです。肉体は小さな細胞から構成されており、それら一つ一つの中に無限の放射能力が秘められたエネルギーの生気があるのです。この生気、もしくは細胞核は各々の細胞の中であって、肉体の活動的エネルギーとなっています。しかし、この中央の力を取り囲んでいる粒子群が極度の緊張状態にあって、内側のエネルギーに対する障壁や抵抗になっています。この緊張状態が解放されると、各細胞を構成するその外側の物質は中央部にあるエネルギーを受け入れることが出来るようになり、その貫通する力の活動を通じて、より高次の振動数にセットされるのです。

【解説】

暗示や自己催眠によって、細胞を不活発にすることが如何に有害であるか、本項はよく解説しています。私達には本来、様々な活動的な想念・印象波動が贈られて来る訳ですが、自らの周囲に殻を作り上げ、その内側に籠って不活発な状態に居ることは、やがてあらゆる物事を静止させ、肉体の生命活動すら停止させることにもなるのです。

私達はもちろん、過度な活動も有害なのですが、これら宇宙に源を発する活動的な波動に心身を調和させることで、常に若々しい精神状態を保つことが出来るというものです。それこそ、生命の息吹を与えた創造主の意図でもあるのです。

155 Relaxation reduces the friction within the body by eliminating the resistance of one cell-form to another. For instance, if a large number of fish were placed in a very small bowl there would be constant friction due to the inevitable contact between them, and the action of each would be retarded because of the congested condition existing within the bowl; but if these same fish were released into a large pool they would swim about easily without interference with one another. They would be in a position to use the potential energy which they possess. The cells in the body act in the same manner and it is the mortal sense mind which must release them for free execution of their purpose.

155 リラクゼーションは、細胞と細胞との抵抗を取り除くことによって、肉体内の摩擦を低減します。例えば沢山の魚がとても小さな鉢に置かれたら、それらの中には避けがたい接触に起因する恒常的な摩擦が生じるでしょうし、各々の行動はその鉢の中の混み合った状況のため、遅らされることでしょう。しかし、これら同じ魚が大きな池に放たれるなら、魚達は互いに干渉されることなく、たやすく泳ぎ回ることでしょう。彼らは自分達が持つ秘めたエネルギーを用いる立場になることでしょう。肉体の中の細胞も同様な行動を取りますし、細胞もそれらの目標に向けて解放しなければならないのは、死すべき感覚心なのです。

【解説】

私達が相手にしなければならないのは、自分自身です。それは自身をこれまで束縛して来た心を鎮め、代わって私達の内部に湧き出る宇宙的印象を積極的に受け入れるようにすることです。これまでの私達は自我のこだわりや心配の為、自らの身体を酷使して来ました。その結果、肉体細胞は疲弊し、ストレスの中で辛うじて生きているのです。

しかし、真のリラクスの重要性に目覚めた人は物事は心が自由、柔軟になった時に成就することを学ぶことが出来ますし、そのような心境こそ大切であることを知ることになるのです。「融和」という表現がありますが、周囲との摩擦やあつれきを防ぎ、和やかに互いが進歩する環境づくりの重要性はそこにある訳です。自分自身には厳しくとも、他人には寛容であるべき所以は、こうした環境づくりにあるように思います。

156 The average individual does not realize how completely he is bound and limited by his own opinions. Tenseness is wholly a condition caused by the personal ego; possessiveness, greed, fear, covetousness and self desires all produce a set and unyielding condition within the body. The person who is of a very positive nature finds relaxation a most difficult accomplishment, for relaxation consists of releasement and non-resistance. It is a natural state of being which should be maintained at all times but cannot be held by one who is absorbed in self interest only.

156 平均的な人間は自分が如何に自分自身の意見によって完全に縛られ、制限を受けているかが分かっていません。緊張状態は個人的なエゴによってもたらされた全くの状態なのです。所有欲、欲張り、恐怖、どん欲そして自己願望、これら全てが一派を作って頑固な状態を肉体内部に作り出します。とても独断的な性格の人はリラクゼーションを最も達成が困難なものだと思っています。何故なら、リラクゼーションは解放と無抵抗から成り立っているからです。それは常時保持されるべき自然な状態なのですが、自己の関心のみに没入している人には掴むことは出来ません。

【解説】

以前、Wayne Dyer（ウエイン・ダイヤー氏）の講演録ビデオの中で氏が盛んにSurrender（降伏して明け渡せ）と説いていたことを思い出します。その意味は、早く自分自身の自我（エゴ）の限界と問題を自覚して、宇宙にあまねく存在する宇宙的生命波動の流れの下に立ち返れとしていたものと解釈しています。同様なことは、イエスの説いた放蕩息子が父の下に戻るたとえと同じ意味でもあるのです。

とかく私達は一方では極めて積極的（ポジティブ）であり、独善的で他の者の意見や周囲を顧みず、我を押し通そうとしますし、もう一方では全てに自信を無くして何も出来なくなる悲観的、消極的（ネガティブ）のいずれかになりがちです。しかし、そのどちらも実は自我がその本人を支配しているのであり、それを抜け出るには、こだわりや面子を捨てなければならないのです。Surrenderとはそのように問題要素を捨て去ることの必要性を述べているものと思われます

157 In the beginning, man dwelt in the state of contentment and relaxation for he knew no "thine and mine" - he was guided totally by the Father and his every conscious thought was executed freely and perfectly in its pure state of perception. It was only when man set up resistance to free-action that he became tense; the results of which are pain, disease and death.

157 原初において、人は満足とリラクゼーションの中で暮らしていました。何故なら、「貴方のものと私のもの」という概念を知らなかったからです。人は父によって全てを導かれ、人が意識するあらゆる想念は、その純粋な感受の下、自由かつ完全に実行されていました。人が緊張状態になったのは、唯一人が自由な行動に対して抵抗を打ち立てた時なのでした。そしてその結末は苦痛、病そして死なのです。

【解説】

創世記のエデンの園の記載にあるように、そもそも私達人間が原初において創造された時、私達は何一つ不足ない楽園に暮らしていました。自分と他人との区別なく、皆一体とした生命観の下、文字通り天国の国で暮らしていたのです。

しかし、その後は今日に至るまで私達は緊張と争いの中に生きるようになってしまいました。知識や知能という分野では進歩したかも知れませんが、今日の世界を見て分かるように、私達はおよそリラクゼーションとはかけ離れた生活を送っていることに間違いはありません。

その原因が何処にあるのか、何故私達は原初の穏やかな生活を失ってしまったのか、一人一人がよく考える必要があります。所有欲の行く末がどのような状況をもたらすのかを考えることを著者は本項で求めているのです。

158 When relaxed one is flexible and receptive to unlimited conscious energy which is free to all who draw upon it. Life and energy are limitless but we can have only as much as we are willing to accept.

158 リラックスしていると人は柔軟になり、それを求める全ての者に自由に与えられる無限の意識的エネルギーを受け入れられるのです。生命とエネルギーは無限ですが、私達は受け入れようとするだけしか得られないのです。

【解説】

私達の前には無尽蔵の英知があり、それを受け入れる者に無償、無制限に与えて呉れます。もちろん、本人が受け入れたいと思う分野や量に応じて贈られるという訳です。

これについては、最近のインターネットサイトでは有料の会員登録をした者であるとか、使用料を支払った者のみに情報が与えられるのが普通ですが、この宇宙英知には、そのような制限は一切ありません。まさに「求めよ、さらば与えられん」の通りです。

一方、こうした知識にあずかれない人々も数多いものです。それらの人々は自分の殻の中に閉じ籠って外界からの支援を受け入れようとはしないのです。そうした状況を解決するには、先ずその者の心を柔軟なものとし、外界と融和出来るリラックスした状況に置く必要があります。その為にこそ、楽しい事柄も必要な訳です。おそらく精神医学が処方する薬剤もそうした作用を目論んでいるものかと思われま

す。しかし、こうした手段より、自らの自覚によって本来の宇宙の姿、調和した美しさに気付き、私達が実は美しい世界に暮らしていることに気付くことが大切かと思っております。リラックスした心境は宇宙からのアイデアを受信する上からも大切な要素なのです。

159 The people on Venus live this law and thereby do not have to endure the unpleasant conditions that we must contend with on earth.

159 金星の人々はこの法則に生きており、それ故、地球上で私達が向き合わなければならないような、不愉快な状態を耐え忍ばなければならないということはありません。

【解説】

これらリラックスした心境を保つことが私達が今後、進化する上のポイントになります。既に伝えられているように、他惑星人には感情が高ぶったり、怒ったり、また極端に悲しんだりすることはありません。こうした過度の感情は身体への悪影響が大きいこと、またそれに対応して発する類似した想念は他の者や周囲の環境に影響を及ぼすことを熟知しているからです。

常時、心を穏やかにまた、オープンで寛容的に保つこと、基本を宇宙的な波動に置くことこそが全てを託された私達人間の最大の務めなのかも知れません。イエスはご自身が磔になっている最中でも、肉体の痛みを克服され、穏やかな言葉を語っておられたことは、こうした深い理解に基づいているということでしょう。

160 Man is capable of expressing the fullness of life but he must become non-resistant to cosmic energy if he would have it express through him. He has lost the true course of action by exalting the personal ego; he has created the habit of believing that all accomplishment is brought about through the exertion of personal effort. He fatigues himself unnecessarily by trying to force conditions which will come about perfectly in a natural way if allowed to do so. Much energy is wasted because of personal dominance. It is difficult for the mortal to understand that impersonal non-resistance allows a free flow of energy, that in peace there is more intense activity than in friction. Man has become so aware of the coarser frequencies that he cannot realize action in its finer, more quiet and peaceful state. One who does live the non-resistant, receptive attitude has found the highway of true happiness, for he knows no fatigue, no pain, no disappointment.

160 人は生命の完全さを表現できる能力を有していますが、それを自分を通じて表現するには、宇宙エネルギーに対して無抵抗にならねばなりません。人は各自のエゴを高ぶらせた結果、真に歩むべき行動の道を見失ってしまいました。人は全ての達成物は各自の努力の行使を通じてもたらされると信じる習慣を作り出してしまいました。人はもしそうすることが許されれば自然と完璧に訪れるような状況に対して、無理強いすることで、不必要に自身を疲労させています。より多くのエネルギーが個人の優位のために浪費されています。死すべき者にとって、非個人的な無抵抗がエネルギーの自由な流れを与え、平穏の中には摩擦状態よりはるかに強烈な行動があることを理解するのが難しくなっています。人はより粗雑な振動に対してあまりにも敏感になってしまったため、より精緻でより静かな平穏な状況における行動を知覚することが出来ないのです。こうした中、無抵抗で受容的な態度で断固生きる者は真の幸福の王道を見つけています。何故なら、その者は疲れや痛み、失望を知ることはないからです。

【解説】

繰り返し述べられているように、私達に必要な事柄は自らを通じて宇宙の知性の表現者になること、宇宙的波動に自らを共鳴させて、自らを通して与えられたものを精一杯表現することです。そこには、自分の力は何一つ要せず、唯一湧き出るエネルギーをそのまま疑問視したりせず、伸び伸び表現することです。

これは丁度、幼児が何事にも楽しく遊ぶ様子に似ています。彼らは恐れや失敗を気にせず、今を楽しんでいます。こうしたことが私達人間の本来のあるべき姿と言えるのです。そこには沸き起こる宇宙的衝動に対して、何ら自我の判断を差し挟むことなく、自らは表現者になり切っているということでしょう。

このような体験を積み重ねることが、私達の肉体を活性化し、若々しく保つことにもなるのです。晩秋の頃、落ち葉が舞い落ちる日常の中にも、落ち葉が積もることで昆虫達の冬越しの場を提供する等、自然界における各構成員がそれぞれの役割を果たしている様子を学べる機会は多くあるものです。

161 The idea that one must become strenuous in outward action or must display an appearance of great personal effort in order to accomplish outstanding things is a false belief. The person who reaches the greatest heights of accomplishment is he who holds all of his actions in a serene and peaceful state, recognizing the fact that he is not the instigator or projector of intelligence but only the form through which it flows into manifestation; and the more fully the recipient is cleared for action the greater the action will be.

161 人は顕著な物事を達成する為には、外に向かったの行動に奮闘し、或いは大いなる個人的な努力をしている姿を示さなければならないとする考えは誤った信念です。最高位の達成に行き着いた人は、自らの行動を澄んで平安な状態に維持し、自らを英知の扇動者や計画者としてではなく、自分が創造物に流れ込む形あるものでしかないという事実認識をしている者です。そして受容者が行動の為、より完全に空になればなる程、より大いなる行動が起こることになります。

【解説】

これまで聞かされて来た私達に求められる「努力」について、本項はその根本が誤っていることを指摘しています。自我の願望を実現しようとするのではなく、宇宙的知性を自らが表現者となって体現することを私達は目指すべきなのです。

その為には、その業績の成果は個に帰すべきものではなく、宇宙本源にこそ属するものと言えるのです。その点、古来の芸術家や職人は作品に名を遺すことはありませんでした。成果として出来上がった作品を愛でることはあっても、自分の作品とは見ていなかったということでしょう。全ては宇宙から湧き起こるインスピレーションを見える形にただけとの認識があったからです。

162 It is not the exertion of the personal will but the releasement of the personal to the impersonal will which brings increased energy and wisdom into our lives. We need only to remove the barrier of "self"-ishness and a tide of understanding will flow in and through our being until we become immersed in its activity

162 エネルギーの増加と知恵を私達の生活にもたらすのは、個人的意志の行使などではなく、個人的意志の非個人的意志への解放によって行われます。私達は只、自己中心的障壁を取り除くだけでよく、そうすれば理解の潮流が流れ込むようになり、遂には私達を通じてその活動の中に没入することになります。

【解説】

何につけても、育て訓練するのは自分自身です。こればかりは他人に頼めるというものではありません。古くから修身という言葉があるように、自らを如何に本来の人間としてあるべき姿に戻すか、そして創造主の僕（しもべ）として暮らすかが重要です。

先日、機会があり、函館のトラピスト修道院を訪問しましたが、山の上に建つ修道院で暮らす修道士の人達は毎日、自分と向き合い、日常の仕事を行いながら、ひたすら創造主の声を自分の中に取り入れる訓練をされているように感じました。また、その高貴な生き方が周囲の田園をより美しく保っているように思えたものです。

15 THE LANGUAGE OF THE COSMOS

163 In recent years there has been a greater trend towards the brotherhood of man than ever before in the history of this civilization. The advent of radio, television, etc., have united the world into a common relationship. There has been much discussion among the learned men of every nation regarding the possibility of formulating a common language so that intercourse between peoples of different nations may be facilitated.

第15章 宇宙の言語

163 近年、この文明の歴史の中でこれまで以上に人間の兄弟愛に向けてのより大きな傾向が生まれています。ラジオやテレビその他の到来は世界を共通の関係に結びつけて来ました。異なる国々の人々の間での交流を促進できるよう、共通の言語を形成する可能性に関し、あらゆる国の学者達の間で沢山の議論がなされました。

【解説】

本講座が執筆された1961年当時、既に世界はラジオや新聞等のニュースが普及し、各自の生活の中に世界の出来事が流れ込んで来ていました。しかし、その傾向はそれよりはるか以前から、エスペラントその他の世界共通語の模索活動の中に表れていました。

本項を読んで思い出すことがあります。私が未だ高校生の頃、当時、既にアダムスキー氏は何処かの講演記録の中で、これからは米国英語が世界の共通語になると言明していたことを記憶しております。当時はドイツ語、フランス語等、様々な言葉が言語圏を作っていた頃です。それを知った私は、ドイツ語から米国英語に切り替えて、進学を決めたものでした。その結果は、今日の通り、英語が仕事上でも実質上、世界の共通語になっています。母国語の他に英語を身に付けることが益々重要になる世の中になりつつあると思うのは私だけではないのではないのでしょうか。

164 Although few men are aware of its existence there is a universal language - a language which includes not only the expressions of man but that of every living thing; a language so simple that even a new-born babe can understand.

164 ほんのわずかの人しか、その存在に気付いていませんが、宇宙普遍の言語は存在するのです。人間による諸々の表現のみならず、あらゆる生きものの表現を含んだ言語で、あまりに簡単なため、生まれたばかりの赤ん坊さえ理解することが出来ます。

【解説】

以前にも「テレパシー」の講座で学んできた通り、宇宙にはあらゆるものが生まれながらに持つ宇宙共通語を持っているという訳です。

一つ一つの生きものが鳥のさえずりや虫の音等、各々の種に独特な音声を持っていますが、それ以外に互いに理解し合える共通の言語があるのです。同じ家の中に暮らす犬や猫もそれぞれ鳴き声とは別に互いに理解できますし、私達人間が外国で言葉が通じず困るような状況は一切見られません。動物達は何処に移されても、何不自由なく生活して行けるのです。

次項では、詳細な解説が為されますが、この宇宙普遍の言語、フィーリングこそ、私達が最も大切にしなければならぬ日常生活のポイントなのです。

165 We have conceived the idea of a universal language among men because we are aware of being able to understand the human voice and have developed the habit of expecting the voice of man to interpret for our benefit the thought which passes through his mind, but we have not included in our efforts of unification any but the man kingdom. Why should this be so, for are the sounds which make up the various languages so different than those of nature itself? As the different races of men speak with various sounds and combination of sounds; each form of life in this world does the same, yet we do not seek to understand them. Man has limited himself to one phase of life and has closed the door upon the vastness of the Cosmos. This is due to the fact that he has given recognition only to the mortal senses which gain their impressions from outer things. He expects to hear only those sounds that are coarse enough to affect the physical organ of hearing and so he loses the ability to interpret the cosmic language as a whole. And what is this cosmic language? It is conscious feeling - the voice that speaks through every form and which, therefore, unites All into an inseparable unit. There is nothing in the cosmos that cannot speak to man with the voice of conscious feeling and there is not one thing that cannot understand that language. It speaks as clearly through the smallest thing as it does through the greatest.

165 私達は人間の間にある宇宙普遍の言語についてのアイデアを思い付いて来ました。何故なら私達は人間の声を理解出来、自分の心を通過する想念を私達のためになるよう翻訳しようとする習慣を発達させて来たからです。しかし私達は私達の統合化の努力を人間界のみに留めて来ました。何故そうなってしまったのでしょうか。様々な言語を作り上げる音は自然自体の音とは違い過ぎるからでしょうか。様々な異なる人間は異なる音や音の組み合わせで話しますし、この世界の各々の生きものも同じことをしますが、私達は彼らを理解しようとはしません。人は自分自身を生命の一つの側面に限定させており、宇宙の広大さのドアを閉めているのです。これは印象を外部のものから得る死すべき感覚のみに認知を与えて来た事実によるものです。人は肉体の聴覚に影響を与える程の粗い音声のみを聞き分けることを期待しており、その結果、全体としての宇宙的言語を翻訳する能力を失っています。そしてこの宇宙的言語とは何でしょうか。それは意識的フィーリング、あらゆる形あるものを通じて語られる声であり、それ故、全てを離れられない単位に結びつけるものです。それは、最も大きなものを通じるのと同様に、最も小さなものを通して明確に話し掛けています。

【解説】

各地の人々により話される言語には差があるものです。同じ国であっても地方により方言が生まれ、また異なる言語が用いられる国もあります。私達は音声による言語に頼っている為、これら異なる言語圏に入った場合には、相手の意思を把握することが難しいのです。

しかし、私達が更に深く相手の意思を理解しようとする時、私達はこれら音声言語と同時に発せられる想念・印象波の領域についても理解しようとする努力が必要になります。この想念・印象レベルの感受性が少しでも理解できるようになれば、私達は他の生きもの達と同様、音声言語も合わせて素早く学ぶ取ることも出来る筈です。他惑星人はこうして新しい言語についても容易に習得することが出来るものと思われま。

166 You are related to everything in the cosmos. The language of consciousness is spoken by all, and if you will be continuously aware of this fact the time will come when you will understand every living thing. The leaves upon the trees, the chirp of the birds, the croak of the frog, the hum of the bees - all will speak to you and you will understand life as it manifests through each individual channel. Every slightest sound will become a voice no different than the voice of another human and you shall partake of the consciousness of each thing that lives.

166 貴方は宇宙の中のあらゆるものと関連しています。意識の言語は全てのものによって話されており、貴方がこの事実絶え間なく気付いていれば、貴方があらゆる生きものを理解する時が来ることでしょう。木々の葉、鳥達のさえずり、カエルの鳴き声、ミツバチの羽音、これら全てが貴方に話し掛けるようになり、貴方は各々の経路を通じて生命が現れることにより生命を理解するようになるでしょう。一つ一つのわずかな音が他の人間の声と何ら変わらない声になることでしょうし、貴方は生きるものの意識を分かち合うことになる筈です。

【解説】

以前、芹沢光治の著作を読んだ中に、作家自身が樹木や鳥たちの話声を聞くようになったという記述があったことを思い出します。おそらく、本項で説かれているように、私達も感受性を高めれば、やがては木の葉や鳥のさえずりの中に、これら生きもの達の意思を感じ取ることが出来るようになるのではないのでしょうか。

その背景には、私達の肉体の感覚器官が音声を聞き、また併せて発せられる想念・印象波動を私達の心で感知出来るようになっていくことがあるのでしょう。多くの啓示もこうしたメカニズムで起こるものと思われます。

167 Why is one affected by music, for instance? It does not speak words as a human speaks and still one melody will produce a feeling of great joy, another of sadness, and still another will carry one into a state of exaltation. It effects a person who has never studied the science of harmony just as it affects the one who is a musical master. Music is a universal language for it is interpreted through the Cardinal Sense of Feeling.

167 例えば何故、人は音楽によって影響を受けるのでしょうか。音楽は人間が話すような言葉を語ることはありませんが、それでも一つのメロディーは至福感を作り上げ、他のメロディーは悲しみを、そして更に別のものは聞く者を高揚感の中に導きます。それは和声学を学んだことのない者も、音楽の巨匠である人に作用するのと同様に影響を受けるのです。音楽とはフィーリングの中枢感覚を通して翻訳されるが故に、一つの宇宙普遍の言語と言えるのです。

【解説】

確かに音楽は誰でもが理解できます。その曲調により、悲しみや喜び等、作曲家の思いが聴衆に伝わりますが、そこには言語による解説は不要です。その理由として、本項で著者アダムスキー氏は私達はその音楽を私達自身に備わっている中樞的間隔を通じて翻訳されているからだと言っています。

つまり、単に音のつながりを把握しているのではなく、その波動を翻訳し理解する機能が私達に備わっているという訳です。私達がテレパシーその他として表現しているのは、こうした波動の翻訳機能が万物それぞれに備わっており、それ故に各自の想念が互いに理解されるということかも知れません。

168 Why is one very joyful in the springtime and vibrant with life? Why does the feeling of quiet releasement come with the fall of the year? Because nature speaks the cosmic language and man, though he realizes it or not, understands that language and is affected by it.

168 何故、春に人はとても楽しく生気に溢れるのでしょうか。何故、秋とともに、落ち着いた解放感がやって来るのでしょうか。それは自然がその宇宙的言語を語っており、人は認識するしないにかかわらず、その言語を理解し、それに影響を受けているからです。

【解説】

私達は地球という大きな自然環境の中に暮らしており、周囲の環境から大きく影響を受けています。それは冬の寒さや雪国の厳しさの中で暮らす北方の人々と常夏の島に生活する人々の性格や文化の差に現れることにもあるでしょう。

また、季節の変化も私達の心境に大きな影響を及ぼすものでもあります。これらはいずれも言語によらず、自然の風景や気候の変化等を通じて私達が感じ取る印象変化に基づいており、私達自身が生活する場所から影響を受けていることを背景としています。

見知らぬ外国語の文章の中身を理解しなければ、その意味をつかむことは出来ませんが、私達の心に直接的に伝達できる印象経路を通じることによって、私達は相互に理解を深めることが出来るのです。

169 If it were not true that a universal language exists how is it possible to train animals to act according to man's command? Even a little insect like the flea can be trained to perform perfectly. It is certainly not the human voice or the words spoken in French, English, Spanish or any other tongue that guides their actions; it is the voice of conscious feeling which speaks more clearly than any audible word.

169 もし、宇宙普遍の言語が存在するということが真実でなかったとしたら、どうやって動物達を人間の命令に従って行動するよう訓練することが可能となるのでしょうか。ノミのような小さな昆虫でさえ、完璧に演技するよう訓練され得るのです。彼らの行動を導いているのは人間の声、或いはフランス語、英語、スペイン語その他の言語で話された言葉ではないことは確かです。それは耳に聞こえる言葉よりも更にはっきり話される意識の声なのです。

【解説】

飼い主と動物との間には何一つ意思疎通上の問題はありません。とりわけ、犬は盲導犬や介助犬等、人を支える大きな役割も担っている程、飼い主に寄り添い、飼い主の生活を支えています。

こうした動物との間にはもちろん、音声による意思の伝達もあるのですが、双方の信頼等、深い所での理解には、本項で言う音声に拠らない宇宙普遍の無言の言語が機能しているのです。

私達が自然を理解するには、この宇宙の言語とも言うべき想念・印象の感受が大切になります。その為には努めて既存の感覚を鎮めて、より穏やかな生命波動に気付くことが必要です。大自然の沈黙の中に生命の息吹を感じ取る心境を発達させる必要があるということでしょう。

170 The language of the cosmos is the vibration or frequency of sound, of light and of thought. It is all one voice - the great voice of feeling. It speaks with deep reverberation in the thunder and it speaks in the silence of our deepest repose.

170 宇宙の言語は音、光そして想念の振動ないし周波数です。それら全ては一つの声、フィーリングの大きいなる声です。それは雷鳴の深い反響と共に、また私達の深い安らぎの沈黙の中でも語っています。

【解説】

宇宙の言語は波動・振動であると明言されています。そのことは一つ一つの断片的な音ではなく、絶えず揺れ動くような波動として伝わって行く性質を持っているということです。その根本は私達が発する想念・印象と思われませんが、それらは水面に広がる波のように各地に伝播するということでもあります。

それら波動は、物質界の音のレベルに関わらず、常に空間を行き来しており、私達の身体を貫いて伝わって行く訳です。丁度、カミオカンデのように地中深くにあって、他の粒子は到達出来ない場所であっても、大地を貫く素粒子のような、物質を超越したエネルギーであるとも考えられます。

こうした素粒子のような無限のエネルギーを想念波動は持っていると考えた方が良いかも知れません。

171 Man's greatest power lies in his recognition of this cosmic language, for when he realizes that every tiniest atom is able to comprehend the language he speaks he will impersonally command with greater certainty and all lesser forms of life will obey him. Man, himself, will rise to vaster heights of accomplishment for he will know the greatest and the smallest and can guide them into united action.

171 人の最大の能力はこの宇宙的言語の理解の中にあります。何故なら人があらゆる最小の原子は人が話す言葉を理解することを理解するや、人はより大いなる確かさで非個人的に命令を下すことでしょうし、人より下位の全ての生きものは人に従うだろうからです。その結果、人は自分自身、達成のはるかの高みに昇ることでしょう。人は大いなるものも小なるものも合わせて知り、それらを結束した行動に導くことが出来るからです。

【解説】

私達の本当の力は、こうした宇宙普遍の言語を駆使できることであると本項で説かれていることは重要です。著者の文脈からは、いわゆる創造物の最高位に位置付けられた人間故の能力という意図も伝わって来ます。つまり、他の生きものよりも人間は本来、はるかに想念・印象の伝達・感知能力が高い存在だという訳です。

また、こうした能力は原子・分子の微細要素に伝達できる為、諸々の自然現象をもコントロールできることとなります。イエスがカラシ種ほどの信念でも山を動かすことができると言われた背景には、私達地球人も大きな可能性を有しているという理解があるのです。

一方で、人心の乱れが国を亡ぼす例えの通り、私達の日々の心境が大地に大きな影響を及ぼすことも確かでしょう。今日の地球規模での気候変動は単なる炭酸ガス濃度の上昇等といった原因でなく、私達自身の「内部の状況を反映しているものと思うべきかも知れません。

172 We have spoken about this language as it expresses through the medium of sound, which is one of the lower voices of consciousness, but let us now consider thought. Here we have taken a step higher for through this form of communication we have eliminated time and space. Through the medium of thought we are able to speak to another although we are thousands of miles away and the contact is made almost instantaneously. Through this means of transmitting a message we can contact another person even though their body is in the state of sleep. Conscious thought is a messenger that works unhampered by time, space or conditions.

172 私達はこの言語というものについて、意識の低次な声の一つである音の媒体を通じて表現されるものとして語って来ましたが、更に想念を考えて見ましょう。ここでは私達は一段高いステップに立っています。何故ならこのコミュニケーションの形態を通じて私達は時間と空間を取り払っているからです。想念の媒体を通じて私達は何千マイル離れていても他者と話すことができますし、その接触はほとんど瞬間的に行われます。このメッセージを発信する手法を通じて私達は相手の肉体が睡眠状態にあっても相手と接触することが出来ます。意識的想念は時間や空間、あるいは状態に妨げられることなく働くメッセンジャーなのです。

【解説】

日本には言霊（ことだま）という概念があります。人が言葉を音声として発する時、同時にその発した言葉は諸々の実現力を発揮するというものです。本項で説かれていることは、私達が音声で言葉を発する時、同時に私達は同じ内容の想念波動を空間に発しており、その想念波は距離に関係なく瞬時に相手に伝わるという言霊と類似した内容を伝えているものと思われます。

問題はそれら想念波動を受信したとしても何ら感知出来ない者が多いということでしょう。戦争中に敵味方双方の暗号通信が飛び交っていた訳ですが、それらの感知や解読等、想念波動の感知能力が高ければ、相手の動きも手に取るように把握できることになります。

そうなれば、隠し事や秘密の企て等が皆無の惑星になることは間違いありません。惑星自体の進化の上からも本章で学ぶ宇宙普遍の言語の修得が重要となるのです。

173 It has been said that such form of communication cannot be relied upon but that is untrue. We are being guided constantly by the voice of conscious thought, whether projected from a cosmic source or through a personal channel. There is no man who is not to some extent aware of his power of intuition which is nothing more or less than the voice of consciousness.

173 このようなコミュニケーションの形成は信頼できないとされて来ましたが、それは真実ではありません。私達は宇宙的源泉から投影されたものにせよ、個人的な経路からにせよ意識的想念の声によって常に導かれています。意識の声以外の何物でもない自らの直観力について幾分かも気付いていない者は誰一人居ないのです。

【解説】

私達に救いがあるのは、本項で説かれているように、私達には絶えず想念・印象波動が注がれており、少し気付きさえすれば、やがてその径路への理解も拡がるからです。

とかく私達は日々の生活の中で不安や迷いに同調しがちです。社会の出来事を伝えるニュースもそうした話題のみを私達に訴え続けて来ますので、遂には恐怖が私達を支配するようになって行くのです。

こうした中で立ち直るには、私達自身の心境をもっと穏やかに保ち、やって来る宇宙的印象に共鳴、発展出来るよう常に常にスタンバイして置く必要があります。直感に従い自らを創造主の僕（しもべ）に置くことで、自らを通して宇宙的印象が表現されることを願う心境に自らを調律する必要があるのです。

174 When the Christ, made the statement, "I and the Father are one" He was professing absolute knowledge of the cosmic language, for the Father is All and how could the Christ be one with all unless he was able to enter into communion with it and acknowledge his relationship to it.

174 キリストが「私と父とは一つだ」と述べた時、キリストは宇宙的言語についての絶対的な知識を持っていることを明かしたのです。何故なら父は全てであり、キリストはその中に一体化して入って行き、自分とそれとの関係を自覚していなければ、どうして全てと一体になることが出来ることになるのでしょうか。

【解説】

私達が本項を読んで驚くべき本当のことは、2000年前、既にイエスは今日、私達が学ぼうとしている宇宙的言語について完全に理解し、その上で当時の地球人に分かりやすく語っていたということです。

1952年11月20日以降、アダムスキー氏が指名され、携わって来た地球人覚醒の為のプロジェクトはこのように2000年スパンの長大な計画であったと解釈すべきでしょう。

本講座で説かれている内容は、それほどに地球人の進化にとって大切な要素なのですが、現実というもう一つの側面から見ればそれ程、私達地球人にとって容易でない事柄なのかも知れません。私達はそれ故、急ぐ必要はなく、一步一步自らの理解を進めて行けば良いのです。

175 The Great Ones who have performed so-called miracles in the controlling of elements could not have done those things if they had not understood the language of feeling and realized that every living thing also possessed the same awareness. Intuition in man, instinct in animal, affinity and attraction of atoms in matter are all evidence of the cosmic language. Every smallest frequency in the whole system is a word spoken by the voice of consciousness and when man has alerted his mortal sense mind to the place where it becomes aware of even the slightest motion of energy he will have torn away the veil of mystery that separates himself from the Cosmic Halls of Wisdom.

175 元素群を制御する中でいわゆる奇跡を演じた偉大なる者達は、もしフィーリングの言葉を理解せず、あらゆる生けるものもまた同じ知覚を有していることを自覚していなければ、そのようなことを成し遂げられはしなかったでしょう。人間における直観、動物における本能、物質における原子の親和性と引力は全て宇宙的な言語の存在の証です。全体体系の個々の最小の周波数は意識の声によって語られた言葉であり、人が自らの死すべき感覚心をほんのわずかな動きのエネルギーにも気付ける場所に注意を喚起する時、人は自分自身を宇宙的な智恵の感覚から切り離して来た神秘のベールを引き裂いていることでしょう。

【解説】

偉大な業績を残した人達は皆、直感やヒラメキから発見のヒントを得ています。その直感こそが本章で説く宇宙の言語、宇宙意識の声を聞いた状態を指している訳です。これを動物で言えば本能、植物では自然の息吹とでも表現されているものです。

結局、私達が向き合わなければならないのは、こうした目に見えない印象波に対し積極的に心を解放し、次々にやって来る印象を自身に取り入れること、共鳴同調することかと考えます。

この心境を維持し、心を拡げることによって新しい展開が皆さまの前に展開して行くことは間違いありません。一つ一つの原子分子から個々の生きものに至るまで、印象の交流によって互いに理解が進むのです。

16 THE CHEMICAL UNIVERSE

176 There is nothing in this world that does not speak the universal language and reveal the secrets of the Cosmos if we are alerted to the frequency of that which we observe. It is through this small world of ours that we can gain our understanding of the cosmos, and such knowledge can come through unceasing research regarding the elements which compose our earth, atmosphere, and the various forms upon the earth.

第16章 化学的な宇宙

176 私達が観察するものの周波数に私達が鋭敏であれば、この世界で宇宙普遍の言語を語り、宇宙の神秘を明かさないものは何一つありません。私達が宇宙の理解を得ることが出来るのはこの私達の極微の世界を通じてであり、こうした知識は私達の大地や大気、そして地上における様々な形あるものを構成する元素に関して絶え間ない研究を通じてもたらされることが出来るのです。

【解説】

私達はこれまで、生物と無生物とに分けて来ました。目の前で動くもの、形を変えるものを生きものとし、他のものには心も無く意思もないとして来ました。しかし、本項では地球を構成するあらゆるものは宇宙の言語を語り、私達の問いかけに宇宙の知識を教えて呉れる存在だと説いています。

その根本は万物の微細な構成要素である分子・原子が実は驚くべき知性を有しており、その源は宇宙に繋がっていることにあります。私達には未だ十分に理解できてはおりませんが、宇宙にはくまなく調和した波動が流れており、私達はその中でこれら各々の微細要素からの働きかけを受けることで、進化して行くことが出来るという訳です。万象ことごとくに神を観る心境はこうして生まれたと思われま

ご連絡 [2020-12-25]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。
少し早いですが、来週から年末年始のお休みに入ります。
次回、更新は年明け、1月5日（火）になる予定です。

コロナの動向が気になるところですが、皆さまご自愛の上、良いお年をお迎えください。

2020年12月25日

竹島 正

177 The Cosmos is ever active, constantly changing, and regardless of how little interest the average layman has in scientific subjects there is not one individual in the world who is not conscious of that ceaseless activity which is going on about him every moment. The growth of flowers and trees, the falling of rain and snow, the evaporation of liquids, the expansion of metals under the influence of heat and their contraction under cold, the fermentation of vegetable matter, the oxidation of minerals, the perpetual construction and disintegration of forms cannot possibly escape the attention of even the least observant of men. If we were to carefully gather all the gases that rise from a burning log and the ashes that were left after the fire had done its work we would find that nothing had been lost in the process of transmutation. There is no such thing as total destruction. The religionist looks more or less indifferently upon all of this changing phenomena, labels it the "work of God" and accepts at its surface value but the men of science have gone beyond the surface and uncovered the interesting and illuminating fact that life as a whole is the effect of an eternal process of chemicalization and that in the knowledge of Cause chemistry lies the victory over life and death, creation and recreation, joy and pain. The universe is nothing more or less than an immense chemical laboratory in which elements are combining constantly to produce the innumerable forms of expression or manifestation. The water, fire, earth, air, and the inconceivably fine ethers above the atmosphere of the earth are all chemical compositions. Light and darkness, love and fear are all chemical reactions.

177 宇宙は永久に活動的であり、常に変化し、平均的な通常人が科学的課題に対して如何にわずかしか関心を持たなかったとしても、自分について毎瞬起こっている休むことのない活動について意識しない者は、この世界に誰一人居ません。花々や木々の生長、雨や雪の落下、液体の蒸発、熱の影響下の金属の膨張や寒さの中でのそれらの収縮、植物性物質の発酵、形あるものの永久的な形成と分解は皆、どんな鈍感な観察者の注目をも見逃されることはあり得ません。もし、私達が燃える丸太から立ち上る気体を全て集め、火がその仕事を終えた後に残った灰を注意深く集まるなら、私達はその変質過程において何一つ失われたものが無いことに気付くでしょう。完全な破壊というようなものは存在しないのです。宗教家はこの変化の現象の全てを多少とも無関心に眺め、それを「神の御業」とレッテルを貼り、表層的な価値を受け入れますが、科学に根ざす人はその表層を越えて、全体としての生命は化学作用の永遠なる過程の結果であることや宇宙的化学の知識の中に生死や創造と再生、喜びと苦痛を超えた勝利があるという興味深く啓発的な事実を発見して来ました。宇宙空間とは諸元素が無数の表現の形あるものや現出物を常に結合させている巨大な化学実験室以外の何物でもありません。水、火、土、空気そして地上の大気の上にある思いもよらない微細はエーテル体等、全ては化学的化合物です。光と闇、愛と恐怖も皆、化学反応なのです。

【解説】

私達がどのような世界に生きているかを本項では私達に分かりやすく例を揚げながら著者は説明して呉れています。とかく私達は自らの迷う心の影響を受け、せつかくの恵まれた環境には目を呉れず、習慣的な想念習慣を送りがちですが、それは大変もったいないことです。

私達が少しでも周囲の自然の諸活動に気付くなら私達は実は壮大な活動の一員として生きていること、また生死の繰り返しの中、万物と混じり合って成長して行く道筋にあることが分かります。

とりわけ著者が指摘していることは、私達はもっと身近な自然を観察、研究して自然の中の諸元素の働きを学ぶべきであることです。最近も人体を巡るNHKのテレビ番組がありましたが、様々な細胞が互いに呼応し合って各自の人体を維持して呉れていることが良く分かる内容でした。それを観て思ったのは、私達はもっと自分自身の身体、各細胞に感謝しなければならないということです。まさに「ご自愛下さい」ということです。

178 Even our thoughts are of chemical composition. We are well aware that our bodies are composed of numerous chemicals; we are also aware that our bodies will not act except when permeated with a conscious thought. When a man is in a state of unconsciousness his body is inactive. It is true that the organs of the body continue to function due to the slight chemical reaction which takes place between the composing cells of the structure but even this will not continue indefinitely. The movement of any body will not take place without a chemical reaction of the elements composing the body, for it takes chemical reaction to produce energy. Potential force exists as the Father-Mother Chemical within each atom of matter but it is the reaction of these elements that produces what is known as kinetic energy which is necessary to the service of any form-action. Only another chemical will produce chemical reaction and the fact that thought is necessary to the action of the body means, then, that thought itself is chemical. For instance, when a person is in a peaceful state of mind he can partake of food and his body will assimilate the minerals without the least opposing reaction, but eat a good meal and then take into the body a highly concentrated thought of hatred or fear - the reaction of the chemicals will very soon demand either the doctor or a good dose of bicarbonate of soda. Fear, hate, selfishness, envy, etc., are elements which produce violent reactions when incorporated with the chemical contents of the body. A fit of anger, which is nothing more or less than a chemical combustion, will tear down the body structure to a surprising degree and produce what is known as pain. If the scientist in his laboratory combines certain elements according to the law of affinity and produces a harmonious result he is rewarded, but if he mixes the wrong chemicals he may blow himself to bits. Just as logs placed upon a fire serve their purpose and their elements are changed but not destroyed, the original elements of any form are eternal. A place where water has been may become dry but the hydrogen and oxygen which compose the liquid go on forever and may at any time return into form. It is the action and reaction of chemicals that produce the personality which consequently must be ever changing, but the soul which is the sum total of the original elements remains forever the same - indestructible and eternal.

178 私達の想念さえも化学的組成物です。私達は私達の身体が無数の化学物質から構成されていることを良く知っていますし、私達の身体が意識的想念で染み込まない限り、行動しようとしなくても気付いています。人が無意識の状態にある時、その身体は不活発です。それでも身体の諸器官は構造を構成する細胞間で生じるわずかな化学反応により機能を継続することは確かですが、これさえも無期限に続くことはありません。如何なる身体の運動も身体を構成する諸元素の化学反応抜きに起こることはありません。何故ならエネルギーを作り出す為には化学反応が必要だからです。各物質の原子の中には父母性の化学としての潜在力が存在しますが、如何なる形式の活動奉仕にせよ必要な動的エネルギーとして知られるものを作り出すのはこれら諸元素の反応なのです。唯一、別の化学物質が化学反応を作り出し、身体の行動に想念が必要だという事実は、想念自体が化学物質であることを意味します。例えば、人が平安な心の状態に在る時、人は食物を摂取し、その身体はわずかの反対する反応もないまま鉱物を同化するでしょうが、良質な料理を食べ、その後、憎悪或いは恐怖で高濃度に集中した想念に身体を置いた場合、化学物質の反応は直ちに医者やかなりな量の重曹を必要とさせることでしょう。恐れ、憎しみ、我がまま、妬みその他は身体の化学成分に一体化した暴力的反応を作り出します。怒りの発作は化学的燃焼以外の何物でもなく、身体の構造を驚く程、引き裂きますし、痛みとして知られるものを作り出します。もし、実験室内の科学者が親和の法則に従ってある種の元素を組み合わせ、調和的成果を作り出せば報われますが、誤った化学物質を混ぜれば、自分自身を粉々に吹き飛ばすことになるかも知れません。火に置かれた丸太がその目的を果たすように、それらの元素は変化を受けますが、破壊はされず、如何なるものも元の元素は永遠です。水が有った所は乾くかも知れませんが、水を構成する水素や酸素は永遠に継続し、いつかは再び形あるものに戻って来ることでしょう。常に変化し続けることになる個性を作り出すのは化学物質の作用であり、反応ですが、元来の元素の全体合計である魂は永遠に同じまま、破壊されることなく、永続するのです。

【解説】

最近では精神科で、様々な薬が辛さを訴える患者に処方されるようになったと聞いています。自律神経失調症その他の患者に対して精神作用に影響を与える薬剤物質が当座の対症療法として使われているのです。実は、このように私達の精神面についても化学物質が影響を及ぼしているのです。

私達の身体細胞は各々の意思を化学物質を分泌することで遠い場所の細胞に伝えていることを以前、NHKの番組で放送しておりました。細胞内の代謝も含め、あらゆる栄養成分が分解する過程でエネルギーを生み出し、そのエネルギーが身体の活動を支えていることも分かって来ました。

このように私達はある意味、精神と物質の区別がなく、相互に融合した仕組みの中に生きている訳で、お互い関連しあった世界に暮らしているということでしょう。

17 ANCIENT WISDOM OR MODERN PROGRESS?

179 There is some strange characteristic of the human mind that seems to find a great satisfaction in glorifying the past. The Oriental has expressed this characteristic in his ancestor worship; the Occidental has always had its hero-worship for deceased greatness; the patriarch of all nationalities sits back in his easy chair and reminisces on "the good old days." Perhaps it is that time assuages the actual realities of the past and leaves only the colorful pictures of self-created images. Perhaps it is that distant fields look greener on which ever side of us they lie, but, in any case, we find so many people living in the past that we wonder what good the present is doing at the present time.

第17章 古代の知恵か現代の進歩か

179 人間の心には過去を賛美することに非常に満足を感じるような何か奇妙な性質があります。東洋では自分の祖先を崇拝することにこの特徴が表わされていますし、西洋では死去した偉人に対し常に英雄崇拜があります。全ての国の民族において長老はその安楽椅子に背を寄りかけて「古き良き時代」の思い出にふけています。おそらくは時間が過去の実際の現実を和らげ、自ら作り上げた華やかな映像のみを残しているということでしょう。おそらくは何処にあらうと、遠くの畑は緑がより深く見えるでしょう。しかし、いずれの場合も私達はあまりに多くの人々が過去に生きている為、私達は現代が何か良いことを成していないか不思議に思ってしまう程です。

【解説】

人間年を取ると若い昔の日々を懐かしく思い出すものです。また、その延長から各々の祖先の時代が今より優れていたとも思いがちです。

しかし、本章で著者はそうではないと私達を諭していることに改めて注目すべきでしょう。少し歴史を調べれば、私達の過去は戦争や策略、暴力等、どれも最低なレベルの人間の活動で満ちていることが分かります。それらを乗り越え到達したのが今日であり、またこれまでの科学技術の進歩の恩恵を現代の私達が受けていることを忘れてはなりません。

もちろん純粋な心情等、古代の人々に学ぶことは大いにある訳で、古典を学ぶことは大切ですが、現代の私達はこうした古代の人々以上に大きな影響力を有しており、その行動が惑星全体に与える影響は比較にならない程大きくなっていることを自覚しなければなりません。

180 Among many religious groups, and particularly those of an occult nature, we hear much about the great wisdom of the ancients. "If you expect to evolve to a state of masterful action," we are told, "you must go back and study the teachings of the old." It sounds a little twisted, doesn't it? To evolve we must go back! But why? Evolution is an expansion, a growth. Does the tree in its process of attaining maturity grow backwards into the roots? If it did I am sure we would never taste its fruits.

I suppose no man ever appreciates the thing that he has in his hand, and while it is right that he should reach out for something new let it be an advancement, not a retrogression. Why dig up the peaceful past - it has served its purpose. It brought us to the present day - let it rest. The works of the past cannot serve us now and so far as the laws of the past are concerned we are now using them, for there is in the whole cosmos only one principle of action. It is used in the billions of varying manifestations but itself never changes. The only way in which we can prove the principle is by the effects produced and surely we are producing effects on a much vaster scale than did the ancients. In those days if a man discovered something of use to humanity he was considered divine and his revelation a miracle. Today we have a new invention almost daily and think nothing of it.

180 多くの宗教グループの中で、とりわけ魔術的性質を持つものの中であって、私達は古代人達の偉大な知恵について多くを聞かされます。「もしマスターの行動状態にまで進歩したいと思うなら、立ち戻って昔の教えを学ばなければならない」と教えられます。しかし、それは少しねじれた考えではないでしょうか。進歩する為に立ち戻る必要があるなどということがです。しかし何故でしょう。進化は拡大であり成長です。成熟を達成する過程にある樹木が根の中に向かって下に伸びるのでしょうか。もし、そうなら私達はその果実を味わうことは出来なくなることは確かです。私は誰も自分が手にしているものを享受していないのではないかと、また何か新しいことに手を伸ばすことが正しい時には進歩があるべきで、退化することはありません。何故平穩になっている過去を掘り起こすのでしょうか。それはその目的を務め終わっているのです。それは私達を今日にもたらしたのであり、休ませましょう。過去の業は今日の私達に仕えることは出来ず、過去の法則に限って、私達はそれらを用います。何故なら全宇宙の中には唯一つの行動原理しか存在し得ないからです。何十億もの異なる創造物に用いられていますが、それ自体は決して変化しません。私達がその法則を証明できる唯一の方法は、作り出された結果によってであり、確かに私達は古代人が成したより、はるかに広いスケールで結果を作り上げています。当時、もし人が人類に有用な何物かを発見したとすれば、その者は聖なる者であり、その者の発見は奇跡と見なされました。今日、私達は毎日のように新しい発見をしますが、それについては何ほども考えはしません。

【解説】

最近読んだ本の中に、かつて日本に遠く中東の地からユダヤの民族が日本に渡来し、古代日本の礎を創ったこと、また依然として各地にその遺跡と思われる事物が残っているとするものがありました。それら古代の文明について知ることは興味深いものですが、その古代の知識が今日私達が抱えている課題解決にどれほどの役割を果たすのかは疑問であると著者は説いています。それほどに私達地球人の過去は問題の積み重ねであったのです。

私達の地球には過去何万年もの人類の歴史があり、それらのほとんどが何らかの問題で滅亡してしまった訳で、現代私達の問題の解決をそれら古代文明に頼るべきではないのです。

著者は私達に過去に学ぶことよりも、未来に向かって必要な訓練を行うことを求めています。現代の私達が学ぶべきは、宇宙始原の昔から変わることなく続いている宇宙的法則を学び、取り入れて成長して行く道を指向すべきと説いています。

181 "We have not yet been able to discover the whole greatness of the Ancient Wisdom," we are told. Well that may be true, but I dare say if a few of the ancients suddenly found themselves in one of our big cities today they would stand aghast at the miraculous works of our people. They would probably assume that they had reached some World reserved for especially advanced minds, and after having lived here for a while and trying to adjust themselves to our present understanding would decide that they were not of the elect and must have stumbled into this amazing place by mistake.

181 「私達はまだ古代の知恵の偉大さの全容について発見し得ていないのだ」と私達は告げられて来ました。それは真実かも知れませんが、敢えて言えば古代人の何人かが突如、今日の大都会の一つに身を置いたとすれば、彼らは私達の人々の奇跡的な業に驚嘆して立ち尽くすでしょうと言いたいものです。彼らはおそらく自分達が特に進化した心の持ち主のために用意されていた世界に到着したと思い込みますが、しばらくここで暮らした後に、自分達自身を私達の今日の理解に適合させた後は、彼らは自分達が選ばれたのではなく、誤ってこの驚くべき場所に転がり込んでしまったと判断することでしょう。

【解説】

確かに古代の人々と現代の私達とはその持つ能力分野に違いがあることも考えられます。しかし、双方の文明を比較すれば総じて現代文明の方が古代のものより優れていると言うべきでしょう。それは即ち、その間の長い時間の中で私達の祖先が紆余曲折があったにせよ、少しずつ前に進んで来たからに外なりません。

そういう意味では私達は現在をその立ち位置として、自ら新しい進化の道に一步を踏み出すべきで、いたずらに古代の人々の霊力を羨んではならないのです。また、ここで重要になるのは、私達には他惑星文明という優れた手本が存在するという事です。彼ら他惑星人の助言や本講座のような教えをしっかりと受け止めて、日常生活に実線することで、私達は古代の知恵を当てにすることなく、新しい宇宙時代に生きて行くことが出来るのです。

182 Why should we base our life of today upon ancient philosophies? Should we enjoy going back to the ox-cart? I am sure that a great percentage of the population of the world would starve with only ox-cart transportation. Some of our so-called spiritual students are starving on the meager supply of mental food that is carried to them on the slow-moving vehicle of ancient myth and ritual. We are moving faster than we have ever done and we are compelled to keep up with our existing state of progress. Our mental expansion must coincide with and support our mechanical progress. Those who live too much in the past ask why we are rushing and where we are going; may I answer in this way, we do not need the aimless rushing but we must keep pace with the fast moving events of life.

182 何故、私達は今日の私達の生活を古代の哲学の上に基礎づけるべきなのでしょう。私達は牛車に立ち戻ることを楽しむべきなのでしょう。私は世界の人口の大部分が牛車の輸送によっていては餓死してしまうことを確信しています。私達のいわゆる霊的学徒はゆっくり動く太古の神話と儀式の乗り物に乗って来る精神的食料の貧弱な供給に対し飢えています。私達はこれまで成したよりも速く動いており、私達は現在ある進歩に追いつかざるを得ないのです。私達の精神的拡大は私達の精神的進化に呼応し、それを支えなければなりません。過去に対し、余りにも多くを生きている者達は、何故私達が走っているのか、何処に私達が行こうとしているかを問います。それに対して私はこのように答えても良いのでしょうか。私達は無目的に急ぐ必要はありませんが、生命のすばやく動く出来事にペースを合わせ続ける必要がありますと。

【解説】

よく時代の変化という言葉を使います。かつて農業主体の生活の時代は、冬は家の中の仕事、春夏は明るい間は野良仕事と、決まって日課を送っていた筈です。しかし、今日では季節や日夜に関係なく、社会は活動し、世界各地との取引等、昼夜の時刻の区別さえ無くなっています。

こうした中で、独り哲学だけが古代の教えから進歩していないと著者は指摘しているのです。確かに古典は私達の思想の基盤ではありますが、現実の私達の生活はそれら古典の生まれた前提となる時代を遥かに越えており、私達の心境を現実にマッチしたものとしなければなりません。そうでなければ、進む科学技術に追いつけない古めかしい精神とのギャップが大きくなり、結局は私達が精神面で何も持たない存在となると懸念している訳です。

本項で著者は今後、急速に進展する科学技術に対応した新しい精神性の確保の重要性について私達に説いているのです。

183 There are those who prophesy that this civilization is nearing its destruction because of its lack of wisdom. Well perhaps, but what would it profit us to go back and study the wisdom of the ancients? You could say that the ancient civilizations did not heed the words of wisdom that were given to them, and that is true. Lemuria, Atlantea, Egypt and Rome, were all great civilizations and they are gone. This is a new day with new problems and the door to the Cosmic Storehouse of Wisdom and Knowledge is wide open for each individual to enter. Our present problem is to maintain our balance; living in the world of effects and understanding causes.

183 この文明は知恵の不足から破滅に近づいていると予言する者達があります。たぶんそうかも知れませんが、しかし、私達が立ち帰って古代人の知恵を学んだからといって、私達に何の利益があるでしょう。貴方は古代の文明は与えられた知恵の言葉を心に留めなかったとも言えるでしょうし、それは確かです。レムリア、アトランティス、エジプトそしてローマは皆、大いなる文明でした。そしてそれらは過ぎ去ったのです。新しい日には新たな諸問題があり、英知の宇宙的倉庫への扉は入る人、一人一人に対し広く開いています。私達の現在の問題は私達のバランスを保つことです。結果の世界に生きながら、因を理解することです。

【解説】

様々な古代の文明を考える時、結局それらは各々根本的な問題、誤りの為に滅びてしまったということではないでしょうか。また、それは私達を取り巻く自然がこの間、永続して来たのと対照的であることに私達は気付かなければなりません。

私達にとって大事なことは、現在の私達に修正が必要なこと、進むべき道を明らかにすることであり、それらの問題解決を古代文明に求めても答えを得ることはないということです。私達には私達の問題解決の道があるからです。

そこで重要なのは宇宙における自然の諸活動でしょう。これらは人間の文明とは異なり、断絶ということはありません。宇宙の因に従っている自然の営みの中に私達は自分の立ち位置を置き、そこから来るインスピレーションを大切に生きて行く必要があるのです。

184 The Hindus have a saying to the effect that the more wood you pile on the campfire at night the greater becomes the illumination but greater also becomes the circle of surrounding darkness. Our present wisdom like the light of the campfire is great and the more we learn the greater becomes our scope of perception regarding the possibilities we have not yet deciphered. The more knowledge we acquire the more we know how much there is yet to learn. Our field of perception has become so vast that the encircling darkness is almost appalling but the very fact that we have such a vast perception of unproven things means that they shall one day be proven. We have had the perception of ships traveling through space to other planets and that day is not too far in the distance when this becomes a reality just as jets and airplanes are now a common means of conveyance.

184 ヒンドゥ教には要約すると、夜キャンプファイアにマキを積み上げる程、その輝きは増すが、周囲の暗闇の輪もまた大きくなるという格言があります。そのキャンプファイアの光のような私達の現在の知恵も大きなものですが、私達が更に学ぶ程に、私達がこれまで解読して来なかった可能性について私達の展望はより大きくなります。私達が身に付ける知識が多くなる程、私達はこれから学ぶべきことが如何に多いかを知るのです。私達の知覚分野がそれ程に広がると、取り巻く暗黒はぞっとする程のものとなりますが、私達がこのような広大な未検証の物事を知覚していることは、それがいつの日にか証明されることを意味しています。私達は宇宙空間を他の惑星に向けて航行する宇宙船を知覚したことがありますし、今日ジェット機や飛行機が皆の輸送手段であるのとまさに同様に事実になる日は遠く離れたものではありません。

【解説】

同様のことは夜空の星々を望遠鏡で覗く時に体験します。肉眼では星が少ししか見えなくても、望遠鏡を使うとそこには驚く数の星々が見えて来ます。更に大型の望遠鏡ではその何百倍もの星々が今まで何も無かった夜空に見える筈です。

また、同様なことは極微の世界でも言えることです。顕微鏡を用いればその倍率に応じて肉眼では見えなかった微小世界が眼前に拡がることでしょう。

このように私達はこれまでの肉体の持つ感覚器官を越えた世界を知覚できるようになれば私達自身は実際には大変美しく調和した世界に暮らしていることが分かる筈です。そして今まさに進行しつつある宇宙時代には、これまでの地球人類が体験したことのない新しい心境の下、宇宙の一員として新しい一歩を踏みしめることになるのです。

185 We hear a great deal about the alchemists of the early days - Paracelsus, for instance, who was supposed to have transmuted baser metals into gold. "Miraculous!" the people say. Our scientists of today are able to produce gold from other substances; but the process is too costly to be of practical use.

185 私達は古代の錬金術師達についてとても多くのことを聞いています。例えばパラケルススは卑金属を金に変えたとされています。人々は「奇跡的だ」と言います。今日の私達の科学者達も他の物質から金を作り出すことが出来ますが、その方法は実用的使用にはあまりに費用がかかるのです。

【解説】

西洋における錬金術について詳しくは知りませんが、鉛を輝く金属に変えて見せたということでしょう。その他、化学的知識により還元作用等を操作して酸化物から元の金属に変化させたりしたものと思われれます。

しかし、これらも中身が解明されれば、そこに神秘的な要素は無くなり、誰でも何処でも再現できるものとなる筈です。当時はこれらの現象を魔術として神秘化して来ましたが、原理が理解されれば、誰もが実現できる一般的な知識になるものです。私達はこれら古代から神秘と伝えられているものと現代の科学で解明し、宇宙的視野の下で理解する必要があるのです。

186 The priests of the ancients were the only scientists of that day and whatever they achieved was used for selfish purposes of dominating character. It is said that they could prepare chemical substances which when used as incense would put an individual into a trance state, but what benefit was actually derived from such practice? No doubt there was quite a bit of benefit to the priests, for while their subjects were under such a spell they could be very easily relieved of all of their possessions and the act laid at the door of the most convenient gods.

186 古代の僧侶達は唯一の科学者でしたし、彼らが何を達成したにせよ、それは支配的性格の利己的な目的に用いられたのです。彼らは香料として用いられると個人を恍惚状態に陥れる化学物質を調製することが出来たと言われています。このような行為で何の恩恵が得られたのでしょうか。無論、僧侶には大変大きな恩恵がありました。何故なら彼らの臣民はこのような魅惑の下、容易に自分達の持ち物全てを捨て去り、僧侶達にとって最も都合が良い神の扉に対して行動したからです。

【解説】

宗教団体がそこに救いを求めて集まる信者から金品を取り上げることは、よくあることです。ましてや古代においては本項で述べられているようなことがまかり通っていたことでしょう。

迷える求道者を餌食とする輩が現代も多いことは事実であり、私達は超能力者や催眠術その他の神秘には近づくべきではありません。

実はこのUFO分野も同様であり、アダムスキー哲学を標榜しながらも、他惑星人を霊的な存在であるとして、神秘の分野に導入しようとする勢力もあるように思われます。そういう意味からも私達は常に正しいものと誤った方向に導こうとするものを峻別する注意力を必要とする訳で、いたずらに神秘体験を求めてはならないのです。

187 Today our chemists make practical use of their knowledge. They produce new metals to meet the needs of increasing mechanical achievements and are harnessing the forces of nature to facilitate the turning of the wheels of progress. They whom the religionists have called godless men are today becoming the masters of the elements by acknowledging that One Principle governs all things.

187 今日では我々の化学者達は自分達の知識を実用的な用途に用いています。彼らは機械的性能を高める必要性に応える為、新しい金属類を作り出していますし、進歩の歯車の回転を促進させる為、自然の諸力を利用しています。彼らは宗教主義者からは神を否定する者達と呼ばれている一方で、唯一の法則が万物を支配することを自覚することによって、今日、諸元素の支配者になりつつあります。

【解説】

本項で著者が示唆しているのは、例えば製鉄所で鋼（ハガネ）やステンレスその他用途に沿った各々の特性を備えた「鉄」を製造する過程で様々な元素化合物が溶融され、一定の品質の製品が大量に生産される過程をも示唆するものと思われます。まさに今日の私達はこうした技術者・科学者のお蔭で快適な暮らしを享受しているのです。

そこには同じ条件には必ず同じ反応が生じるという普遍的な法則があり、技術者・科学者達はこのことを良く認識した上で法則の中で有用なものを見出そうと努めている訳です。

一方、宗教主義者は進むべき方向性は示せるにしても、具体的な手段を提示することは出来ません。現実世界を探求しようとはしない為、具体的な進歩に役立つことは少ないとも言えるでしょう。私達に必要なことは自然への向き合い方、自然法則から学ぶことだと著者は説いているのです。

188 We are expecting an era of brotherhood among men of this earth and it is science that is making the greatest strides towards this accomplishment by unveiling the actual laws of action. Science is working under the law of relativity while religion is working under the law of divisions. The work of scientific research carries one into such a vast conception of the universe that there is no room for egotism, bigotry, fanaticism or intolerance. The individuals who really study creation are so absorbed in its unlimited activity that they become indiscriminating. They regard all men, whether they be black or white, as brothers and grant them the right to believe according to their ability to understand. They are not bound by the limited concepts of cast or creed or dogma but are always open to new revelations. They do not allow even the human form, itself, to block their path of research in the field of knowledge, for they are willing to sacrifice their own bodies for the benefit of other researchers and mankind as a whole.

188 私達はこの地球上の人々の間に兄弟愛の時代が来ることを予想しており、行動の実際の法則を明らかにすることによって、この達成に向けて大きな歩幅を成しているのは科学なのです。宗教が分裂の法則の下に作用しているのに対して、科学は相関性の法則の下に作用しています。科学的探究の作用は人を広大な宇宙の概念に連れ行き、自分本位や頑固さ、熱狂や偏狭の余地はありません。創造を本当に学んでいる各個人はその無限なる活動に没頭するあまり、その者達には差別が無くなります。彼らは全ての人間が黒人であれ白人であれ、兄弟であると見ますし、それらの理解力に応じて、彼らを容認します。彼らは階層や信条、或いは教義の限られた想念に制約されることなく、常に新しい発見の受け入れに寛容であり、率直です。彼らは人体でさえも知識の分野の研究を妨げることはさせません。何故なら、彼らは進んで自らの肉体を他の研究者や人類全体の利益の為に捧げるからです。

【解説】

本項を読んでつくづく感じることは、宗教は問題を解決しないということです。中東における長年の争いは各々の宗教や宗派の争いを反映しているように思いますし、他者の考えを受け入れられない、尊重しないことに由来があるように思います。

このように古代から互いに征服を繰り返して来た私達地球人が犯して来た業（カルマ）が今日の問題となって現れているのです。

著者はこのような問題に対して、私達の科学への探求心、宇宙の真理、法則への研究姿勢が唯一問題を解決するカギであると説いているのです。これまでの差別偏見を消滅させる為に、改めて他者への奉仕、宇宙普遍の法則に対する親しみと信頼こそ、その基礎であるとなるからです。

189 Science has progressed very rapidly in the last few years. Now, with the aid of fine instruments, the I.G.Y. research and the satellites, the scientists are able to delve deeper and deeper into the realms of Cause. They are beginning to understand and use Nature's Creative Mathematics; which is, one and one equals three. Old accepted theories are being replaced with more factual knowledge as the field of research broadens.

189 過去数年の間に科学は急速に発展しました。今や精密な装置やI.G.Y.(訳注：国際地球観測年)での研究、そして人工衛星のお蔭で、科学者達は宇宙の領域の奥深くまで掘り下げることが出来るようになりました。彼らは自然の創造的数学を学び始めています。その創造的数学とは $1 + 1 = 3$ というものです。古くから容認されて来た諸理論は研究分野が広がるにつれて、より事実に基づく知識に置き換えられています。

【解説】

本項で著者が言う「国際地球観測年 (IGY)」は、現代の私達が考える以上に私達にとって意義あるものであったようです。；1957年～1958年の18ヶ月に渡って世界⁶⁴ヶ国が気象や地磁気、太陽活動その他計10を越える様々な分野の観測と調査が行われたのです。

その成果の中には、人工衛星の打ち上げ、バン・アレン帯の発見があり、日本では南極の昭和基地の設営と観測等が揚げられます。こうした世界中の国々が協力して宇宙の探査、地球の探求を目指した画期的なプロジェクトであった訳です。

こうした中で著者は科学者達は創造的数学、 $1 + 1 = 3$ を理解しはじめたと説明しています。人と人が協力する中で両者を加えた以上の成果が得られることを科学者達は身をもって体験した筈だと述べているように思われます。

190 We can say that scientific research is allowing the people of the world to have a closer view of Cosmic Reality.
190 私達は科学的研究が世界の人々に宇宙の現実性についてより綿密な見識を与えているとすることが出来ます。

【解説】

本項は短い文章ですが、著者が訴えたいのは従来の宗教や哲学というものが果たしてこれまで人類の進歩に役立って来たかという問いでしょう。もちろん各宗教の源となったイエスや仏陀その他の聖人を指して述べているのではありません。教団が民衆の支持を得て巨大化し、組織拡大の過程において真理に対する本来の自由な探求心が抑制され、金品を民衆から集約し、囲い込むだけの組織に成り下がってしまう例が多いことを暗に指摘しているのではないのでしょうか。

その一方、科学は一步一步内容を検証しながら、着実に成果を出しており、人々の暮らしの向上に役立って来ました。私達は常に宇宙の探求者であり、創造主の作品世界を知り学ぶ存在であることが最も重要です。それが万物の最高位の創造物である人間の唯一の務めであるからだと著者は訴えているように思うのです。

191 The science that we speak of here has reference to the abstract scientists who work from cause to effect; not the dogmatic orthodox ones who refuse to see beyond the effective world.

191 ここで私達が言う科学とは、因から結果へと研究する理論科学者に関連して述べており、結果の世界の先を見ることを拒否する教条的な正統派を指すものではありません。

【解説】

ここで著者は私達に有用な見識を与える科学者とは、結果の世界のみに生きている独善的な者を指すのではなく、因の世界や結果から因の法則を探求するような抽象・理論の科学者を指していることに言及しています。

その中には素粒子世界から物質の本質を探る研究から、生命の本質について思考する研究者を示唆するものと思われます。

また、このことは私達自身も日々の暮らしの中で気づく想念波動の効果や季節の移り変わりの中に見る生命の息吹、因の領域に属するような活動や波動について探求する中で、こうした真の科学者になって行くことにもつながることをも意味しています。

192 Perhaps I should explain why one and one equals three in Nature's Creative Mathematics. When a positive and a negative get together there is a manifestation; in electricity it is light, with male and female it is an offspring and so it is with all nature. In order to understand a manifested effect the conditions that caused it to be must be understood.

192 おそらくは、ここで自然の創造的数学においては、 $1 + 1 = 3$ になるかを説明すべきでしょう。陽と陰は結合した時、創造の現出が起こるのです。電気においては光、男性と女性の場合は子孫です。自然全てについて同様です。現出した結果を理解する為には、それをもたらした諸条件が理解されねばなりません。

【解説】

第17章の最後、まとめの言葉として述べられている本項は、創造的作用の本質について説かれているものです。陰と陽、プラスとマイナス等々、異なる性質を持つもの同士が結びつく中で共同して物事を達成しようとする時、そこには両者を足し合わせた以上の成果、創造的作用が生まれると説かれているのです。

私達は各々異なる背景、履歴経験を持っており、各々意見も異なるものです。しかし、各々が連携し合う中で、両者の能力を足し合わせた以上のものが生まれるということでしょう。

私自身の仕事の分野の話で恐縮ですが、下水（排水）処理の技術に微生物処理法があります。その微生物の環境を酸素の無い「嫌気」状態と酸素のある「好気」状態を連続的に交互に繰り返す中で、従来除去が難しかった窒素やりの成分も除去出来る方法が用いられるようになって来ました。これも異なる要素を組み合わせる中で微生物にそのような高度な処理能力を持たせるもので、本項に似た内容かと考えています。

18 PAST CIVILIZATIONS

193 I have recently reread the accounts of Lemuria and the Triterian race, and will give them to you for whatever points of interest you may find in them. My friends from other planets have told me that many of the people living on their planet at present have lived upon the earth.

第18章 過去の諸文明

193 最近、私はレムリアとトリテリア族の記事を読み返した所なので、貴方が興味がありそうな点について何なりとお伝えしようと思います。他の惑星からの私の友人達は私に現在、彼らの惑星に住む多くの人達がかつて地球に住んでいたと教えてくれました。

【解説】

本項では大変興味深い事柄が語られています。即ち、アダムスキー氏が会った金星や土星それに火星等の惑星の人々は、いずれも過去に地球に住んでいたことがあるということです。

おそらくは気の遠くなるような昔から地球は文明の興亡を繰り返しており、その過程の中には時として優れた文明が生まれ、他の惑星に移住するようなレベルに到達した人々も居たということかも知れません。

日本にも遠く太古の昔に、神々が暮らしたという言い伝えが古事記等に残っておりますが、そうした人達の中には真に優れた人々も居たということでしょう。

そう考えると、目下、環境や社会、政治等、様々な側面から行き詰まりつつある現代文明も、こうした過去に繰り返されたこの惑星上の文明の興亡の一時期になる可能性もあるように思います。

194 In the cosmic book of memory, often referred to as the Akashic Records, there lies the story of action as it has passed through millenniums of time. The ever-active fingers of consciousness have inscribed upon the Primal Essence of the Cosmos the indisputable and indestructible pattern of all motion and manifestation. The history of man as written upon the tablets of stone or upon parchment or paper is but a limited record of existence and is easily lost to the knowledge of future generations, but the Cosmic Record is a permanent structure and he who is able to read therefrom need have no missing pages in the history of life.

194 しばしばアカシクレコードと称される宇宙の記憶の書の中には、何千年もの時を経る行動の物語が眠っています。常に活動的な意識の指先は宇宙の根本的本質の上に疑問の余地なくまた、破壊されることのない全ての行動と創造の現出のパターンを刻み付けて来ました。石板や羊皮紙あるいは紙に書かれた人間の歴史は存続が限られた記録でしかなく、将来の世代の知識に対して容易に忘れ去られるものですが、その宇宙的記録は永久の構造を持ち、そこから読み取ることが出来る者にとっては、生命の歴史において如何なるページも失われることはありません。

【解説】

本項で著者は、宇宙空間には過去の出来事や人間の行動が全て記憶されていることを私達に説いています。人間の記すものは実際にはかないもので、紙の文書や石板でさえも多くは時の経過とともに散逸、壊れてしまいます。

しかし、著者が指摘するアカシクレコードは永久に保存され、その扉を開く者は過去の文明の記録を読み取れるとしています。あらゆる想念や印象が宇宙に記憶されるという訳です。

現時点で私達はこの記憶の書にアクセス出来てはおりませんが、私達自身が宇宙と一体になり、その記憶の書に辿り着くことが出来れば、あらゆる知識を手にすることが出来ることとなります。地球の過去の歩みを知ることが出来るという訳です。

しかし、これらの能力は決してその能力だけを伸ばしたいとするのは誤りでしょう。様々な能力の高まりの中の一つとして、自然に身に付くものだと考えるべきです。他惑星人が手本を示したように、調和ある発達の中に答えがあるように思うのです。

195 Out of the Book of Memory, which the scriptures tell you shall be opened unto all, we have read the story of Lemuria, that mysterious land which sank beneath the dark waters of the Pacific Ocean.

195 聖書が言う全ての者に開かれるとされる記憶の書から、私達は太平洋の暗い水の下に沈んだ神秘の大陸、レムリアの物語について読んだことがあります。

【解説】

ジェームズ・チャーチワードの「失われた大陸」は日本でもかつてベストセラーになりましたが、著者アダムスキー氏はレムリアこそがこのムー大陸に相当し、かつて太平洋にあった太古の大陸であると示唆しています。

太古の昔の物語は、その痕跡がわずかしか残されていない為に、その真の姿を把握することは容易でなく、とかく神秘が入り込みやすく、また人々を欺く輩も多いものです。しかし、本項で著者が示す「記憶の書」（アカシックレコード）とは、そのようなあいまいなものでなく、具体的に宇宙空間に波動として収められているような記憶のようなものかと思われます。

最近ではパソコンの記憶装置の進化は目覚ましく、小さな装置に数TBもの容量を持つ記憶装置も出回る時代となりました。今後更なる集積も進むものと思われます。宇宙空間への想念の何らかの記憶状況が今後の研究で明らかになれば、本項で著者が示唆する記憶の書についても理解が深まるものと思われます。

196 Lemuria was a vast continent which included most of the islands of the Pacific - Hawaii, the Easter Islands, New Zealand, the Philippines and other smaller island groups. These islands were at one time the highest mountain peaks of the now submerged land. Lemuria was at one time a civilized part of the world; her people were highly cultured and possessed advanced knowledge of cause and effects. They lived not for self but for the All, recognizing each form as the expresser of Cosmic Intelligence. Each individual knew himself as a servant of the universal force. They went about their duties in a peaceful manner without thought of one man being greater than another, or of one piece of work being more important than the rest. No jealousy or greed existed among them - Lemurian land was the home of one happy family where discord was unknown and equality reigned.

196 レムリアは太平洋の島々のほとんど、ハワイ、イースター島、ニュージーランド、フィリピンその他を含む広大な大陸でした。現在のこれらの島々はかつては海に沈んでいる大陸の高い山の頂でありました。レムリアは一時期、世界の中で文明が栄えた地域でした。その人々は高度な教養を持ち、因と結果について進歩した知識を持っていました。彼らは自分の為に生きるのではなく、各々の形あるものが宇宙的知性の表現者であると認識し、全てのものの為に生きていました。各個人は自分自身が宇宙普遍の力に対する下僕であることを知っていました。彼らは自分達の仕事をするに、一人の人間が他の者より優れているとか、一つの仕事が他よりもより重要だとかの考えを持ちませんでした。彼らの間には嫉妬や貪欲は存在しませんでした。レムリア大陸は不協和音を知らず、平等が行き渡る一つの幸せな家族の家であったのです。

【解説】

著者は本項で極めて具体的にレムリア大陸の存在位置について述べています。即ち、ハワイからイースター島、ニュージーランド、フィリピンを含むという訳ですから、実に太平洋の半分ほどを占める巨大な大陸であったこととなります。そして当時の高山の頂が現在のそれら島国として残っているということです。

かつて伝えられたユートピアがその大地にあったということでしょう。その痕跡は今や求めるべくもありませんが、わずかに生き残った子孫たちに伝わる伝説の中に、遠い祖先の記憶が残っているのかも知れません。

こうした古代文明がかつて地球に存在したことは確かなのですが、問題は如何なる経過を経て、滅んでしまったのかにあるでしょう。現代文明の私達も今、様々な問題を抱えており、今後の行く末を危ぶむ声を多いからです。かつて文明の崩壊を深く学ぶことこそが、今の私達に必要なと言わなければなりません。

197 The Lemurians were of the brown race and their average height was about five feet three inches, while here and there a giant would appear. The Alaskans of today resemble them more closely than any other race.

197 レムリア人は褐色人種で、彼らの平均身長は5フィート3インチ（訳注：160cm）である一方、そこに大柄な人物も現れました。今日のアラスカ人が他の如何なる人種よりも似ています。

【解説】

太古のレムリア大陸には今日のアラスカにおける原住民と類似した人々が住んでいたと著者はその背丈を語る等、具体的な内容を語っています。おそらくはアダムスキー氏自身、宇宙の記憶の書（アカシックレコード）を読み取ることが出来たものと思われる。

このように地球には様々な文明の興亡があった訳ですが、大きな地殻変動が起こるたびにその文明は滅んでしまったという訳です。

よく石灰岩で出来ている山がありますが、その石灰岩はかつて海中のサンゴが由来とされており、その山頂はかつては海の底にあったと言わなければなりません。即ち、私達の目には不動のように見える大地も、時が来れば海中に沈み、やがて再び隆起する等、大地は変動する訳です。

こうした悠久の時間を超えて記憶されるが宇宙の記憶の書ということになります。

198 They were a very industrious and active people, highly sensitive and intuitive. They were able to converse with each other through a form of mental telepathy and their actions were mainly guided by the greater intelligence of their being so they were able to obtain marvelous results. They were highly advanced in the science of the cosmos and through their understanding of the laws of action they had a remarkable control over the elements of the earth.

198 彼らはとても勤勉、活発で、高度な感受性を持ち、直観力がある人々でした。彼らは精神的テレパシーの形態を通じて互いに会話することが出来、彼らの行動は彼ら自身の存在のより大いなる知性によってもっぱら導かれていたために、彼らは驚くべき結果を得ることが出来ました。彼らは宇宙の科学において高度に進歩しており、活動の法則の理解を通じて、地球の各元素に対する驚くべきほどの統制を行っていました。

【解説】

失われた太古の文明について、実は現代の私達よりも精神的には大変発達していた民族であったと本項は述べています。実際、著者が宇宙の記憶の書から得た知識でもあり、他惑星人に伝わる地球の歴史の1コマを基に記しているのかも知れません。

いずれにしてもテレパシー能力にも優れたのがレムリアの人達であったようです。即ち、人間が自然や宇宙の摂理を尊重し、それを源泉とするインスピレーションに従う時、調和した社会が実現し、人々と自然との融和が図られるということでしょう。

本文の記述を見ても、如何に現代の私達が自らの欲望と他人との競争に明け暮れ、自らを消耗させているかが分かります。自然の中に創造主の息吹を見出そうとする姿勢が無ければ、殺伐とした社会に陥り、やがては消滅の道を辿ることになると言わなければなりません。

199 Because of their alerted feeling the minerals in the earth were not hidden from them and they made use of all of the elements.

199 彼らの鋭敏なフィーリングの為、地球内部の鉱物は彼らから隠されることなく発見され、彼らはそれら全ての元素を活用しました。

【解説】

地下に眠る鉱物や石油等の資源については、今でも多くは探査、採掘によりその埋蔵を調べる他はないのですが、レムリアにおいてはそれらがいわば人間の透視能力が活用され、効率的に採掘されたということでしょう。

目には見えない状況の中でも、探求する人間の意識を地下深く拡げて行く中で、地中に存在するものも容易に把握することが出来るという訳です。

これらの能力は、多くは人間以外の動植物が生来持っている能力と思われますし、彼らは厳しい自然環境の中でも、その驚くべき能力を発揮して難なく暮らしを立てているものと思われます。遠く何千キロも離れた場所を行き来する渡り鳥その他、これら自然界の生きもの達の驚くべき能力の背景には、このような察知能力が存在している訳で、レムリアの人達もこのような能力を備えていたのです。

200 Their architecture and works of art were magnificent in structure and beauty. Their temples were not so much for worship as they were a monument of beauty dedicated to the All-Power whom they served in their daily actions. For these ancient people needed no temple in which to worship - they recognized the All-Being dwelling in themselves and in every form of life upon the earth. Their idealism in the beginning was the virtue of God which was meant to be expressed in man, and because of this idealism they were bestowed with powers unknown to man today. The Lemurians did not abuse or misuse the laws of nature and while they were building up their empire it was an actual heaven upon earth. But like practically all civilizations they had their downfall in time. Virtue became lost in greed and selfishness, and towards the end of their existence they were no different than the present civilization. At last nature took a hand and sunk the land beneath the waters of the Pacific ocean.

200 彼らお建築と美術作品は構造や美しさにおいて壮麗なものでした。彼らの寺院は彼らが日常行動において仕える全能者に捧げられた美の記念塔であった為、拝礼の為ということではありませんでした。何故ならこれら太古の人々は中に入って拝礼する寺院は必要無かったからです。彼ら自身及び地上のあらゆる生命体の中に全能者が住んでいることを認識していたのです。初期における彼らの理想主義は人間に表現されるべき神の徳目でありましたし、この理想主義により、彼らは今日の人間には知られていない諸々の力を授けられていました。レムリア人達は自然の諸法則を乱用したり誤用することはありませんでしたし、彼らがその王国を建設している間、それは地上における本当の天国でした。しかし、実際には全ての文明と同様、やがて没落の時を迎えました。徳目は利己主義の中に失われ、彼らの存在の終り近くには、彼らは今日の文明と何ら変わりなくなりました。遂には自然は手を挙げてその大陸を太平洋の水の下に沈めたのです。

【解説】

レムリアの初期はかくも美しく優れた文明であったということです。しかし、次第に人間の墮落が進み、最後は現代の地球文明と同様、欲望の末に、創造主の手により、滅ぼされてしまったという訳です。

こうした太古の文明が滅んだことへの人々の記憶は、エデンの園をはじめとする太古のユートピアにおける墮落した人達の物語として私達にわずかに伝わっているだけです。旧約聖書にはノアの箱舟の話がありますが、これも地面が水没する中でノアの家族だけが創造主の導きにより箱舟を建造して生還したということでしょう。

私達にとって重要なことは、私達自身もこれらレムリア等の太古の文明の終末と似た段階にあると著者が示唆していることです。即ち、いつまでも自然や宇宙が地球人の墮落を見過ごすことはなく、遂には地上から一掃されるような地殻変動に私達も近づいていることに留意すべきなのです。

201 The Golden Age of the Lemurians lasted for approximately three thousand years. During this time they were in contact with Egypt and in fact all of the Asiatic countries but it was not until the fourth of the thousand year periods that their country was invaded by self-seeking individuals from other parts of the world. At that time there were people who came from the territory that is now known as Greece and Rome and settled in Lemuria. These people were of the lighter races; they won the confidence of the Lemurians, intermarried with them and gradually perverted the pure thought of the happy people. This foreign element slowly took upon themselves the rulership of Lemuria. They were hard, fearful rulers and greedy for wealth and power. They began to show favoritism and to instill in the minds of the Lemurians the thought of inequality. Where the people had once served each other for the love of action they were now forced to serve to enrich and empower the few. They learned the meaning of rebellion and selfishness and greed - those things which had never before found place among them. They learned to follow the example of their rulers and work for self instead of the All. They closed themselves to the guidance of their creator and turned into the mortal channel of expression.

201 レムリアの黄金時代はおおよそ3000年続きました。この間、彼らはエジプトと、また実際にはアジア諸国の全てと接触していましたが、4期目の1000年を迎える頃、彼らの国は世界の他の地域から自己を追求する人達によって侵入を受けたのです。その当時、今日ギリシアやローマとして知られる領域から来て、レムリアに定住した人々が居ました。これらの人々は肌の色が薄い人種でした。彼らはレムリア人達の信頼を勝ち取り、彼らと混血し、次第にその幸せな人々の純粋な想念を墮落させて行きました。この外来の要素はゆっくりレムリアの支配権を獲得して行きました。彼らは厄介な恐ろしい支配者で、富と権力に対して貪欲でした。彼らはえこひいきを表し始め、レムリア人の心の中に不平等の考えを染み込ませて行きました。かつて人々が愛の行為として互いに尽くしあった所に、今や彼らは少数の者を富ませ、権限を与える為に奉仕することを強制されました。彼らは反乱の意味や利己主義、貪欲について学んだのです。彼らは支配者達の例示に従い、全ての者の為ではなく、自身の為に働くことを学んだのです。彼らは自分達の創造主の導きに対して自らを閉ざして死すべき表現の経路に向きを変えてしまいました。

【解説】

レムリアが3000年の繁栄を経たのち、やがて移り住み始めた白人達により貪欲や支配欲が浸透し、支配・被支配の仕組みが生まれるようになったと、著者は私達にレムリアの衰退の経過について語っています。これらの歴史は太古の遺物から明らかになるというようなものでなく、実際、その時代に人々が発した想念が宇宙に染み込み、それを後世の能力者が読み取ることによって明らかになると言わざるを得ません。アカシックレコードとはそのようなものと言えるでしょう。

本項の記述はしかし、今般私達自身に起こりつつあることと大変類似していることに驚かされます。著者アダムスキー氏存命中は未だそのような傾向は薄かったのですが、昨今では皆さまご存知の通り、世界中で少数のグローバル企業があらゆる情報や流通を支配し、富を独占する傾向にあります。私達は常に競争にさらされており、弱肉強食の市場原理こそが正義であるとされる時代になっているからです。

本項が示唆する状況は決して通りレムリアばかりの話でなく、現代の地球文明にも当てはまる部分が多いと言えるのではないのでしょうか。

202 This went on for several hundred years until at last the forces of nature demanded payment for their unbalanced conditions - the payment of suffering. They were given warnings of their future destruction if they continued in their unbalanced state but they heeded them not, so the elements turned against them. The earth became unsteady beneath their feet; tidal waves swept their shores and eventually a steady trembling took hold of the entire Lemurian country. For approximately seven months the earthquakes continued and gradually the land began to sink. The waters rushed in and covered the one-time Heavenly kingdom and another civilization was lost.

202 この状態は数百年進行し、遂に自然の諸々の力は彼らの不均衡な状態に対する代償、苦痛の償いを要求しました。彼らはもしそのような不均衡な状態を続けていたら将来は破滅するとの警告を受けていましたが、彼らはそれを心に留めることはありませんでした。その為、諸元素が彼らに反抗したのです。地面は彼らの足元で不安定となり、大波が彼らの海岸を一掃し、遂には間断の無い揺れが全レムリア国を支配しました。約7ヶ月その地震は続き、次第に大地は沈み始めました。水がなだれ込み、一時期天国のようであった王国と文明の一つが失われたのです。

【解説】

本項から分かるのは、自然界の忍耐も数百年が限度であるということでしょう。私達人間は過ちを犯すものですが、その修正の為の時間も有限であることは良く自覚すべきでありましょう。

やがてレムリア大陸は沈下を起こし、7ヶ月もの地殻の動きを経て太平洋の海深く沈んで行ったという訳です。これについてはかつて「日本沈没」という映画もあり、現代の私達にとっても将来大きな地殻変動を見据えることも必要となっているようです。

先にも述べましたように、山の頂にかつての海底の地層が存在することを考えれば、地球はこれまでも大きな変動を繰り返しており、その過程の中には太古の文明の滅亡の事例も多かったものと思われます。私達人間の放つ想念・印象に応じた大地の動きがあると解釈すべきかも知れません。それ故、神道では大地の神に安寧をひたすら祈ることを欠かさないのではないのでしょうか。

203 The earthquakes and the sinking of the continent were due to natural causes. A shift or change of the surface of the earth comes at certain intervals, but the people of Lemuria had become so immersed in the mortal world of effects that they paid no attention to the warnings given by nature. Had they been alerted to these signs they could have moved to safer territory.

203 地震や大陸の沈下は自然の原因によるものです。地球表面の移動や変化はある間隔でやって来ますが、レムリアの人々は結果である死すべき世界にどっぷり漬かってしまっていたために、彼らは自然によって与えられた警告に注意を払わなかったのです。彼らがこれらのサインに注目していれば、彼らはより安全な地域に移動することが出来たことでしょう。

【解説】

自然から発せられる警告は地震や火山の噴火等、具体的な事象もありますが、地下深く起こっている状態については、大地から発せられる印象・想念に頼る他ありません。

目に見える結果の世界のみに束縛されていると、それらの印象や気配に気付くことなく惰眠を貪り、或は自らの欲望の世情の中に関心が捕らえられ、このような繊細な印象に気付くことはないのです。

私達はこの大地に拠って地球に生きている訳であり、もっとその足元から来る印象類に鋭敏になることも必要です。更に言えばもっと地球自体に関心を向けること、古代の人々のように自然への信仰こそ根底に持たなければならぬのです。

204 In the bible of every race there is an account of creation and the suggestion of an Eden where man dwelt in the perfect state of being, but there is little more than the suggestion and it has been accepted by humankind as a beautiful bit of mythology that has an indifferent effect upon the progress of man in his present state of being. In the annals of consciousness, however, is revealed the truth concerning a race of God-men and their Edenic homeland.

204 あらゆる種族の聖典の中には、創造の記述と人間が完全な状況の中で暮らしていたエデンの園と呼ぶべきものの示唆が書かれています。それは示唆以上のものではなく、これまでは人間の今日の状態への進歩にとってどうでも良い程度の神話の美しい小片でしかないと言われて来ました。しかしながら、意識の年代記の中では、神人族とそれらのエデンの母国に関する真実が明かされています。

【解説】

本項で言う「神人」が太古の昔ユートピアに暮らしていた頃の人間を指すとすれば、以降の人間はむしろ自然活動や想念・印象に対する感受性の面からは大幅に退化しているとも言えるでしょう。あまりに物質への執着、金銭システムによる支配を受ける中で、そうなってしまったとも言うべきかも知れません。

太古における各々の民族の記憶は、神話や伝説としてその断片が伝わっていますが、日本でも古事記等に伝えられた物語の中で、当時の神人達が自然の恵みを受けて、実におおらかに暮らしていたことを知ることが出来ます。

もちろん、神人の時代に私達が復帰すべきとするものではありません。それらの時代においては人々はもっと目に見えない想念・印象の作用を自覚し、その効果を知り、自らを戒めていたことに現代の私達はもっと学ぶべきなのです。

205 This civilization was called the Triterian race and from the memory of those people rose the Triton God of the early Greeks. This Grecian god was pictured as half man and half fish, symbolically corresponding with the cosmic record which speaks of the Triterions as the "people of the waves." They were not, of course, half man and half fish but they were the masters of both the waters and the earth.

205 この文明はトリテリア族と呼ばれ、これらの人々への思い出から、初期ギリシャのトリトン神が起りました。このギリシャの神は半人半魚として描かれ、トリテリア人達を「波の人々」と称する宇宙的記憶に対応しています。彼らはもちろん半人半魚ではなく、水と大地の両方の支配者であったのです。

【解説】

私達日本人にとってギリシャ神話はやや遠い存在であり、トリトン神についても馴染みが無いものとなっています。それでも最近では東京オリンピックの関連地の東京晴海にトリトンを冠した近代ビルが建設される等、海に近いイメージとして用いられるようになって来ました。

さて、優れた神人であったトリテリアを「波の人」と称していることには、彼らが海はもちろん、あらゆる波動に対して感性の高い人々であったことが示唆されているように思います。

即ち、想念波、印象波に鋭敏であることが私達にとって最も重要な要素であり、進化の決めてであることが分かります。

206 Idealists have ofttimes visualized the perfect man as an etheric being who dwelt only in the planes of celestial glory and had powers to overcome the laws of nature, but we find the Triterians to be dwelling on the earth in physical bodies and cooperating fully with the laws of nature.

206 理想主義者達は、しばしば完全なる人間を天上の栄光の中にのみ暮らし、自然の諸法則を征服する力を持つ靈妙な存在のように思い描いて来ましたが、私達はこのトリテリア人達は肉体を持って地上に暮らし、自然の諸法則と完全に調和していたことに気づきます。

【解説】

本項は、そもそも天国とは何処にあるかという疑問にも通じる内容かと思われます。

私達はとかく天国とは何処か雲の上のユートピアと想像しがちですが、本項で著者が指摘する通り、神人であるトリテリア族はこの地上に暮らし、文字通り天国の生活を送っていたのです。

即ち、天国とはこうした創造主の意図と調和した地上を意味するものであり、私達は現在の地の上に建設すべきであるという訳です。その上で重要なのは、現状の地球が如何に汚れてしまったとしても、地球を支える宇宙的パワーは私達人間がその気になれば、思いも掛けない程、強力な浄化作用を示し、短時間の内に再び元のユートピアに戻してくれることです。地球の過去の地殻変動と文明興亡の歴史は、それを物語っているのではないのでしょうか。

207 These were large people and their color may be likened to our bronze or rust, which was probably caused by the intensity of the sun's rays which shone upon the earth at that time.

207 これら（訳注：トリテリア）の人々は大柄な人達で、彼らの肌の色は今日で言う赤褐色もしくははさび色に近いかも知れませんが、それはおそらく当時、地球を照らしていた太陽光の強さから引き起こされていたのかも知れません。

【解説】

トリトンはギリシャ神話では海神ポセイドンの息子ということになっているそうですが、私達日本人にはあまり馴染みのない存在です。しかし、ギリシャ神話として伝わっている以上は、地中海付近に由来があると思われませんが、本項では人種的には白人でなく赤褐色の民、丁度アメリカ原住民に近い民族であったようです。

これらの知見は書物として地上に残っていたものから得た知識ではなく、著者がアカシックレコードから読み取ったものと思われませんが、アダムスキー氏の書籍に記載されていることから、その内容は他惑星人からの確証を得ているものと考えべきでしょう。

いずれにしても、古代の地球については、私達の歴史的知識は実に貧しく自らの歩みについてほんのわずかな記憶しか持ち合わせていないのです。

208 These master-men were cosmic beings and during the time they spent in gaining their earthly experience they did not once separate themselves from the Totality. They worked with the elements of the earth as men work with them today but they understood the cause of their manifestations. They were sent to this solar system to partake of the knowledge of matter and this they did under the guidance of Cause Intelligence. This was easy for them to do for they were aware of the natural laws governing all action and they were wise enough to use their knowledge without perversion. The Law of Affinity held no mystery for these people and the elements obeyed their commands to the fullest. The earth was a perfect expression of Edenic beauty.

208 これら達人達は宇宙的な存在で、彼らが地球上の体験を得る為に過ごした期間中、彼らは一度として自分達を全体性から分離させたことはありませんでした。彼らは今日の人々が働くように地球の元素とともに働きましたが、彼らはそれら創造物の因を理解していました。彼らは知識にあずかる為、この太陽系に送られ、彼らは因の導きの下、これを行いました。これは彼らにとって容易でした。何故なら、彼らは全ての行動を支配する自然の諸法則について気付いており、彼らは自分達の知識を誤用することなく用いる程に賢明であったからです。その親和の法則は彼らにとって神秘ではなく、これらの諸元素は彼らの命令に完全に従いました。地球はエデンの美しさの完全な表現となっていたのです。

【解説】

トリテリアの民は実に素晴らしい生き方を貫いたと著者は私達に紹介しています。このトリテリアを含めて前項のレムリアをはじめとする太古の民族の興亡の歩みについては、地球という惑星の歴史を語る上で避けては通れない事項であり、アダムスキー氏も「空飛ぶ円盤の真相Flying Saucers Farewell」という初期の3部作の最期に自ら過去に執筆した原稿を掲載する中で述べている内容でもあります。

このように地球には様々な事情から多くの人々がその学びの場に移り住むべき惑星という役割があるのかも知れません。美しい環境、整った気候を与えられる中、いわば最高の環境の中で如何に自然と調和し、人間本来の暮らしを続けながら進化して行けるかが問われている訳でしょう。

その中でトリテリアの民のように本来の目的に沿って生き抜くことが出来た者もいる半面、レムリアのように滅んでしまった文明もあるということでしょう。そして再び、現代文明もこれらと同様な節目にさしかかろうとしているのです。

209 The Triterians had no religion as it is accepted today - they were a race of scientists, for they worked not on supposition or myth but on facts. They had no gods but recognized the all-intelligent force and themselves as expressers of it. They did not make the mistake of allowing their mortal mind to judge the creator for they understood cause and effect. They gave no thought to any division between themselves and the cosmic consciousness; they acted with a freedom and assurance of results. Therefore life was peaceful and harmonious. They were not bound by gods or devils for their only state of awareness was that of interblended action. They recognized the necessity of duality in creation but they did not separate the force into good and evil.

209 トリテリア人達には、今日認められているような宗教はありませんでした。彼らは科学者の種族であったのです。何故なら、彼らは想像や神話に基づいて働くことはなく、事実に基づいて働いていました。彼らには神がありませんが、全英知を認識し、自分達をその表現者であると自覚していました。彼らは自分達の死すべき心に創造主を裁かせる誤りをさせませんでした。何故なら彼らは因と結果を理解していたからです。彼らは自分自身と宇宙意識の間に如何なる分け隔てをするような想念を持ちませんでした。彼らは自由に、また結果を確信して行動しました。それ故、生命は平穏で調和あるものでした。彼らは神や悪魔に束縛されはしませんでした。彼らの知覚の唯一の状態は融和混合した行動のそれであったからです。彼らは創造における二元性の必要性を認識していましたが、その力を善と悪とに分離することはしなかったのです。

【解説】

本項は、現代文明の私達が過去には神秘主義や盲目的宗教から今度は一転して結果主義、物質主義に行き着いている状況等、トリテリアの民とは大きく異なる生き方をしていることを指摘しています。

トリテリアの民はいわば真心のある受容的な科学者であり、冷静に物事を観ることが出来ていたということでしょう。そして本項で具体的な側面を説くことで著者は私達に望ましい生き方の手本を示しているのです。

実際、トリテリアの民はわずかに神話の中にしか地球では記録されていませんが、アカシックレコードと呼ばれる宇宙の記録所にはそれらが誰でも学べる図書館のように整頓されているのかも知れません。

歴史を学ぶことは、かつての失敗を繰り返さない為、また成功例を手本とする為にこそ学ぶべきであり、過去の経験を今後に生かすことを通じて、私達は少しずつ賢くなるべきなのです。

210 Due to the lack of friction or resistance to the life force their bodies remained always youthful and death as we know it did not exist.

210 生命力に対する摩擦や抵抗が無い為、彼らの肉体は常に若々しく保たれ、私達を知るような死というものも存在しませんでした。

【解説】

本項を今日的な言葉で表現すれば、ストレスこそが全ての老化や疾病の原因であるということでしょう。また、その根本は単に心の葛藤や悩みということよりは、更に深く、宇宙的な生命波動との不調和に起因するのだと著者は私達に説いているのです。

このようにトリテリアの民は本来の人間の生き方を達成し、次なるステップに移行した人達ということが出来るのです。

211 There was no greed or selfishness among these masters of the earth. (In our terms of today we could say that they had achieved their Master's Degree in every subject.) They knew that the substance of the universe is unlimited and indestructible and that there would always be sufficient to meet every need. No man among them engaged himself in the accumulation of material wealth.

211 これら地球の達人達の間には貪欲や利己主義はありませんでした。（今日の私達の言葉を用いるならば彼らはあらゆるテーマにおいて修士の学位を達成したとすることが出来るでしょう。）彼らは宇宙空間の物質には際限が無く、破壊されることがないこと、そしてそれらは常にあらゆる需要に見合うに十分存在することを知っていました。彼らの中には誰一人として物質的な富を蓄積しようと忙しくする者はいなかったのです。

【解説】

現在、地球では急速に富が一部の富裕層に集中していると指摘されています。一握りの巨大IT会社の経営者がほとんどの富を得ているとするものです。一説には世界の富の82%が1%の富裕層に集中しているとも言われています。

こうした傾向は私達の社会が常に金儲けに走っていることを裏付けるもので、規模を拡大する程に利益も増すというものだからです。

一方、格差の生まれた社会の中では、争いや猜疑心が増長し、しいたげられた人達が追い詰められた生活を強いられているのです。

結局は、科学技術を発展させた私達の現代文明も、人々の心の中の強欲さを解決しない限り、遠くイエスの時代と何ら変わらない世情を生み出しているということではないでしょうか。それを解決する上で本項に記されているトリテリアの民が理解していたことやその心情こそ、私達にとって大いに学ぶべきものです。

212 There are no descendants of the Triterians, for they served their destined time on this planet earth and were transferred by space craft to another solar system. This is the race which dwelt upon the earth prior to the Biblical records. The fall of man was not brought about until the advent of the Lemurian race. The Triterians left the earth in a virgin state and went on for greater service, but all of the races who followed them are still endeavoring to regain their cosmic birthright. The Triterians worked with the cosmos through intuition and obedience; the other races have chosen to gain their perception through suffering and the observation of effects; living in the bondage of mortal concepts.

212 今日、トリテリア人達の末裔は居ません。何故なら彼らはこの惑星地球における彼らの定められた時間を勤め、別の太陽系に運ばれたからです。これは聖書の記録以前に地球に住んでいた民族です。レムリア族の出現までは人間の墮落はなかったのです。トリテリア人達は地球を原初の状態にして立ち去り、より大いなる奉仕の為に進んで行きましたが、彼らの後に続く全ての種族は未だに自分達の生まれながらの宇宙的な権利を取り戻そうともがいています。トリテリア人達は直観と従順さを通じて宇宙とともに働きましたが、他の種族は自らの認識を労苦と結果の観察を通じて得ることを選択し、死すべき概念の束縛の中に生きています。

【解説】

本項の記述からはトリテリアの民は計画的に地球に移住させられた後、再び別の惑星に移される等、私達をより高次の立場から司るスペースプログラムとも言うべき支援の中で、本来の進化の道を辿って行ったことが示唆されています。

即ち聖書時代のアダムとイブも含めて現代文明の私達も元はと言えば進化のステージとして地球に派遣された一族に過ぎず、またその進化の段階や抱える状況等について絶えず宇宙から観察（モニタリング）されていることになる訳です。

そう考えると1952年11月20日、アダムスキー氏がデザートセンターで他惑星人と会見した以降の一連の宇宙人との交流は、こうした観察の結果、地球人に来るべき時代に備えて、必要な知識を与える為に例外的に施されたスペースプログラムからの貴重な機会であったことが分かります。

213 Our return to our natural heritage shall be as glorious as that of the Triterians if we allow ourselves to awaken once more into the unification of all life!

213 もし私達が再び全生命の統合状態の中に自分自身を目覚めさせるなら、私達の自然の相続遺産への帰還はトリテリア人達と同様に輝かしいものとなるでしょう。

【解説】

今日では世界中にある多くの絶景や美しい自然環境を”世界自然遺産”として大切に守って行こうとするようになりました。その自然遺産を英語ではNatural Heritageと称しています。文字通り、創造主から贈られた美しく貴重な財産を守り継承して行くべきという認識がようやく高まった訳です。

本項は、私達地球人があらゆる命を分け隔てなく統合する中で自らを位置づけ、再び生命波動の中に身を投ずることによって、トリテリアの民と同様、素晴らしい民族に生長出来ると私達を励ましています。

宇宙哲学は、このように単に理論を学ぶだけでなく、各自の実践活動によって知覚力を因の世界まで拡大、融合する中で自らに用意されている美しい遺産を享受すべきであると著者は説いているのです。

214 The Brothers have told me that they have records that have been kept on their planet regarding the civilizations on the earth, and that these accounts of Lemuria and Triteria are correct.

214 宇宙兄弟達は地球上の諸文明に関して保存されて来た記録を彼らの惑星に持っていること、また、こうしたレムリアとトリテリアの記述は正しいと私に伝えてくれました。

【解説】

本項から分かるように、私達の太陽系の各惑星社会にはこの太陽系内で起こった様々な歴史が記録されているのです。本章で述べられているように地球には過去様々な人類が移り住み、暮らして来ましたが、それらの多くは滅びてしまった訳で、そのような文明の興廃の長い道程を辿って来た独特な惑星というのが、地球の姿なのでしょう。

おそらく今般も文明が滅ぶ目前に迫っているというのが昨今の情勢なのかも知れません。そうした中、時に応じて様々な支援が注がれて来ました。イエスの時もそうでしたし、1952年11月20日（ちなみに人類最初の水素爆弾実験が行われたのは1952年11月1日）以降の一連の他惑星人の支援活動もその一環であったと言えるのです。

果して、この支援を私達が活かして本来の生き方に改められるか否か、これからの時代の成否が掛かっているとと言えるでしょう。

19 THE PARABLE OF THE APPLE TREE

215 It was a warm evening, the discussion which for me was all absorbing overshadowed the beauty of the night, as we relaxed in a patio in suburban Los Angeles.

第19章 リンゴの木の寓話

215 それはある暖かな晩であり、私達はロス・アンジェルスの郊外のある中庭でリラックスしながら、私にとって全てがその夜の美しさをも陰らすほど夢中になる議論でした。

【解説】

本書（宇宙哲学）が出版されたのが1961年とされていることから、本章19章の内容はそれに近い頃の出來事と思われます。デザート・センターでの会見から10年弱が経過する中で、この間培われたアダムスキー氏と他惑星人との友情の中で、幾度かあった会合の一つであったことでしょう。

その中で、この宇宙哲学を締めくくる意味で、聖書に記されたリンゴの木の寓話の意味について話がなされたという訳です。

本章を読み進めるに当たって、私達が注目したいことは、私達と他惑星人とは基本的に何ら変わるものではなく、同じ人間であり、唯一、感情のコントロールや知識の深さ、想念印象波の感受力が異なるだけということです。アダムスキー氏の活動を陰で支えて来たのは彼らであり、アダムスキー氏は誠実に彼らのアドバイスに従って活動して来たという訳です。その結果、本書の刊行も含め、私達は彼らからの恩恵を受けていることに感謝しなければなりません。

216 Firkon and another gentleman had brought me to the home of some of their people who are living here.

216 ファーコンともう一人の紳士が私を、ここに住んでいる彼らの仲間の誰かの家に連れてきたのでした。

【解説】

本項の何気ない記述から、当時、ロス・アンジェルス近郊には、アダムスキー氏を支援する多くの他惑星人が密かに暮らしていたことが分かります。

その上でアダムスキー氏を実際にスカウトシップ（円盤）に乗せる段取りや母線でのマスターとの会見に結びつける等、密かな活動を行っていたという訳です。

文中に記されたファーコンは、アダムスキー氏が同乗記で述べている火星からの人で、アダムスキー氏を夜中、着陸中の円盤まで案内した人物であることは同乗記を読まれた方はご存知の通りです。

このように、同乗記以降も度々、アダムスキー氏は他惑星人の一団と交流を続け、自身の活動についてもアドバイスを受けて来たのです。

217 Firkon addressing me said, "We had planned to have you meet the One you call the Master, who we call the Wise One, but as those plans were not possible to carry through, He asked me to give you this parable to be shared with the people

217 ファーコンは私に話しかけてこう言いました。「私達は貴方を貴方がマスターと呼び私達が賢者と呼ぶ人物に逢わせようと計画して来ましたが、そうした計画が実行出来なかったため、その方から私がこの寓話を貴方に贈って人々に分かち合っ欲しいと頼まれたのです。」

【解説】

改めてこのマスター（長老）と呼ばれる人物が担う役割の大きさを感じさせる一節となっています。その意味は以前、何かのイエスの生涯の映画を観た時、弟子の一人がイエスに対して、「マスター」と呼びかけていたことを思い出すからです。

即ち、アダムスキー氏や仲間の他惑星人はこの長老をイエスと同様に「マスター」と呼んでいたことになり、同乗記の中で会った金星や土星の長老はイエスと同じレベルの方々であったことが分かります。また、アダムスキー氏自身と長老が会見することも容易なことではなく、様々な状況を調整した上で行われる必要があり、今回の場合は関係者の努力にも拘わらず実現しなかったということでしょう。その上で、宇宙哲学の完結にあたり、長老からこのリンゴの木の寓話がアダムスキー氏に贈られたという訳です。

218 "The apple tree lends itself very nicely as a symbol of creation and re-creation. The tree as a parent for the apple started from a seed within whose heart was the cosmic urge to express.

218 「リンゴの木というものは、創造と再創造の象徴として、大変良く自らを役立てています。そのリンゴにとって両親となる木は、その内部の芯の中に表現したいと促す宇宙的衝動がある一つの種からスタートしました。」

【解説】

果物は健康に良いということから、この頃は朝食として果物のサラダのようなものを食べておりますが、中でもリンゴは毎回欠かすことなく食べております。

そのリンゴは一本の木から実にたくさんの実をつけることは、ご存知の通りです。日本では青森や長野等の産地が有名ですが、古くは聖書時代に遡ることは皆さま良く知るところです。

リンゴの種はその実の大きさに比べて小さなものですが、リンゴの木も元はと言えばその一粒の種から生まれたもの、その種の中にはリンゴとしての全ての知識や生長の仕組みが備わっていることは驚くばかりです。

本項はファーコンに託された長老からの言葉として、その内容が語られている訳です。進化した他惑星人がリンゴの種の中に備わっている大きな可能性、知恵というものを如何に深く理解しているかを、本文から学ぶべきでしょう。種を見て、それがこれから発芽して偉大なリンゴの木になるぞという意気込みを他惑星人は感じ取ることが出来ているのです。

219 "From the bosom of mother earth the seed grows to a beautiful and productive tree expressing its full potential in bringing forth fruit. According to the seasons., tender new leaves grow into maturity, delicate blossoms proudly display their color and fragrance attracting pollen and the elements required for the growth of the individual apples. Slowly the blossoms release their beauty that the fruit bearing the re-creative seed may fulfill its purpose.

219 「母なる大地の胸元から、その種は一本の美しく、そして果実をもたらす完全な潜在力を表現する木に成長します。季節に従って柔らかな若葉は成熟へと成長し、繊細な花々はそれらの色や香りでひきつける花粉やその他の一つ一つのリンゴの成長に必要な要素を誇らしげに表現します。花々はゆっくり、その再創造の力を持つ種がその目標を成就する実を付けるよう、その美しさを解放するのです。

【解説】

リンゴの木は春には花を咲かせますが、その花は虫たちを呼び寄せ、花粉の受粉を促し、やがて実を付け成熟したリンゴを実らせませす。私達はこの一連の生長の過程を美しさの中に見ることが出来、遂には近くの店に並べられたその実を味わい、自然の営みに感謝するという訳です。

もちろん、リンゴの木はリンゴの実を実らせることを目指して、生涯のパターンを繰り返しているのですが、私達はリンゴを食べる際に、実はそのリンゴの実は私達の為だけに実をつけているのではないことに気付きます。即ち、新しい世代を造る為の種を生み出すことがその大きな役目でもあるからです。

通常、私達は植物の花を見て、その美しさや繊細な香りを愛でる訳ですが、植物にとっては種を残し、広めること、本文で長老が言う「再創造」の一環として生涯を送っていることに気付かなければなりません。

220 "When the fruit is fully mature it is either picked from the tree, or it drops to the ground - thus it is separated from the parent. If the apple were like man it would exult in its own beauty and free-will, developing the self ego in the world of effects only, forgetful of the Cause parent.

220 「その果実が完全に成熟する時、それは木からもぎ取られるか、地面に落ちることになります。そのように両親から離されます。もしリンゴを人間とするとしたら、それは自らの美しさに有頂天になり、自由意志は自己のエゴを結果の世界のみに発達させて宇宙的な両親を忘れさせることでしょう。」

【解説】

実は私達人間も母体から生まれ出る際には、このリンゴの実が成熟を遂げ、親の木から離れる時と同様ではないでしょうか。生まれて母体とは別に人格が与えられる際、赤子はその喜びに浸る一方で、次第に自分を体内で育てた母親を忘れ、外界の結果の世界に迷い出してしまうと、本項で他惑星の長老がその本質的見方を私達に提起しています。

もちろん、生まれ出た私達には、次々と問題が押し寄せ、判断を仰いで来ます。一つ一つを自らの責任で決定し、行動しなければなりません。こうした中、私達は本来、私達が一つの小さな細胞から生まれ来った創造の過程、自らの体験を何一つ忘れて、外界の世界のみに気を取られてしまった訳です。

私達がそもそも何の目的でこの世に有るのか等、各自の生まれ来た意義について、再度考える必要があるのです。

221 "Man has not experienced the full potential of his being, for he too is forgetful of his cause parent. As a result he wanders in a maze of effects, ever searching for that which has lasting value.

221 「人間は自分の存在の最大限の潜在能力を経験したことはありません。何故なら、彼もまた自分の因の両親を忘れたからです。結果として彼は結果の迷宮の中をさまよひ、価値が長続きするものを求めていつも探しているのです。」

【解説】

実はリンゴの実自身も親の木から離れた後は、自分自身の持つ潜在能力を忘れて結果の世界にさ迷うことを、この寓話は示しているという訳です。

実際の自然界のリンゴはそのようなことは無い一方で、私達人間は、生まれ出たその日から、自分の中にある知恵と能力に気付かないまま、外界の世界に答えを求めて来ているのです。本文で言う長続きする価値とは、貴金属や宝石、不動産、貨幣その他であるとして、皆、その安泰を目指して生きているのではないのでしょうか。

しかし、仏陀が言うように、こうしたものには不変の価値などというものは無く、移り行く存在でしかありません。唯一、宇宙に存在する真理の中にその価値を置くべきということでしょう。私達の細胞一つ一つにその真理を認め、共に生きることこそが大事と言えるでしょう。

222 "Untold opportunities are granted to man to return to his Father's household for there is no smallest part of essence or intelligence that is lost or is not ever active. When the garment known as the body, releases the flame of life to continue its activities elsewhere, the cell intelligence is busy changing the elements of the body into the dust from whence they came. But the flame of Cosmic Intelligence has found a new vessel which contains renewed energy, in which to express. Thereby continually granting to individualized portions of matter the opportunity to evolve to a higher state of service and understanding."

222 「人には自分の父の家庭に戻る為の明かされていない機会が認められています。何故なら、失われたり永久に活動しない真髓や英知はどんなに細かい部分と言えど無いからです。肉体として知られている衣服がその活動をその後何処かで続けるべく生命の炎を解き放つ時、細胞の知性は肉体の諸元素をそれらがやって来たチリに変化させるべく忙しくしています。しかし、宇宙的知性の炎はそれを表現すべき再生したエネルギーが入っている新たな容器を見つけています。その結果、各個人に分かれた物質に対して奉仕と理解においてより高い状態に進化する為の機会を与え続けているのです。」

【解説】

古来から、人間が死んだ後にどうなるのかにつて、様々な言い伝え、或いは神話があり、現代の私達の時代でも多くの宗教がその後の有様を私達に示しています。

一方、結果（物質）の世界にのみ足を置く現代人にとって、それらの教えには証拠が無いとして、退け今もって死の先には何も無いと考えています。

しかし、本項では進化した他の惑星人社会においては、期せずして太古の地球人が思っていたように、更なる生まれ変わりという新しい人生が私達各人に用意されていると説かれていることに注目しなければなりません。やがてはその生まれ変わりの事実も照明される日も来るに違いありません。その上で私達各人は目の前に続く長い道程を前にして、焦ることなくまた、断念することなく、その恵みに感謝しながら自らの人生の歩みを続けて行くべきなのです。

223 Firkon continued, "As we have told you before, your book of records that you call the Holy Bible, contains these laws that we tell you of, for did not Jesus the Christ say to the thief on the cross beside His, 'Verily I say unto thee, Today shalt thou be with me in paradise.'? * (Luke 23:43). Therein expressing immediate rebirth.

223 ファーコンは続けた。「私達が以前、貴方にお話したように、あなた方が聖書と呼ぶ記録の書には、私達が今お話しているこれらの法則が記述されています。何故なら、イエス・キリストは傍らの盗人に向かって『まさに私は汝に言うておく。本日、汝は私とともにパラダイスに居るだろう（ルカ23：43）』と言ったではありませんか。その言葉の中には即座の復活が表されているのです。」

【解説】

本項では、イエスもまた「生まれ変わり」について、自らが十字架に掛けられている最中に傍らに居た同じく十字架に掛けられた罪人からの問いかけに答えた言葉が記載されていると説かれています。

人間は死後、瞬時に転生することを、イエスは身をもって説いていたのです。

最近読んだ「これこそ聖骸布」（ガエタノ・コンプリ著、ドン・ボスコ社）の中に当時、行われていた極めて残忍な十字架刑の様子が記されていますが、イエスはそのような苦痛を前にされても確固たるご心境の下、隣の罪人達に死後再び新しい命として他の惑星（天国）に生まれ変わることを信ぜよと説いていたことが分かります。

それ程に、今後の私達にとっても、これから永遠に続く各自の人生の歩みについて想いを致すべき大きな知見というべき事柄が、この転生の原理であり、同様な事柄を仏陀も転生（カルマ）として説くところとなっているのです。

224 "Tomorrow you will be privileged to meet the one that you have known as your earthly wife. She is now a young woman living on Venus. She will not recognize you as her husband, but rather as a Cosmic brother. Neither will she wish to be reminded of her life upon earth, for her present life is free from the bondage of self and self interests."

224 「明日、貴方は貴方の地球での奥様であった方にお会いすることが許されるでしょう。彼女は今、金星で少女として生きています。彼女は貴方を夫としてではなく、宇宙的な兄妹の一人として受け止めることでしょう。また彼女は地球上での自分の人生を思い出したくとも思わないでしょう。何故なら、彼女の現在の生活は自己や自己の興味による束縛から自由になっているからです。」

【解説】

本項はその後公開されることとなる「金星旅行記」の中で、アダムスキー氏が実際に金星に渡航し、妻であったメリーと再会することになる経緯を伝える内容となっています。

とかく私達は地球での家族関係を「絆（きずな）」と称し、大切にしていますが、本文ではこれらの間柄をむしろ、「束縛」と表現していることに注意すべきかと思えます。

即ち、各個人が自らの人生を歩む上で、家族は一時期、共に暮らした仲間である一方、転生後までその間柄に束縛を受けるべきではないということでしょう。

一人の人格として更に成長する為には、新しい人生を歩みながら進化して行く必要があるという訳です。実はそれ程に、死は一つの時代から別の時代に移る大きな転換であり、私達は各自に用意されている新しい世界、新しい環境の下で各自の進化の道を歩むべきであるということです。

225 On the following day this promise was fulfilled. It was an experience that I shall never forget and proof positive that we never die.

225 翌日、この約束は果たされました。それは私が決して忘れることのない体験であり、私達が決して死ぬことはないという強い証でした。

【解説】

この「宇宙哲学」執筆の最終段階において、アダムスキー氏はかつての妻の転生先の金星に運ばれ、そこで再会することになったことは皆さま、ご存知の通りです。即ち、一連の著作を終え、アダムスキー氏自らの哲学の整理が出来た段階で、人間の生まれ変わりを確証させる為に、アダムスキー氏に贈られた他惑星人の計らいであった訳です。

言い替えば、アダムスキー氏にとって具体的に他の惑星に転生することを、その後、人々に説く上で、氏に自らの体験を持たせることが必要だと他惑星人が判断したということでしょう。実体験が重要であるということです。

もちろん私達各人にとって、今後他惑星人の協力を得て、このような亡くなった家族と転生先で再会するようなことは望むべくもありません。各自の感性を伸ばし、必要な知識・情報は自ら掴む他ありません。仏教では故人の成仏を祈るという表現がありますが、これは転生先で仏のような生活を送って欲しいという故人の幸せを願う気持ちを表すものです。

20 CONCLUSION

226 The old accepted thought patterns of people all over the world are changing rapidly. The underprivileged are crying for peace and equal rights with those who have enjoyed the good things of life. Even the orb of earth is shifting her position and yielding to the influences that are playing upon her body. There is nothing awesome or supernatural in this change, it is an urge that is felt by the earth and the inhabitants upon it at the change of every cycle.

第20章 結び

226 全世界の人々の古くから容認されて来た思考パターンは急速に変化しています。恵まれない人々は人生のうまい仕事を享受して来た者達と同じ平安と平等の権利を要求して叫んでいます。地球の球体でさえ、その位置を変えようとしており、その惑星体へ及ぼす影響を生み出しつつあります。この変化には何ら恐ろしいことでも、超自然的なことでもなく、それは毎回の周期の変化において地球と地球上の住人によって感じ取られる一つの衝動なのです。

【解説】

地上の全てが変化の時を迎えていると説く「宇宙哲学」の結びの言葉は、本書が執筆された1961年当時から私達の生活の基盤であるこの惑星全体が、やがて来る大きな変動期に差し掛かっていることを警告しています。

おそらく当時、本文を読んだ方々はあまり実感が無かったかも知れませんが、今日の私達にとっては、十分に納得できる内容です。年々大規模化し激しさを増す気候変動や火山の噴火、地震の頻発等々、これらは一概に地球温暖化などとひとくくりに説明することは出来ません。もっと大規模な変動期に私達が差し掛かっており、それを感じ取った人々が目覚めつつあるのです。

アダムスキー氏と他惑星人による一連の活動は、これら変動期に私達が備えられるよう、特別な意味を持って計画されたものと言えるでしょう。各自、本文で示唆されている地軸変化に対しても十分な備えを覚悟しなければならないのです。

227 We are in the Space Age and many of man's egotistical opinions will have to go to make room for our place as a member of the interplanetary family. Theories will be replaced with facts, and our perception will be broadened to encompass, to even so small a degree, the possibilities and purpose of life.

227 私達は宇宙時代の最中に居ますので、人間の自己中心的な意見は惑星間家族の一員としての私達の居場所を作り出す為にどけなければならないでしょう。諸理論は事実と置き換えられて私達の知覚は、ほんのわずかであったとしても、生命の諸々の可能性や目的を成し遂げるべく拡がることでしょう。

【解説】

本項から、本書が記された1961年当時、既に著者アダムスキー氏は私達が宇宙時代に突入しつつあることや、今後は地球人として惑星社会の一員としての自覚と生命に関するより深い洞察力を育むべきことを説いています。

その後60年余が経過した中、私達はようやく宇宙時代の扉を開きつつあるようです。放送や通信の面でもはや人工衛星は欠かせませんし、気象観測も大気圏外に打ち上げた衛星を活用する時代になりました。月や火星への探査も始まっています。

一方、温室効果ガスによる地球全体の気象変化や飽和状態にある核兵器、原子力発電所事故等、地球規模の課題も未解決のままとなっています。

もちろん、これらの問題は私達地球人の手によって解決を図るべきですが、それと同時に、私達各自の中で私達自身の今後の可能性を拡げること、生命への理解を深めることこそが、より以上に大切だと本項で著者は捉えているように思います。

228 Those who have accepted the reality of visitors from other planets are most desirous to meet these people and wonder how they can tell the real ones from the imposters.

228 他の惑星からの訪問者達の現実性を受け入れて来た人達は、これらの人々にとっても逢いたいと願っていますし、どのように本物を偽物から区別できるか思い巡らせています。

【解説】

他惑星人の存在を信じる人にとって、次なる課題は自らがそれらの人々に一度ならず会ってみたいと思うことは自然のことかと思えます。或いは他惑星人に会ったと告白する人の体験に耳を傾けたいとする気持も理解できます。

しかし、往々にしてこうした話題に入り込んで来るのは、ニセ者、ニセ情報であることが多いものです。せつかくの理解もニセの情報によって翻弄され、餌食になってしまつては元も子もない訳で、注意が必要です。

とかく私達は現状の諸問題をすべて他惑星人に解決してもらいたいと思いがちですが、各自の人生は自分で切り拓く必要があることも確かです。しかし、こうした中にあっても、他惑星人は彼らの宇宙船で私達の頭上を飛行し、私達を励ますことも忘れてはいないようです。ここ数年、UFOの目撃体験をされたと知らせてくれる方々も増えているように思うからです。

229 And the people may truly wonder, for our new friends will be recognized only by those who are consciously alerted to impersonal feelings; they will not be recognized by their personal appearance for they will be as any other person upon the street, but they may be known by their words which will be totally impersonal and without judgment of any condition or person.

229 そして人々は本当に思い巡らすことでしょう。何故なら私達の新しい友人達は非個人的なフィーリングに対し意識的に警戒している人にもみ認識されるだろうからです。彼らはその個人の外見からは認識されることはないでしょう。彼らは通りのその他の人と変わりはないものの、彼らが話す全くの非個人的で如何なる状況や人物に対しても裁きを持たない言葉によって気付かれるかも知れません。

【解説】

おそらくはアダムスキー氏が本書を執筆していた当時、氏の周囲には今日では考えられない程、多数の他惑星人が居たものと思われます。アダムスキー氏の協力者（コーワーカー）から伺って話の中にも多くの他惑星人の話が出て来ましたし、中には直接、それらの人々と交流があった話も聞いています。

特に印象に残っているのは、彼ら他惑星人は一般市民として暮らしていたことで、故エマ・マーチネリ女史によれば、彼女が知る一人は今で言う家電量販店の配達員のような仕事をしていたということです。つまりは、自ら持つ知識をひけらかすことなく、アダムスキー氏への支援という任務に従事していたという訳です。

同様なことは、かつてイエスが弟子を選ぶ時、湖の漁師からも指名したことが伝えられていますが、それも本人の持つ内面の資質や過去生にまでも見通した上でのことである訳で、見掛けや風貌によるものではありません。私達も真に他惑星人と交流を持つとするなら、内部の印象にこそ鋭敏であらねばならないのです。

230 Appearances! what imps of deception they are!

230 外見！それらは何という騙しの小悪魔でしょう。

【解説】

確か聖書には弟子達が復活したイエスを前にしても、気付かなかったという記載があったかと思えます。弟子達はかつてのイエスの外見にこだわり、復活したイエスの外見が僅かに異なっていたとしたら、気付かなかったことも有り得るのです。

実はそれほどに私達は外見に左右され、内面の本質に気付いていないのです。

このことは他惑星人を見分ける際にも言えることです。以前、アダムスキー氏の協力者の一人から、実際にあった話を伺いました。それはある小規模なミーティングでのことです。一人の女性に皆が着目したと言うのです。その物腰や発言等、誰もが彼女は他惑星人に違いないと気づき始めたと言うのです。

するとその女性は、おもむろに2本のタバコを出し、2本とも口にくわえたと言うのです。それを見た人達は、今度は彼女は頭がオカシイだけだと思い直して、離れて行ったとのこと。その協力者は私にそのような見せかけの振る舞いをすることで、人々の関心を外したのだと言っていました。他惑星人が私達地球人の特徴を良く知り、自分達が安全に地球で暮らす為に、よく注意していることが分かります。

231 Shall we know the space people by the miracles that they perform? Shall we acclaim a man Messiah because he may walk through fire unscathed or multiply a loaf of bread to feed a multitude? No, for there are many magicians who can to all appearances to the physical senses do the same; and did not the Christ say of the latter days of his dispensation, "False Christs and false prophets shall rise and shew signs and wonders to seduce if it were possible even the elect." So we cannot tell a man's true value by his ability to read our mind or perform works of magic.

231 私達は宇宙人達を彼らが演じる奇跡によって知ることになるのでしょうか。私達はその者が火傷を負うことなく火の中を歩き、あるいは大勢の者に食べさせる為、一個のパンを増やしたりすることで、その者を救世主と称賛することになるのでしょうか。いいえ。何故なら、肉体の感覚にとってこれら全ての見せ掛けの同じことが出来る多くのマジシャンが居るからです。また、キリストはその時代の晩年にこう言われました。「偽キリスト達と偽預言者達が起こり、選ばれた者をも出来れば誘惑しようと、しるしと不思議を示すだろう」と。ですから、私達は人の真の価値をその者が私達の心を読んだり、マジックの業を演じる能力によって語ることは出来ないのです。

【解説】

本項はこれから起こる一大変動期を前に、本講座を学ぶ皆さんに、奇跡を行って見せるような者に対して警戒するよう説いています。

とかく、不安定な世情において、私達は自らを導いてくれる存在を求める訳ですが、残念ながらそこを狙って来る邪悪な者も多いのが実状です。

迷える子羊は導き手に従うのが常ですが、私達はより賢明に相手の本質を見極めなければなりません。UFOの分野も多くの偽者があり、偽の超能力者もありました。それら偽者に従ってしまった結果、挫折して元も子も失い、それまでの理想を捨てて、どっぷり現世に浸ってしまった人も多いのも確かです。

私達は相手の本質をよく見極め、表層的なまやかさにダマされてはなりません。先ずはご自身の内なる感じを大切にすることが重要です。

232 The space people will speak of nothing but the practical life - a life that is established upon earth, for earth is an integral part of the universe - a life that is livable here and now, for if there is to be heaven it must be established upon earth. No visitor from another planet has yet given any teachings that were impossible to live in this world; they all work according to the law of the Cosmos which is itself practical. They, as the wayshowers who have come before, will teach nothing that is mysterious or fanatical nor will they deal in emotionalism. They will speak of the unity of all life by the Breath of the Cosmic Father expressing through the forms made of the substance of the Mother Planet.

232 宇宙人達は実生活についてのことしか語ることはないでしょう。それは地球上で確立された生活についてです。何故なら地球は宇宙の統括された一部分であり、今日ここに生きて行ける生涯であり、もし天国というものがあるとするなら、それは地上において打ちたてられなければならないからです。他惑星からの訪問者は誰一人この世界で活かすことが不可能な教えを授けることはありませんでした。彼らは全て、それ自身実用的である宇宙の法則に従って働いています。かつて訪れた導師としての彼らは神秘的なものや狂信的なものは何一つ教えることはありませんし、過激な感情を授けることはないでしょう。彼らは母なる惑星の物質から作られた形あるものを通じて表現されている父なる宇宙の息吹による全生命の一体性について語ることでしょう。

【解説】

この地球に生きる私達は、全て自分達の手だけでこの文明を築いてきたと思っていることでしょう。しかし、実際には要所要所で他惑星人からの支援があったこと、とりわけ精神面では殆どが他惑星人の支援によると言っても良いでしょう。

しかし、私達はこれら他惑星社会から遣わされた師をうっとりしく思い、ひどい場合には磔（はりつけ）にしてしまう等の暴挙をはたらいて来た訳です。

そしてまた、アダムスキー氏の場合も、せつかくの機会を表層的な「空飛ぶ円盤」問題に留め、本来の宇宙的生き方について学ぼうとする者は少なかったということでしょう。その証拠に、現在までアダムスキー氏の哲学書が出版され、読まれているのは米国ではなく、遠く離れた日本であるからです。これらの功績は故久保田八郎氏の貢献になるところ大ですが、同時に日本人の中にこうした統合的な宇宙観や人生観というものが根付いているからかも知れません。

いずれにしても、これからの宇宙時代には、本書のような広大な宇宙空間に生きる者の心構えが必要なのは言うまでもありません。

21 PRACTICE

233 An easy method that you may use if you wish to keep a check on your thoughts through the day is this:

第21章 実践

233 貴方が日常を通じて貴方の諸々の想念をチェックし続けたいと望むなら、貴方が用いることが出来る簡単な方法があり、それは以下の通りです。

【解説】

本項で説かれているのは、いわゆる「想念観察」と呼ばれる手法です。

日常の心が捉える想念・印象がどのようなものかと善悪の判定せず、ありのままを観察することが説かれています。

一連のアダムスキー哲学の中では、めずらしく具体的な手法として「宇宙哲学」の最後にこの内容が記されています。

別な言葉で言えば、「観想」という表現が相当するものと思われまし、ギリシア哲学、キリスト教、仏教においても共通する要点のようです。

これら一連の想念観察を通じて、私達は日常生活を送りながら、自らの心の感性を整えとともに、湧き起こる印象類に鋭敏になろうとしているのです。

234 Make a ledger -
On this side write

And on this side
Unselfish - Understanding.

Selfish
Thoughts that remind me

Disturbed
of my Cosmic Unity with All Life.

Dissatisfied

Judgment of others. Seeing effects not causes

Become the observer of your own mental process and place a check under the column representing your thoughts. At the end of the day tabulate your score. If this is done over a period of time you will find that your old thought habits that caused confusion and disorder in the mind and body have disappeared.

234 帳簿を作りなさい。

こちら側には以下の内容を記入 こちら側には以下の内容

非個人的—思いやり 利己的

全生命との宇宙的—一体性を思い 不安感

起こさせる想念類 不満

他人への裁き。因を観ずに結果を見ること

貴方自身の心のプロセスの観察者になって、貴方の想念を代表する列の下にチェックを入れます。一日の終わりに貴方の点数を集計して下さい。これがある期間為されますと、貴方は心と肉体にこれまで混乱と無秩序を引き起こして来た貴方自身の古い想念習慣が消失しているのに気付くことでしょう。

【解説】

これまでの経験上、私達の日常も多くは時々のマイナスの感情から大きく影響を受けています。もちろん、独りでもそうですが、家庭内においては、相手の影響も大きいものです。

各自が自らの心境を落ち着かせる努力をすることは、自分だけでなく、周囲への影響も大きいものです。そういう意味では各自のこのような想念観察の努力は社会全体にも良い効果をもたらすことになる訳です。

各自の生涯をどのようなものにするかは、ひとえにこのような自分との向き合い方を人知れず行っているかであり、その効果はその人の次なる人生に直結する功德となるのです。

IMPORTANT
INSTRUCTIONS

235 To get best results from this book, keep a pencil and a sheet of paper hand,
As you read each page and each line, jot down each impression that you receive. Do not read too much at one time.
Best results will be obtained by reading one page and then writing down all your impressions before proceeding on.
重要な説示

235 この本から最良の成果を得る為には、鉛筆と紙1枚を手を用意しなさい。貴方が各頁、各行を読み時、貴方が受け取った一つ一つの印象を書きとめなさい。一時にあまり多くを読んではいけません。最も良い成果は1頁読んだ後、先に進む前に貴方の得た全印象を書きとめることによって得られることでしょう。

【解説】

本章の内容は「宇宙哲学」の書籍本体に添付されていた付属書面ではありますが、アダムスキー氏の署名も記されており、「宇宙哲学」に関連した重要な指導メモとして添付されていたものと思われます。

前章では想念観察を私達の日常生活の中で自らが発し、受け入れる想念・印象をチェックすることの必要性が説かれていましたが、本章ではこの「宇宙哲学」本文を読む中で、得た印象を書き留めることで、それら印象の流れを明らかにし、宇宙的印象への感受性を高めるよう訓練せよと説いています。

実は本講座も同様な意味で、1段落ずつ毎日読む中で、私自身の中で涌いた印象を書き留めているものです。これら作業によって、あらゆる宇宙的印象に鋭敏になれると思いますし、ヒラメキも増すように思っておりますので、皆さまも是非お試し戴きたいと思います。

236 After you have read the whole book, read it again, This time you will notice that your impressions have changed, yet they will blend with the first impressions. This is the self-developing process. Read the book over and over, taking notes of your impressions each time. You will get new impressions with each reading.

236 一冊全部読み終わった後は、再び読むことです。今回は貴方の印象は違ったものになったと気付くでしょうが、それでもそれらの印象は最初の印象と混和したものになるでしょう。これが自己開発の手順です。その本を何度も何度も読んで、毎回貴方の印象類のノートをとることです。貴方は毎回読む毎に新しい印象を得ることでしょう。

【解説】

アダムスキー氏の死後、私達が他惑星社会に生きる為の基礎知識を学び、各自の人格を整える上で、氏が書き残した著作を学び、そこから正しい知識を身に付けることが益々重要な時期を迎えています。

おそらくアダムスキー氏の活動は、私達地球人にとって最も重要な岐路を前にいわば特例的な取扱として、他惑星社会が私達を支援した時期であったろうと思われれます。そしてその成果として残された著作物は、かつての仏陀が説いた教えが仏典として残り、イエスが話された言葉が聖書に残るように、私達にとって貴重なものとして取り扱うべきと考えます。

教師は去っても、その説く内容は幸いにも私達に十分に残されている訳で、私達はこれらの著作から多くを学ぶことが出来る訳です。

237 This shows that you are evolving higher and higher as you read the book. In this way you become your own teacher. Don't forget to keep notes at all times. Read these notes over from time to time and see how they blend with one another. Keep doing this until you no longer receive new impressions from the book.

237 このことは貴方はその本を読むに従って、より高く進化して行くことを示しています。このようにして貴方は貴方自身の教師になるのです。いつもノートを取り続けることを忘れないで下さい。時々はこちらのノートを読んで、それらが互いに如何に融合しているかを見ることです。このことを貴方がその本からもはや新しい印象を得なくなるまで続けるのです。

【解説】

「宇宙哲学」に記されている事項は、他惑星社会における社会規範や原理を説くものであり、整然とした体系の中で私達が生きるべき姿が記されています。

このような内容を単に読書として読むのは適切ではありません。一頁一頁、一行一行の内容がどのような事柄を意味しているのかを理解することが重要であり、単に記された言葉を暗記したり、一度に多くを読み込むことに意味はありません。

その頁、あるいはその段落から何を学ぶべきかを丁寧に紐解き、自らの経験に照らしてその意図を知り、自ら内容を整理することがより重要だと考えます。

もちろん、本文から学ぶことも多いのですが、更に言えば皆さまご自身の体験を蘇らせ、普遍原理を学ぶことが一層重要なことと言えるでしょう。自らの体験によって培われた知識こそ、永遠の記憶になるからです。

238 In the meantime you have written your own book. To continue in the development of yourself, follow the same process with the notes you kept as you went along. In this way you keep developing as long as you live without any further help. You are using your REAL SELF as the teacher of your present self. There is no end to learning in all fields of life if you use these methods.

GEORGE ADAMSKI

238 こうする内にも貴方はご自身の本を書いたことになるのです。貴方自身の発達を継続させる為にも貴方が進む際にノートをつけるという同じ手順に従うことです。このようにして貴方はそれ以上の助けを借りることなく、貴方が生き続ける限り、進歩し続けます。貴方は貴方の「真の自分」を貴方の今日の自己に対する教師として活用しているのです。もし貴方がこれらの手法を用いるなら、生命の全ての分野に学習の終りというものはないのです。ジョージ・アダムスキー

【解説】

何事につけ、ノートをつけることが大切だと説かれています。つまりは湧き起こる或は自分が同期できた宇宙を流れる想念・印象波をそのまま通り過ぎるのではなく、文字という結果に残して自らの宝とする訳です。

このようにして自分のアンテナを常に宇宙的な方向に向けることで、次第に自然とそのような想念波と融合できる体制が整うということでしょう。

また、時としてこのような想念・印象の跡を辿ることで自分自身の歩みについても確かめることが出来るという訳ですし、また他の人にとってもその足跡は参考となる筈です。このような流れに沿って歩むことが最善の道ではないかと私自身考えているところです。

以上で3周目の「宇宙哲学」を終了し、次回からは再び4周目の「生命の科学」に入る予定です。